

外国語学部 国際関係学科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	3
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	4
		1年			
	教養としての平和学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	5
		2年			
	家族の再生 閉講	2学期	2	2	
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	6
		2年			
	言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	7
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	8	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	9	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	10	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	11	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	12
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	13
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	14
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	15
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	19
		1年			
	自己管理論 山本 浩二	2学期	1	2	20
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博 他	1学期	1	2	21
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	22
	1年				
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	23	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	24	
	2年				
大学論・学問論 閉講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	25	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	26	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	統計を読む・統計をつくる	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)	1学期	1	1	27
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	28
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	29
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	30
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	31
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	32
	山本 浩二	1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)	1学期	1	1	33
	加倉井 美智子	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	34
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	35
	黒田 次郎	1年			
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	36	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	37	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	38	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	39	
磯貝 浩久	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	40	
鯨 吉夫	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) 鯨 吉夫	2学期	1	1	41
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	42
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I 伊野 憲治 他	1学期	1	2	43
		1年			
	教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	44
		1年			
	教養基礎演習I 小林 道彦	1学期	1	2	45
		1年			
	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	46
		1年			
	教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	47
		1年			
	教養基礎演習I 廣川 祐司	1学期	1	2	48
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	49
		1年			
	教養基礎演習I 伊原木 大祐	1学期	1	2	50
		1年			
教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	51	
	1年				
教養基礎演習II 伊野 憲治 他	2学期	1	2	52	
	1年				
教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	53	
	1年				
教養基礎演習II 日高 京子	2学期	1	2	54	
	1年				
教養基礎演習II 小林 道彦	2学期	1	2	55	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II 神原 ゆうこ	2学期	1	2	56
		1年			
	教養基礎演習II 徳永 政夫	2学期	1	2	57
		1年			
	教養基礎演習II 稲月 正	2学期	1	2	58
		1年			
	教養基礎演習II 廣川 祐司	2学期	1	2	59
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	60
		1年			
	教養基礎演習II 伊原木 大祐	2学期	1	2	61
		1年			
	教養基礎演習II 高西 敏正	2学期	1	2	62
		1年			
	教養演習AI 高西 敏正	1学期	2	2	63
		2年			
	教養演習AI 伊野 憲治 他	1学期	2	2	64
		2年			
	教養演習AI 日高 京子	1学期	2	2	65
		2年			
教養演習AI 小林 道彦	1学期	2	2	66	
	2年				
教養演習AI 神原 ゆうこ	1学期	2	2	67	
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	68	
	2年				
教養演習AI 伊原木 大祐	1学期	2	2	69	
	2年				
教養演習AII 伊野 憲治 他	2学期	2	2	70	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII	2学期	2	2	71
	徳永 政夫 他	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	72
	二宮 正人	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	73
	日高 京子	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	74
	小林 道彦	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	75
	神原 ゆうこ	2年			
	教養演習AII (防衛セミナー)	1学期	2	2	76
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	77
	稲月 正	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	78
	伊原木 大祐	2年			
	教養演習BI	1学期	3	2	79
	伊野 憲治 他	3年			
	教養演習BI	1学期	3	2	80
徳永 政夫 他	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	81	
日高 京子	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	82	
小林 道彦	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	83	
神原 ゆうこ	3年				
教養演習BI (防衛セミナー)	1学期	3	2	84	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	85	
伊原木 大祐	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII 徳永 政夫 他	2学期	3	2	86
		3年			
	教養演習BII 伊野 憲治 他	2学期	3	2	87
		3年			
	教養演習BII 二宮 正人	2学期	3	2	88
		3年			
	教養演習BII 日高 京子	2学期	3	2	89
		3年			
	教養演習BII 小林 道彦	2学期	3	2	90
		3年			
	教養演習BII 神原 ゆうこ	2学期	3	2	91
		3年			
	教養演習BII (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	92
		3年			
教養演習BII 稲月 正	2学期	3	2	93	
	3年				
教養演習BII 伊原木 大祐	2学期	3	2	94	
	3年				
プロジェクト演習I 見館 好隆	1学期	2	2	95	
	2年				
プロジェクト演習II 見館 好隆	2学期	3	2	96	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	97
		1年			
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	98
		1年			
地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	99	
	1年				
自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	100	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	101
		1年			
	現代人のこころ 税田 慶昭 他	1学期	1	2	102
		1年			
	数のたのしみ 閉講	集中	1	2	
		1年			
	私たちと宗教 関 一敏	2学期	1	2	103
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	104
		1年			
	ものがたりと人間 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	105
		1年			
	言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	106
		1年			
	芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	107
	1年				
文学を読む 福島 勲 他	2学期	1	2	108	
	1年				
戦争と人間 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	109	
	1年				
民主主義とは何か 大澤 津 他	1学期	1	2	110	
	1年				
人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	111	
	1年				
ジェンダー論 カ武 由美	1学期	1	2	112	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	113
		1年			
	共生の作法 二宮 正人 他	1学期	1	2	114
		1年			
	北九州学 日高 京子	2学期	1	2	115
		1年			
	市民活動論 休講	2学期	1	2	
		1年			
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	116
		1年			
	つながりの人間学 坂本 毅啓	1学期	1	2	117
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	118
		1年			
	現代社会の諸問題 西日本新聞社、基盤教育センター 神原ゆうこ	1学期	1	2	119
		1年			
	現代の国際情勢 山本 直 他	1学期	1	2	120
		1年			
	国際社会論 稲月 正	2学期	1	2	121
		1年			
国際紛争と国連 二宮 正人	1学期	1	2	122	
	1年				
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	123	
	1年				
開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	124	
	1年				
グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	125	
	1年				
テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	126	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際社会と日本 金 鳳珍	2学期	1	2	127
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	128
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	129
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	130
		1年			
	戦後の日本経済 土井 徹平	2学期	1	2	131
		1年			
	都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ものと人間の歴史 休講	1学期	1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	132
		1年			
	教養特講I 休講		1	2	
		1年			
教養特講II (セクシュアル・ライツ) 河嶋 静代	2学期	1	2	133	
	1年				
教養特講II (ホスピタリティ論) 西澤 健次 他	2学期	1	2	134	
	1年				
教養特講III (まなびと講座A) 眞鍋 和博	1学期	1	2	135	
	1年				
教養特講IV (まなびと講座B) 眞鍋 和博	2学期	1	2	136	
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	137
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	138
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	139
		1年			
	社会学 堤 圭史郎	1学期	1	2	140
		1年			
	人文地理学 外戸保 大介	2学期	1	2	141
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	142
		1年			
地誌学 外戸保 大介	1学期	1	2	143	
	1年				
日本国憲法 植木 淳	2学期	1	2	144	
	1年				
倫理学 清水 満	2学期	1	2	145	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	146
		1年			
	データ処理 山田 寛	1学期	1	2	147
		国1-1・国1-2・再履			
	データ処理 岩田 一男	1学期	1	2	148
		国1-3・国1-4・再履			
	データ処理 浅羽 修丈	2学期	1	2	149
		1学期未修得者再履			
	情報表現 中尾 泰士	2学期	2	2	150
		2年			
情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	151	
	2年				
情報表現 棚次 奎介	2学期	2	2	152	
	2年				
プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	153	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (国 1-A) 葛西 宏信	1学期	1	1	154
		国 1 - A			
	英語I (国 1-B) 永末 康介	1学期	1	1	155
		国 1 - B			
	英語I (国 1-C) 渡邊 嘉則	1学期	1	1	156
		国 1 - C			
	英語II (国 1-A) 永末 康介	2学期	1	1	157
		国 1 - A			
	英語II (国 1-B) 葛西 宏信	2学期	1	1	158
		国 1 - B			
	英語II (国 1-C) 渡邊 嘉則	2学期	1	1	159
		国 1 - C			
	英語III (国 1-A) デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	160
		国 1 - A			
	英語III (国 1-B) ロバート・マーフィ	1学期	1	1	161
		国 1 - B			
	英語III (国 1-C) デビッド・ニール・マクレラン	1学期	1	1	162
		国 1 - C			
	英語IV (国 1-A) デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	163
		国 1 - A			
英語IV (国 1-B) アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	164	
	国 1 - B				
英語IV (国 1-C) デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	1	1	165	
	国 1 - C				
英語V (国 2-A) 渡邊 嘉則	1学期	2	1	166	
	国 2 - A				
英語V (国 2-B) 杉山 智子	1学期	2	1	167	
	国 2 - B				
英語V (国 2-C) 伊藤 晃	1学期	2	1	168	
	国 2 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VI (国2-A) 渡邊 嘉則	2学期	2	1	169
		国2 - A			
	英語VI (国2-B) 伊藤 晃	2学期	2	1	170
		国2 - B			
	英語VI (国2-C) 杉山 智子	2学期	2	1	171
		国2 - C			
	英語VII (国2-A) デビッド・ニール・マクレラン	1学期	2	1	172
		国2 - A			
	英語VII (国2-B) デビッド・アダム・ストット	1学期	2	1	173
		国2 - B			
	英語VII (国2-C) ロバート・マーフィ	1学期	2	1	174
		国2 - C			
	英語VIII (国2-A) デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	2	1	175
		国2 - A			
	英語VIII (国2-B) デビッド・アダム・ストット	2学期	2	1	176
		国2 - B			
英語VIII (国2-C) アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	177	
	国2 - C				
英語IX (英中国3年) 永末 康介	1学期	3	1	178	
	英中国3年				
英語X (英中国3年) 葛西 宏信	2学期	3	1	179	
	英中国3年				
英語XI (英中国3年) ロバート・マーフィ	1学期	3	1	180	
	英中国3年				
英語XII (英中国3年) ロバート・マーフィ	2学期	3	1	181	
	英中国3年				
■第二外国語	中国語I 板谷 秀子	1学期	1	1	182
		国1 - A			
	中国語I (読替科目：中国語I) 小椋 吾郎	1学期	1	1	563
		国1 - B			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語I 野村 和代	1学期	1	1	183
		国1 - C			
	中国語II 板谷 秀子	2学期	1	1	184
		国1 - A			
	中国語II (読替科目：中国語II) 小椋 吾郎	2学期	1	1	564
		国1 - B			
	中国語II 野村 和代	2学期	1	1	185
		国1 - C			
	中国語III 馮 戦兵	1学期	1	1	186
		国1 - A			
	中国語III 王 農	1学期	1	1	187
		国1 - B			
	中国語III 葉 言材	1学期	1	1	188
		国1 - C			
	中国語IV 馮 戦兵	2学期	1	1	189
		国1 - A			
	中国語IV 王 農	2学期	1	1	190
		国1 - B			
中国語IV 葉 言材	2学期	1	1	191	
	国1 - C				
中国語V 野村 和代	1学期	2	1	192	
	国2 - A				
中国語V 板谷 秀子	1学期	2	1	193	
	国2 - B				
中国語V (読替科目：中国語V) 小椋 吾郎	1学期	2	1	565	
	国2 - C				
中国語VI 野村 和代	2学期	2	1	194	
	国2 - A				
中国語VI 板谷 秀子	2学期	2	1	195	
	国2 - B				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語VI (読替科目：中国語VI)	2学期	2	1	566
	小椋 吾郎	国2 - C			
	中国語VII	1学期	2	1	196
	張 景珊	国2 - A			
	中国語VII	1学期	2	1	197
	陳 振華	国2 - B			
	中国語VII	1学期	2	1	198
	王 晨	国2 - C			
	中国語VIII	2学期	2	1	199
	張 景珊	国2 - A			
	中国語VIII	2学期	2	1	200
	陳 振華	国2 - B			
	中国語VIII	2学期	2	1	201
	王 晨	国2 - C			
	上級中国語I	1学期	3	1	202
	唐 雋	英国済営比人3年			
	上級中国語II	2学期	3	1	203
	唐 雋	英国済営比人3年			
	上級中国語III	1学期	3	1	204
	王 占華	英国済営比人3年			
上級中国語IV	2学期	3	1	205	
王 占華	英国済営比人3年				
朝鮮語I	1学期	1	1	206	
金 光子	国1年				
朝鮮語II	2学期	1	1	207	
金 光子	国1年				
朝鮮語III	1学期	1	1	208	
チャン ユンヒャン	国1年				
朝鮮語IV	2学期	1	1	209	
チャン ユンヒャン	国1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語V 金 貞愛	1学期	2	1	210
		国2-1・2-2			
	朝鮮語V 金 光子	1学期	2	1	211
		国2-3・2-4			
	朝鮮語VI 呉 珠熙	2学期	2	1	212
		国2-1・2-2			
	朝鮮語VI 金 光子	2学期	2	1	213
		国2-3・2-4			
	朝鮮語VII 金 貞淑	1学期	2	1	214
		国2-1・2-1			
	朝鮮語VII 金 京姫	1学期	2	1	215
		国2-3・2-4			
	朝鮮語VIII 金 貞淑	2学期	2	1	216
		国2-1・2-1			
	朝鮮語VIII 金 京姫	2学期	2	1	217
		国2-3・2-4			
	上級朝鮮語I 金 貞淑	1学期	3	1	218
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語II 金 貞淑	2学期	3	1	219
		英中国済営比人3年			
上級朝鮮語III 金 貞愛	1学期	3	1	220	
	英中国済営比人3年				
上級朝鮮語IV チャン ユンヒャン	2学期	3	1	221	
	英中国済営比人3年				
ロシア語I ナタリア・シエストコーワ	1学期	1	1	222	
	中国1年				
ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	223	
	中国1年				
ロシア語III ナタリア・シエストコーワ	1学期	1	1	224	
	中国1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	225
		中国 1年			
	ロシア語Ⅴ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	226
		中国 2年			
	ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	227
		中国 2年			
	ロシア語Ⅶ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	228
		中国 2年			
	ロシア語Ⅷ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	229
		中国 2年			
	ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	230
		中国 1年			
	ドイツ語Ⅱ 山下 哲雄	2学期	1	1	231
		中国 1年			
	ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	232
		中国 1年			
	ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	233
		中国 1年			
	ドイツ語Ⅴ 山下 哲雄	1学期	2	1	234
		中国 2年			
ドイツ語Ⅵ 山下 哲雄	2学期	2	1	235	
	中国 2年				
ドイツ語Ⅶ 山下 哲雄	1学期	2	1	236	
	中国 2年				
ドイツ語Ⅷ 山下 哲雄	2学期	2	1	237	
	中国 2年				
フランス語Ⅰ 坂田 由紀	1学期	1	1	238	
	中国 1年				
フランス語Ⅱ 坂田 由紀	2学期	1	1	239	
	中国 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語III 山下 広一	1学期	1	1	240
		中国 1年			
	フランス語IV 山下 広一	2学期	1	1	241
		中国 1年			
	フランス語V 坂田 由紀	1学期	2	1	242
		中国 2年			
	フランス語VI 坂田 由紀	2学期	2	1	243
		中国 2年			
	フランス語VII ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	244
		中国 2年			
	フランス語VIII ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	245
		中国 2年			
	スペイン語I 青木 文夫	1学期	1	1	246
		中国 1年			
	スペイン語II 青木 文夫	2学期	1	1	247
		中国 1年			
	スペイン語III 辻 博子	1学期	1	1	248
		中国 1年			
スペイン語IV 辻 博子	2学期	1	1	249	
	中国 1年				
スペイン語V 辻 光博	1学期	2	1	250	
	中国 2年				
スペイン語VI 辻 光博	2学期	2	1	251	
	中国 2年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	252	
	中国 2年				
スペイン語VIII 辻 博子	2学期	2	1	253	
	中国 2年				
■留学生特別科目	日本語A 小林 浩明 金曜 2限 (火曜 2限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	254
		留学生 1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語 A 小林 浩明 金曜 3 限 (火曜 3 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	255
		留学生 1 年			
	日本語 A 清水 順子 火曜 2 限 (金曜 2 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	256
		留学生 1 年			
	日本語 A 清水 順子 火曜 3 限 (金曜 3 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	257
		留学生 1 年			
	日本語 B 徐 暁輝 水曜 2 限 (木曜 2 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	258
		留学生 1 年			
	日本語 B 徐 暁輝 水曜 3 限 (木曜 3 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	259
		留学生 1 年			
	日本語 B 清水 順子 木曜 3 限 (水曜 3 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	260
		留学生 1 年			
	日本語 B 清水 順子 木曜 2 限 (水曜 2 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	261
		留学生 1 年			
	日本語 C 小林 浩明 金曜 3 限 (火曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	262
		留学生 1 年			
	日本語 C 小林 浩明 金曜 2 限 (火曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	263
		留学生 1 年			
	日本語 C 則松 智子 火曜 3 限 (金曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	264
		留学生 1 年			
日本語 C 則松 智子 火曜 2 限 (金曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	265	
	留学生 1 年				
日本語 D 徐 暁輝 水曜 2 限 (木曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	266	
	留学生 1 年				
日本語 D 徐 暁輝 水曜 3 限 (木曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	267	
	留学生 1 年				
日本語 D 清水 順子 木曜 3 限 (水曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	268	
	留学生 1 年				
日本語 D 清水 順子 木曜 2 限 (水曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	269	
	留学生 1 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情(人文)A	1学期	1	2	270
	則松 智子	留学生 1年			
	日本事情(人文)B	2学期	1	2	271
	清水 順子	留学生 1年			
	日本事情(社会)A	1学期	1	2	272
	山崎 勇治	留学生 1年			
	日本事情(社会)B	2学期	1	2	273
	山崎 勇治	留学生 1年			
■専門教育科目 ■専門科目 ■A群(地域研究科目)	アメリカの政治I	1学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの政治II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの政治III	1学期	2	2	274
	川上 耕平	2年			
	アメリカの政治IV	2学期	2	2	275
	中野 博文	2年			
	アメリカの社会I	1学期	2	2	276
	北 美幸	2年			
	アメリカの社会II	2学期	2	2	277
	北 美幸	2年			
	イギリス研究I	1学期	2	2	278
	久木 尚志	2年			
	イギリス研究II	2学期	2	2	279
	久木 尚志	2年			
イギリス研究III	1学期	2	2		
休講	2年				
イギリス研究IV	2学期	2	2		
休講	2年				
中国の政治外交I	1学期	2	2	280	
下野 寿子	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目 ■A群 (地域研究科目)	中国の政治外交II 下野 寿子	2学期	2	2	281
	2年				
	韓国・北朝鮮の政治外交I 山田 良介	1学期	2	2	282
	2年				
	韓国・北朝鮮の政治外交II 宋 珉鎬	2学期	2	2	283
	2年				
	東アジア地域秩序論I 金 鳳珍	1学期	2	2	284
	2年				
	東アジア地域秩序論II 金 鳳珍	2学期	2	2	285
	2年				
	東アジア経済論 尹 明憲	1学期	2	2	286
	2年				
	アジア地域統合論 篠崎 香織	2学期	2	2	287
	2年				
■B群 (国際関係科目)	国際政治経済論I 阿部 容子	1学期	2	2	288
	2年				
	国際政治経済論II 阿部 容子	2学期	2	2	289
	2年				
	国際機構論I 山本 直	1学期	2	2	290
	2年				
	国際機構論II 山本 直	2学期	2	2	291
	2年				
	国際協力論I 大平 剛	1学期	2	2	292
	2年				
	国際協力論II 大平 剛	2学期	2	2	293
2年					
世界経済論I 尹 明憲	2学期	2	2	294	
2年					
世界経済論II 尹 明憲	2学期	2	2	295	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目 ■B群(国際関係科目)	国際人権論 山本 直	2学期	2	2	296
		2年			
	民族と国家 篠崎 香織	1学期	2	2	297
		2年			
地球環境論 松本 治彦	1学期	2	2	298	
	2年				
国際紛争論 西山 美久	1学期	2	2	299	
	2年				
■その他	英米文化概論I 久木 尚志	1学期	1	2	300
		1年			
	英米文化概論II 中野 博文 他	2学期	1	2	301
		1年			
	地域研究特講 ODU教員	集中	3	2	302
		3年			
	外国文献講読 齊藤 園子	1学期	3	2	303
	3年				
国際関係特講I 國谷 徹	集中	3	2	304	
	3年				
国際関係特講II 吉川 元	集中	3	2	305	
	3年				
■外国語科目 ■英語必修	英文法・英作文A 十時 康	1学期	1	1	306
		1年			
	英文法・英作文A 三宅 啓子	1学期	1	1	307
		1年			
	英文法・英作文A 吉田 楨子	1学期	1	1	308
		1年			
英文法・英作文A 齊藤 園子	1学期	1	1	309	
	1年				
英文法・英作文B 十時 康	2学期	1	1	310	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英文法・英作文B 三宅 啓子	2学期	1	1	311
		1年			
	英文法・英作文B 吉田 禎子	2学期	1	1	312
		1年			
	英文法・英作文B 齊藤 園子	2学期	1	1	313
		1年			
	English Practicum1A アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	314
		1年			
	English Practicum1A アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	315
		1年			
	English Practicum1A アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	316
		1年			
	English Practicum1A アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	317
		1年			
	English Practicum1B アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	318
		1年			
	English Practicum1B アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	319
		1年			
	English Practicum1B アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	320
		1年			
English Practicum1B アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	321	
	1年				
英語表現法A 薬師寺 元子	1学期	2	1	322	
	2年				
英語表現法A 齊藤 園子	1学期	2	1	323	
	2年				
英語表現法A 村田 希巳子	1学期	2	1	324	
	2年				
英語表現法A 齊藤 園子	1学期	2	1	325	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英語表現法B 薬師寺 元子	2学期	2	1	326
		2年			
	英語表現法B 齊藤 園子	2学期	2	1	327
		2年			
	英語表現法B 村田 希巳子	2学期	2	1	328
		2年			
	英語表現法B 齊藤 園子	2学期	2	1	329
		2年			
	English Practicum2A クリストファー・カーマン	1学期	2	1	330
		2年			
	English Practicum2A クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	331
		2年			
	English Practicum2A デニス・ジョーンズ	1学期	2	1	332
		2年			
	English Practicum2A デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期	2	1	333
		2年			
	English Practicum2B クリストファー・カーマン	2学期	2	1	334
		2年			
	English Practicum2B クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	335
		2年			
English Practicum2B デニス・ジョーンズ	2学期	2	1	336	
	2年				
English Practicum2B デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期	2	1	337	
	2年				
英語論文作成法I アルバート・オズカー・モウ	1学期	3	2	338	
	3 - 1				
英語論文作成法I デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期	3	2	339	
	3 - 2				
英語論文作成法I ポール・ガラフ・スティール	1学期	3	2	340	
	3 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英語論文作成法I デニス・ジョーンズ	1学期	3	2	341
		3 - 4			
	英語論文作成法II アルバート・オスカー・モウ	2学期	3	2	342
		3 - 1			
	英語論文作成法II デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期	3	2	343
		3 - 2			
	英語論文作成法II ポール・ガラフ・スティール	2学期	3	2	344
		3 - 3			
	英語論文作成法II デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	345
		3 - 4			
	English Practicum3A ジェイムズ・ヒックス	1学期	3	1	346
		3 - 1			
	English Practicum3A クリストファー・カーマン	1学期	3	1	347
		3 - 2			
	English Practicum3A デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期	3	1	348
	3 - 3				
English Practicum3A クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	349	
	3 - 4				
English Practicum3B ジェイムズ・ヒックス	2学期	3	1	350	
	3 - 1				
English Practicum3B クリストファー・カーマン	2学期	3	1	351	
	3 - 2				
English Practicum3B デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期	3	1	352	
	3 - 3				
English Practicum3B クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	353	
	3 - 4				
■専門基礎科目 ■必修	国際関係論I 阿部 容子	1学期	1	2	354
		1年			
	国際関係論II 大平 剛	2学期	1	2	355
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基礎科目 ■必修	国際関係史I 川上 耕平	1学期	1	2	356
		1年			
	国際関係史II 中野 博文 他	2学期	1	2	357
		1年			
■選択	地域研究入門 (アメリカ) 北 美幸	1学期	1	2	358
		1年			
	地域研究入門 (中国) 下野 寿子	1学期	1	2	359
		1年			
	地域研究入門 (朝鮮半島) 山田 良介	2学期	1	2	360
		1年			
	地域研究入門 (東南アジア) 篠崎 香織	1学期	1	2	361
		1年			
■演習科目 ■必修	入門演習I 国際関係学科教員	1学期	1	2	362
		1年			
	入門演習II 阿部・総田・北・金・中野・山本	2学期	1	2	363
		1年			
	専門演習I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	専門演習I 大平 剛	1学期	3	2	364
		3年			
	専門演習I 北 美幸	1学期	3	2	365
		3年			
	専門演習I 未定	1学期	3	2	
		3年			
専門演習I 金 鳳珍	1学期	3	2	366	
	3年				
専門演習I 阿部 容子	1学期	3	2	367	
	3年				
専門演習I 篠崎 香織	1学期	3	2	368	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	専門演習I	1学期	3	2	369
	下野 寿子	3年			
	専門演習I	2学期	3	2	370
	中野 博文	3年			
	専門演習I	1学期	3	2	371
	久木 尚志	3年			
	専門演習I	1学期	3	2	372
	山本 直	3年			
	専門演習I	1学期	3	2	373
	尹 明憲	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	374
	大平 剛	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	375
	北 美幸	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	
	未定	3年			
専門演習II	2学期	3	2	376	
金 鳳珍	3年				
専門演習II	2学期	3	2	377	
阿部 容子	3年				
専門演習II	2学期	3	2	378	
篠崎 香織	3年				
専門演習II	2学期	3	2	379	
下野 寿子	3年				
専門演習II	2学期	3	2	380	
中野 博文	3年				
専門演習II	2学期	3	2	381	
久木 尚志	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	専門演習II	2学期	3	2	382
	山本 直	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	383
	尹 明憲	3年			
	卒業研究演習I	1学期	4	2	384
	大平 剛	4年			
	卒業研究演習I	1学期	4	2	385
	総田 芳憲	4年			
	卒業研究演習I	1学期	4	2	386
	篠崎 香織	4年			
	卒業研究演習I	1学期	4	2	387
	下野 寿子	4年			
	卒業研究演習I	2学期	4	2	388
	中野 博文	4年			
	卒業研究演習I	1学期	4	2	389
	久木 尚志	4年			
	卒業研究演習I	1学期	4	2	390
	山本 直	4年			
	卒業研究演習I	1学期	4	2	391
尹 明憲	4年				
卒業研究演習I	1学期	4	2	392	
休講	4年				
卒業研究演習I	1学期	4	2	392	
阿部 容子	4年				
卒業研究演習I	1学期	4	2	393	
北 美幸	4年				
卒業研究演習I	1学期	4	2	394	
金 鳳珍	4年				
卒業研究演習II	2学期	4	2	395	
大平 剛	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	卒業研究演習II 綴田 芳憲	2学期	4	2	396
		4年			
	卒業研究演習II 篠崎 香織	2学期	4	2	397
		4年			
	卒業研究演習II 下野 寿子	2学期	4	2	398
		4年			
	卒業研究演習II 中野 博文	2学期	4	2	399
		4年			
	卒業研究演習II 久木 尚志	2学期	4	2	400
		4年			
	卒業研究演習II 山本 直	2学期	4	2	401
		4年			
卒業研究演習II 尹 明憲	2学期	4	2	402	
	4年				
卒業研究演習II 休講	2学期	4	2		
	4年				
卒業研究演習II 阿部 容子	2学期	4	2	403	
	4年				
卒業研究演習II 北 美幸	2学期	4	2	404	
	4年				
卒業研究演習II 金 鳳珍	2学期	4	2	405	
	4年				
■自由選択科目	英米文学概論I 齊藤 園子	1学期	1	2	406
		1年			
	英米文学概論II 齊藤 園子	2学期	1	2	407
		1年			
	中国近現代史I 堀地 明	1学期	1	2	408
		1年			
	中国近現代史II 堀地 明	2学期	1	2	409
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由選択科目	英語学概論 三宅 啓子	1学期	1	2	410
		1年			
	英語学研究(音声学・音韻論) 山内 ひさ子	2学期	2	2	411
		2年			
	アメリカの現代文学 新村 昭雄	2学期	2	2	412
		2年			
	イギリスの現代文学 田部井 世志子	1学期	2	2	413
		2年			
	アメリカの18-19世紀文学 新村 昭雄	2学期	2	2	414
		2年			
	イギリスの18-19世紀文学 高本 孝子	2学期	2	2	415
		2年			
	アメリカ文化論 ダニエル・ストラック	2学期	2	2	416
		2年			
	北ユーラシアの民族と社会 芳之内 雄二	2学期	2	2	417
		2年			
	時事中国語講読I 白石 麻保	1学期	2	2	418
		2年			
	時事中国語講読II 白石 麻保	2学期	2	2	419
		2年			
中国社会経済史I 山本 進	1学期	2	2	420	
	2年				
中国社会経済史II 山本 進	2学期	2	2	421	
	2年				
環大西洋の社会史 寺田 由美	2学期	2	2	422	
	2年				
近現代の南欧世界 岡住 正秀	2学期	2	2	423	
	2年				
西洋政治史 五月女 律子	2学期	1	2	424	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■自由選択科目	途上国開発論	1学期	2	2	425
	三宅 博之	2年			
	アジア地域社会論	2学期	2	2	426
	三宅 博之	2年			
	フィールドワーク論	1学期	2	2	427
	木下 靖子	2年			
	環境社会学	2学期	2	2	428
	岩松 文代	2年			
	ロシアの歴史と社会	1学期	2	2	429
	西山 美久	2年			
	環境政策論	2学期	2	2	430
	申 東愛	2年			
	政策調査論	2学期	2	2	431
	横山 麻季子 他	2年			
	政策過程論	1学期	2	2	432
	申 東愛	2年			
	上級英語A	1学期	3	2	433
	スコット・ビュー	3年			
	上級英語B	2学期	3	2	434
スコット・ビュー	3年				
地域統合論	2学期	2	2	435	
五月女 律子	2年				
自治体政策研究	2学期	2	2	436	
楢原 真二	2年				
国際法I	1学期	2	2		
休講	2年				
国際法II	2学期	2	2		
休講	2年				
中国歴史社会研究I	1学期	3	2	437	
山本 進	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■自由選択科目	中国歴史社会研究II 山本 進	2学期	3	2	438
		3年			
	ビジネス中国語A 唐 雋	1学期	3	2	439
		3 - 1, 3 - 2			
	ビジネス中国語A 唐 雋	1学期	3	2	440
		3 - 3, 3 - 4			
	ビジネス中国語B 唐 雋	2学期	3	2	441
		3 - 1, 3 - 2			
	ビジネス中国語B 唐 雋	2学期	3	2	442
		3 - 3, 3 - 4			
■自由科目	アメリカ経済 山崎 好裕	2学期	3	2	443
		3年			
	環境経済学 牛房 義明	1学期	3	2	444
		3年			
	国際貿易論I 水戸 康夫	1学期	3	2	445
		3年			
	国際貿易論II 水戸 康夫	2学期	3	2	446
		3年			
	法学総論 山口 亮介	1学期	1	2	447
		1年			
政治学 濱本 真輔	1学期	1	2	448	
	1年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	449
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	450
		1年			
発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	451	
	2年				
教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	452	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	英語科教育法 A	1学期	2	2	453
	森 千鶴	2年			
	英語科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	英語科教育法 B	2学期	2	2	454
	森 千鶴	2年			
	社会科教育法 A	1学期	2	2	455
	下地 貴樹	2年			
	社会科教育法 B	2学期	2	2	456
	下地 貴樹	2年			
	公民科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	公民科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	道徳教育の研究	2学期	2	2	457
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	458
	楠 凡之	2年			
教育方法学	1学期	2	2	459	
黒田 耕司	2年				
教育工学	2学期	2	2	460	
大塚 一徳	2年				
教育実習 1	2学期	3	2	461	
黒田 耕司 他	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	462	
恒吉 紀寿 他	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	463	
恒吉 紀寿 他	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	464
	2年				
	生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	465
	2年				
	教育制度論 見玉 弥生	1学期	3	1	466
	3年				
	教育課程論 見玉 弥生	1学期	3	1	467
	3年				
	英語科教育法C クレイグ・ランバート	1学期	2	2	468
	2年				
英語科教育法D 雪丸 尚美	2学期	2	2	469	
2年					
社会科教育法C 休講	1学期	2	2		
2年					
社会科教育法D 休講	2学期	2	2		
2年					
教職実践演習(中・高) 休講	2学期	4	2		
4年					
■選択科目	教育心理学 五十嵐 亮	2学期	2	2	470
	2年				
	教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	471
	3年				
	障害児の心理と指導 休講	2学期	2	2	
2年					
教育社会学 作田 誠一郎	集中	2	2	472	
2年					
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	473
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	2学期	1	2	474
		1年			
	家族を問う 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	475
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	476
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	477
		1年			
	教養としての平和学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	家族の再生 閉講		2	2	
		2年			
文化と政治 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
言語と認知 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	478	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
■スキル科目 メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	479	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	480
	中島 俊介	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	481
	山本 浩二	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	自己管理論		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	キャリア・デザイン		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	コミュニケーションと思考法		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	プロフェッショナルの仕事		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	大学論・学問論		1	2	
	閉講	1年			
法律の読み方		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
社会調査		2学期	1	2	
休講	1年				
統計を読む・統計をつくる		1	2		
閉講	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)		1学期	1	1	
休講	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)		2学期	1	1	482
徳永 政夫	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	483
	二宮 正人	1年			
	教養基礎演習II		1	2	
(昼のみ開講)	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習AⅡ (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習BⅠ (昼のみ開講)		3	2	3年
	教養演習BⅡ (昼のみ開講)		3	2	3年
	プロジェクト演習Ⅰ (昼のみ開講)		2	2	2年
	プロジェクト演習Ⅱ (昼のみ開講)		3	2	3年
■テーマ科目	自然学のまなざし (昼のみ開講)		1	2	1年
	動物のみかた (昼のみ開講)		1	2	1年
	地球の生いたち 休講	2学期	1	2	1年
	自然史へのいざない (昼のみ開講)		1	2	1年
	くらしと化学 (昼のみ開講)		1	2	1年
現代人のこころ 森永 今日子	1学期	1	2	1年	484
数のたのしみ 閉講		1	2	1年	
私たちと宗教 (昼のみ開講)		1	2	1年	
思想と現代 休講	1学期	1	2	1年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間		1	2	
	閉講	1年			
	文化と表象		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	言語とコミュニケーション		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	芸術と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文学を読む	2学期	1	2	
	休講	1年			
	戦争と人間		1	2	
	閉講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	485
	重松 博之	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	
	休講	1年			
	人権論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	
	休講	1年			
障がい学	2学期	1	2	486	
伊野 憲治 他	1年				
共生の作法		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
北九州学		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
市民活動論	2学期	1	2	487	
西田 心平	1年				
企業と社会	1学期	1	2		
休講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学 (昼のみ開講)		1	2	488
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	488
		1年			
	現代社会の諸問題 (昼のみ開講)		1	2	488
		1年			
	現代の国際情勢 休講	1学期	1	2	488
		1年			
	国際社会論 稲月 正	2学期	1	2	489
		1年			
	国際紛争と国連 休講	2学期	1	2	489
		1年			
	民族・エスニシティ問題 (昼のみ開講)		1	2	489
		1年			
	開発と統治 休講	2学期	1	2	489
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	490
		1年			
	テロリズム論 (昼のみ開講)		1	2	490
		1年			
国際社会と日本 金 鳳 珍	2学期	1	2	491	
	1年				
歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	492	
	1年				
歴史の読み方II 小林 道彦	2学期	1	2	493	
	1年				
そのとき世界は (昼のみ開講)		1	2	493	
	1年				
戦後の日本経済 (昼のみ開講)		1	2	493	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	ものと人間の歴史		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	人物と時代の歴史	1学期	1	2	494
	山崎 勇治 他	1年			
	教養特講I		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	教養特講II		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
教養特講III		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
教養特講IV		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
■教職関連科目	日本史	2学期	1	2	495
	内山 一幸	1年			
	西洋史	1学期	1	2	496
	疇谷 憲洋	1年			
	東洋史	2学期	1	2	497
	藤野 月子	1年			
	社会学	1学期	1	2	498
	堤 圭史郎	1年			
	人文地理学	2学期	1	2	499
	外护保 大介	1年			
土地地理学	1学期	1	2	500	
野井 英明	1年				
地誌学	1学期	1	2	501	
外护保 大介	1年				
日本国憲法	1学期	1	2	502	
植木 淳	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学	2学期	1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	503
	中尾 泰士	1年			
	データ処理	2学期	1	2	504
	中尾 泰士	1学期末修得者再履・夜間主コース			
	データ処理	1学期	1	2	505
	廣渡 栄寿	群・再履・夜間主コース			
	情報表現	1学期	2	2	506
	浅羽 修丈	2年			
	プログラミング基礎		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (国夜1年)	1学期	1	1	507
	杉山 智子	国夜1年			
	英語II (国夜1年)	2学期	1	1	508
	杉山 智子	国夜1年			
	英語III (国夜1年)	1学期	1	1	509
	クリストファー・オサリバン	国夜1年			
英語IV (国夜1年)	2学期	1	1	510	
クリストファー・オサリバン	国夜1年				
英語V (国夜2年)	1学期	2	1	511	
	伊藤 晃	国夜2年			
英語VI (国夜2年)	2学期	2	1	512	
	伊藤 晃	国夜2年			
■第二外国語	中国語I	1学期	1	1	513
	一木 達彦	国夜1年			
	中国語II	2学期	1	1	514
一木 達彦	国夜1年				
中国語III	1学期	1	1	515	
	王 占華	国夜1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅳ	2学期	1	1	516
	王 占華	国夜 1年			
	朝鮮語Ⅰ	1学期	1	1	517
	金 貞愛	国夜 1年			
	朝鮮語Ⅱ	2学期	1	1	518
	金 光子	国夜 1年			
	朝鮮語Ⅲ	1学期	1	1	519
	金 貞愛	国夜 1年			
	朝鮮語Ⅳ	2学期	1	1	520
	金 京姫	国夜 1年			
	ロシア語Ⅰ	1学期	1	1	521
	ナタリア・シエストコーワ	中国夜 1年			
	ロシア語Ⅱ	2学期	1	1	522
	芳之内 雄二	中国夜 1年			
	ロシア語Ⅲ	1学期	1	1	523
	ナタリア・シエストコーワ	中国夜 1年			
	ロシア語Ⅳ	2学期	1	1	524
	芳之内 雄二	中国夜 1年			
	ドイツ語Ⅰ	1学期	1	1	525
	山下 哲雄	中国夜 1年			
ドイツ語Ⅱ	2学期	1	1	526	
山下 哲雄	中国夜 1年				
ドイツ語Ⅲ	1学期	1	1	527	
山下 哲雄	中国夜 1年				
ドイツ語Ⅳ	2学期	1	1	528	
山下 哲雄	中国夜 1年				
フランス語Ⅰ	1学期	1	1	529	
福島 勲	中国夜 1年				
フランス語Ⅱ	2学期	1	1	530	
福島 勲	中国夜 1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語III	1学期	1	1	531
	福島 勲	中国夜 1年			
	フランス語IV	2学期	1	1	532
	福島 勲	中国夜 1年			
	スペイン語I	1学期	1	1	533
	岡住 正秀	中国夜 1年			
	スペイン語II	2学期	1	1	534
	岡住 正秀	中国夜 1年			
	スペイン語III	1学期	1	1	535
	岡住 正秀	中国夜 1年			
	スペイン語IV	2学期	1	1	536
	岡住 正秀	中国夜 1年			
■自由選択科目	西洋政治史		1	2	
	休講	1年			
	途上国開発論		2	2	
	休講	2年			
	アジア地域社会論		2	2	
	休講	2年			
	フィールドワーク論	集中	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	環境社会学		2	2	
	昼のみ開講	2年			
	環境政策論		2	2	
	休講	2年			
政策調査論		2	2		
休講	2年				
政策過程論		2	2		
休講	2年				
地域統合論		2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由選択科目	自治体政策研究		2	2	
	休講	2年			
	国際法I	1学期	2	2	537
	二宮 正人	2年			
	国際法II	2学期	2	2	538
	二宮 正人	2年			
	アメリカ経済	2学期	3	2	
	休講	3年			
	環境経済学	1学期	3	2	
	休講	3年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	539
	山口 実	3年			
国際貿易論II	2学期	3	2	540	
山口 実	3年				
■自由科目	法学総論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	政治学		1	2	
	休講	1年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	541
	黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	542
	見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	543
	税田 慶昭	2年			
	教育制度	1学期	3	2	544
	見玉 弥生	3年			
	英語科教育法A	1学期	2	2	545
	森 千鶴	2年			
英語科教育法B	2学期	2	2	546	
森 千鶴	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	社会科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	公民科教育法 A	1学期	2	2	547
	下地 貴樹	2年			
	公民科教育法 B	2学期	2	2	548
	吉村 義則	2年			
	道徳教育の研究	2学期	2	2	549
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	550
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	1学期	2	2	551
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	552
	大塚 一徳	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	553
	黒田 耕司	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	554
	恒吉 紀寿	4年			
教育実習 3	1学期	4	2	555	
恒吉 紀寿	4年				
教育相談	1学期	2	2	556	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	557	
楠 凡之	2年				
教育制度論	1学期	3	1		
休講	3年				
教育課程論	1学期	3	1		
休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法C	1学期	2	2	
	休講	2年			
	英語科教育法D	2学期	2	2	
	休講	2年			
	社会科教育法C	1学期	2	2	558
	山本 尚史	2年			
	社会科教育法D	2学期	2	2	559
	下地 貴樹	2年			
	教職実践演習(中・高)	2学期	4	2	560
	楠 凡之 他	4年			
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育法規	2学期	3	2	
	休講	3年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	561
	村上 太郎	2年			
教育社会学	1学期	2	2		
休講	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	562
	弓野 勝族	2年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第1部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
- 第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
- 第4回 近代家族 / 伝統的家族？
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと文化
- 第7回 伝統について：構築主義と本質主義
- 第8回 文化相対主義の考え方
- 第9回 中間試験

- 第II部 文化と世界観
- 第10回 現代社会における儀礼と文化的な空間認識
- 第11回 宗教紛争と日常の中の宗教
- 第12回 不幸への対処としての呪術
- 第13回 中間試験の講評 / 政教分離
- 第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります(ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが)。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われますが、本当にそうなのでしょうか？安易なイフの設定はたしかに禁物ですが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるでしょう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】【日英同盟】
- 4回 伊藤博文が暗殺されなかったら？ - 韓国併合回避の可能性はあったか - 【山県有朋】
- 5回 明治天皇がもっと長生きしていたら？ - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】【大正政変】
- 6回 日本が第一次世界大戦に参戦しなかったら【ニカ条要求】
- 7回 原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 張作霖爆殺 - その真の目的はなにか - 【護憲三派内閣】
- 9回 若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 2・26事件が未然に防げたら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？【ヒトラー】
- 12回 日独伊ソ四国協力が成立していたら？【独ソ戦】
- 13回 日米英戦争は不可避だったのか？【日独伊三国軍事同盟】
- 14回 鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？【本土決戦】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。
相当量の板書をするので、ノートはこまめにとるように心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半は私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行い、文化を理解することについて考察を深める。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第I部 現代社会において異文化を理解すること
- 第2回 文化を「知っている」とはどういうことか？
- 第3回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第4回 植民地主義と文化
- 第5回 ナショナリズムと文化
- 第6回 先住民・少数民族の文化に関して
- 第7回 多文化主義の可能性と限界
- 第8回 分類の不明瞭さ：国籍・人種
- 第9回 中立・公平は可能か？
- 第10回 中間テスト

第II部 他者の内側

- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識
- 第12回 身体の近代化
- 第13回 中間テストの講評
- 第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体
- 第15回 癒しの多様性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%

そのほか講義中に課した提出物なども平常点として評価に加える。受講人数によっては試験をレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 中間試験を無断欠席した学生は、評価割合をこえて厳しく減点することもあります。
- ・ 出席しただけでは評価しません。講義にはほとんど出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります(ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが)。出席することより理解することを心がけてください。わからないことについての質問は歓迎します。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

文化と政治【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何ともありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% × 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。
集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていききたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 戦争概論
- 第3回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第4回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第5回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第6回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第7回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化
- 第8回 両大戦の特徴(3)全面化
- 第9回 日本と原爆(1)原爆の開発過程
- 第10回 日本と原爆(2)原爆の完成と投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。ただし、「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (5) 【分業体制】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界論のはじまり(1) 【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(例年2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。黒板に板書した情報はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを思想的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が以前よりも総合的に理解できるようになるだろう。また本授業は、古代から近代にかけての哲学的身体論の基本パターンを体系的に学べるようプログラムされている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 日本的身体のイメージ 1【九鬼周造】
- 3回 日本的身体のイメージ 2【溝口健二】
- 4回 近代哲学における心身二元論の成立
- 5回 古代ギリシャの身体観 1【プラトンからホメロスへ】
- 6回 古代ギリシャの身体観 2【『オイディプス王』】
- 7回 古代ギリシャの身体観 3【通時的総括】
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 ドイツ表現主義と身体
- 10回 現代社会と身体の規律 1【『メトロポリス』】
- 11回 現代社会と身体の規律 2【シユレーバー】
- 12回 現代社会と身体の規律 3【ヒトラー】
- 13回 現代社会と身体の規律 4【オーウェル】
- 14回 現代社会と身体の規律 5【『1984年』】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

期末テストは授業範囲すべてに関わるものであり、比較的密度の濃い内容となるので、(当たり前のことだが)休めば休むほど成績上不利になる。単位取得のためには、かなりの努力と忍耐力が求められるだろう。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 規律と監視

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）

- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
- 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
- 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
- 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
- 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
- 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
- 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
- 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
- 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
- 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
- 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
- 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
- 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガ -】
- 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
- 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

メンタル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。(自己管理) 2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる(思考判断) 3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる(生涯学習)。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 子安増生編「心が活きる教育に向かって...幸福感を紡ぐ心理学・教育学」ナカニシヤ出版
- ・ 古宮昇著「しあわせの心理学」ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスII【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【自己分析のわな】
- 3回 暴力と非暴力1【ストーリーの心理】【児童虐待】
- 4回 暴力と非暴力2【戦争と平和】【非暴力コミュニケーション】
- 5回 人間の発達と自己形成【コフート理論】
- 6回 ネガティブ感情への対応1...感情の働きについて【不安と憂鬱感情】
- 7回 ネガティブ感情への対応2...感情の目的について【怒りの感情】
- 8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回 他者理解について。他人の価値観を理解する【人権感覚】
- 10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。【感謝】
- 11回 心が軽くなるとは。森田療法や東洋の人間観から【あるがまま】
- 12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回 働くとはどういう事か。心理的健康と社会的健康。【社会的健康】【キャリアプランと心の健康】
- 14回 地域や世界の心の健康を考える。【ワークライフバランス】【環境】【格差】
- 15回 まとめと今後の課題【ボランティア活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の手配を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習) レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の手配を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 自己管理I 総論【心理学】：青年期の心と身体に関する問題を総論する
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか、被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 自己管理II 体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. コミュニケーション【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 自己管理III 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障がい者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報などを身近な事柄として紹介する。
12. 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 目標設定【心理学】：日常生活のさまざまな場面に応用できる目標設定理論について学ぶ
15. 自己管理IV まとめ【心理学】：小試験（選択、記述）、ポイントの復習などで総合的に理解を深める

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・60% 小試験・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目の総論で「自己管理論」のプログラムを配布する。
- ②外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室を禁止する。私語厳禁。
- ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- ④欠席した場合には、自己管理論用欠席届を提出する。
- ⑤最終回の「自己管理IVまとめ」では、小試験をするため必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
 林 洋子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※木曜日に開講される科目については、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いてもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするとということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、以下5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

- ・ 自分を知る (アイデンティティの獲得)
- ・ 働くことを知る (業界や企業、働き方など)
- ・ 初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる (多様な人々と協働する力を身に付けるために)
- ・ 社会人マナーを身につける (社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限のマナーや倫理感)
- ・ 学生生活の過ごし方を知る (将来の進路に向けて)

なお、授業の最終目標 (4つのミッション) は以下です。

- ・ いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
- ・ 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
- ・ 外へ出て視野を広げる
- ・ 失敗を恐れずとりあえず実践して、振り返る

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイレイヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社

キャリア・デザイン 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス（授業の目的やルール、キャリアの基本知識）
- 2回 学生生活とキャリア（社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方）
- 3回 自分を知る①（一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン）
- 4回 地域活動に挑戦する（地域活動を体験した先輩とのディスカッション）※先輩登壇
- 5回 社会人としての倫理やマナー①（傾聴、多様性理解）
- 6回 自分を知る②（働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施）
- 7回 働くということ（仕事を考える視点、仕事のやりがい）※社会人ゲストを予定
- 8回 社会人としての倫理やマナー②（アサーショントレーニング）
- 9回 知ろう！使おう！労働法（雇用形態と生涯賃金、ブラック企業、知るべき労働法）
- 10回 社会人としての倫理やマナー③（ダイアログ、ワールドカフェ）
- 11回 社会人としての倫理やマナー④（グループディスカッション、リーダーシップ）
- 12回 就職活動を知る（就職活動を体験した先輩とのディスカッション）※内定者登壇
- 13回 大学生活を面白くする（計画された偶発性・セレンディピティ）
- 14回 まとめ&発表（自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか）
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポートおよび授業への取り組み、宿題・・・90%
最終回のレポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。なお、火曜日2限のみ永田公彦先生にご担当頂きます。

※真鍋先生の「キャリアデザイン」（木曜・金曜）もほとんど同じ内容です。

※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私が、真鍋先生の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。

※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】

※1年生が優先的に受講できます。ただし、教室のキャパシティに余裕がある場合には、2、3、4年生も受講可能です。また、優先的に受講できる1年生であっても受講希望者が多数であれば、受講者数調整の対象になります。

※真鍋先生の「キャリアデザイン」（木曜・金曜）と合わせて全9コマあります。グループワークの運営上、可能な限り各コマ均等な数に調整するため、第1回の授業で希望するコマを確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

コミュニケーションと思考法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。

また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要 (現在および今後の方向性について)
2. 仕事の概要 (大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員が就く仕事内容と、仕事のやりがい)
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
(入社後貴社で活躍している人は、大学時代にどんな活動をしていたのかを、登壇者自身もしくは見本にしたい社員の学生時代を紐解きながら説明する)
4. 学生へのメッセージ (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることができます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。以下は過去の実績です。

<2013年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / フリーアナウンサー長崎真友子氏 / TOTO株式会社 / 株式会社再春館製菓所 / ショーワグループ株式会社 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 株式会社スターフライヤー / コストコ ホールセール ジャパン株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ジェイアイエヌ / 山崎製パン株式会社 / RKB毎日放送株式会社 / ハウステンボス株式会社

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
 第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート・・・90%
 最終レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。
- ※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。
- ※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
- ※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の7項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁 (マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁 ⑥居眠り厳禁 ⑦講演者の方への感謝の気持ちを忘れない

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の存在形式】【法源】【罪刑法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'13』信山社(1,000円)をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
 社会にはさまざまな「できごと」、すなわち社会現象が起こっている。社会現象は人々の「考え」や「行為」から構成されている。たとえば、「結婚しない」人が増えれば晩婚化や非婚化といった社会現象は生じる。だが、そうした「考え」や「行為」は人々を取り巻く経済、政治、文化、社会関係によっても影響を受けている。たとえば、晩婚化や非婚化は「結婚できない」から生じているのかもしれない。社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「そうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。
 そのためには、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいてデータを集めること、(4) データを統計的に処理すること、(5) 結果に基づき解釈すること（最初に立てた「問い」に対して「答え」を導くこと）、が重要である。
 この授業では、このうち(1)～(4)、とりわけ(2)と(3)に力点をおいて考えていきたい。
 社会調査とは、単に「データを集計すること」ではない。繰り返しになるが、大切なことは「解釈」である。そして、その「解釈」を導くためには、きちんとした論証戦略に基づく調査の設計、調査票の作成、調査技法・データ分析手法の習得が必要である。それらを、演習を交えながら、学習・習得することを目指す。
 なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査(第2版)』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成(1)
- 第6回 ワーディングと調査票の作成(2)
- 第7回 ワーディングと調査票の作成(3)
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成(1)
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成(2)
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...40% 期末レポート...60%
 (総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストをよく読んでくること。
 課題をきちんと提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「授業の概要」にも書いた通り、社会調査とはデータを集めることにとどまるものではありません。きちんとした論証戦略に基づく、きちんとしたデータを集めること、そしてそれに基づいて社会を解釈することです。授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

社会調査【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、検定、クロス表、相関、関連

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。
 小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、テキスト『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』の批判的読解を試みることを通して、レジユメの作りかた、論点のを見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養う。後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

竹信三恵子2013『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』岩波新書

タイトルだけでは、ジェンダーに関する本のようにみえますが、貧困、福祉、市場経済の社会の矛盾などさまざまな問題を提起してくれます。一人暮らしをすると（実家暮らしでも）、避けられない家事について考えてみましょう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編)2006『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編)2009『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジユメの作りかた
- 第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：『商店街はなぜ滅びるのか』
- 第8・9回 テーマのを見つけかた・レポートの書きかた
- 第10・11・12・13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・第1回の授業は必ず出席してください。
- ・教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。
- ・問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
 キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
 キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当: 高西) と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出てても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジュメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2014年度入学生、2013年度入学生(新1年生、新2年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。ただし、時間割の関係で「日本の防衛」が受講できない場合、「教養基礎演習II」(戸蒔)とセットで履修すること。また、新2年生で、既に「日本の防衛」の単位を取得している者は、この科目のみの履修を認める。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習II」、「演習AII」もしくは「演習BII」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論1
- 3回 読解と議論2
- 4回 読解と議論3
- 5回 読解と議論4
- 6回 読解と議論5
- 7回 読解と議論6
- 8回 読解と議論7
- 9回 読解と議論8
- 10回 読解と議論9
- 11回 読解と議論10
- 12回 読解と議論11
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回(ガイダンス)時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。仮に2年生以上が本基礎演習に登録していたとしても、第1回の授業を欠席した場合には登録を抹消するつもりである。
人数調整に際しては、【本演習に友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については7月頭に提示する予定)。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養ってきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 野外活動とは?
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習(1)
- 13回 キャンプ実習(2)
- 14回 キャンプ実習(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永)と同時期に実施をします。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定回にスーツを着用しての受講となります。
クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 演習運営方針に関する話し合い。
2～14回 各自の研究報告。
15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い (=評価される) レポートが書けることは違います。
本演習では、教養基礎演習Iの受講者の問題関心に近いテキストを輪読し、ディスカッションを通して、各自のテーマをさらに掘り下げることを通して課題発見能力を養います。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度のレポートを書くことを目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートはとりあえず書けるけれど、いい(評価される)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
 スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スキー実習は別途実習費が必要です。
 スキー実習は、教養基礎演習II(担当・高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

(1) 「複眼思考」を身につける。

- ・「常識」にとらわれず、「別の考え方」を模索する。
- ・誤った因果関係を見破る。
- ・ものごとを「実体論」的ではなく、「関係論」的にとらえる（ものごとは関係の中から構築される、という思考方法を身につける）。
- ・「問い」そのものを「問う」という思考方法を身につける（メタ・レベルでの問いのたて方を身につける）。

(2) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける

- ・質的調査と量的調査の違いを理解する。
- ・インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
- ・調査倫理について理解する。

(3) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについて何らかの解釈を行う。

- ・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
- ・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
- ・インタビューを用いて、何らかの解釈を行う。

演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

荻谷剛彦著, 2002, 『知的複眼思考法』, 講談社 + α文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 複眼思考とは何か
- 第2回 複眼思考を身につける (1) 批判的に読み、批判的に書く
- 第3回 複眼思考を身につける (2) 「問い」をたてる
- 第4回 複眼思考を身につける (3) 因果関係を設定する
- 第5回 複眼思考を身につける (4) 概念化しモデル化する
- 第6回 複眼思考を身につける (5) 関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの思考
- 第7回 質的社会調査の考え方
- 第8回 フィールドワークについて理解する
- 第9回 「問い」をたてる
- 第10回 資料・データを探す
- 第11回 インタビューの技法を身につける
- 第12回 インタビューの実際の流れを理解する
- 第13回 調査倫理について理解する
- 第14回 インタビュー計画をたてる
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学、実証研究、複眼思考、疑似相関、関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの問い、質的調査、インタビュー

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。

「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来） 20%
専門的基礎知識の理解度 30%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2012年度以前に入学したの新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」のいずれかとセットで受講すること。

【注意②】新1年生および新2年生(2014年度・2013年度入学生)は、この科目と並行して「教養基礎演習I(防衛セミナー)」(もしくは「演習AI」)を履修した方が理解が増す。なお、「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修せずに、この科目のみを履修しても、あまり利益はない。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いため、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社、1997年、924円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、第2回の授業までに上記のテキスト(924円)を購入しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内から離れた場所での野外活動(スキー実習)を通して、他人との協調や、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解するためには(1)
- 3回 自分自身を理解するためには(2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには(1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには(2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現(1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 1 3回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全面)
- 1 4回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 1 1回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 1 2回 スキー実習(1)
- 1 3回 スキー実習(2)
- 1 4回 スキー実習(3)
- 1 5回 スキー実習(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習II(担当:徳永)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画（4）野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画（5）テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画（6）グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画（7）ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施（1）
- 13回 キャンプ実習の実施（2）
- 14回 キャンプ実習の実施（3）
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（キャンプ実習の参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%
 キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。
 キャンプ実習は、教養基礎演習I（担当：徳永、高西）と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

小林担当の「教養演習 A II」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A1【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

異文化理解の基礎（応用編）：
本演習では、現代世界の宗教に関わる文化に広く問題に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界と宗教に関わる文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。
(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』、島園進ほか『現代宗教とスピリチュアリティ』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告を含む授業態度30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョンI異文化理解の基礎（人間と文化）で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、運悪く受講してなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、宗教性

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新2年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。すでに「日本の防衛」の単位を取得している者は、この科目のみの履修を認める。「日本の防衛」を未履修であるが、時間割の関係上、履修が出来ない者は、戸蒔の「教養基礎演習II」もしくは「教養演習AII」とセットで履修すること。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AII」もしくは「演習BII」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

上記、注意①と注意②は必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回(ガイダンス)時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第1回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。4年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、【本演習に友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については7月頭に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(2)安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画(3)プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画(1)野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画(2)安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画(3)プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
 スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
 スキー実習は、教養基礎演習II(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信満々で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。
①社会科教育法AまたはC、もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD、もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。
なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう(400字×20枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2~14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。
小林担当の「教養演習AII」とセットで履修することを希望します。
AIIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。一学期と比較して二学期はより抽象的な文献に挑戦する。

教科書 /Textbooks

1学期の受講者の関心に合わせて現代社会または文化に関するテキストを読む。テキストについては受講者の希望を聞きながら第1回で決定する。
(候補：世界思想社社会学ベーシックシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、マルセル・ゴーシュ『民主主義と宗教』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、異文化理解の基礎 / 人間と文化、現代社会と文化 / 文化と政治、政治のなかの文化）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】新2年生(2013年度入学生)で「日本の防衛」の単位を未履修かつ今期の履修が不可能な者で、「防衛セミナー」の履修を希望する者は、この科目を履修しなければならない。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」のいずれかとセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていく能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

(1) 「複眼思考」を身につける。

- ・「常識」とはならず、「別の考え方」を模索する。
- ・誤った因果関係を見破る。
- ・ものごとを「実体論」的ではなく、「関係論」的にとらえる（ものごとは関係の中から構築される、という思考方法を身につける）。
- ・「問い」そのものを「問う」という思考方法を身につける（メタ・レベルでの問いのたて方を身につける）。

(2) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける

- ・質的調査と量的調査の違いを理解する。
- ・インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
- ・調査倫理について理解する。

(3) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについて何らかの解釈を行う。

- ・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
- ・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
- ・インタビューを用いて、何らかの解釈を行う。

演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

荻谷剛彦著, 2002, 『知的複眼思考法』, 講談社 + α文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 複眼思考とは何か
- 第2回 複眼思考を身につける (1) 批判的に読み、批判的に書く
- 第3回 複眼思考を身につける (2) 「問い」をたてる
- 第4回 複眼思考を身につける (3) 因果関係を設定する
- 第5回 複眼思考を身につける (4) 概念化しモデル化する
- 第6回 複眼思考を身につける (5) 関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの思考
- 第7回 質的社会調査の考え方
- 第8回 フィールドワークについて理解する
- 第9回 「問い」をたてる
- 第10回 資料・データを探す
- 第11回 インタビューの技法を身につける
- 第12回 インタビューの実際の流れを理解する
- 第13回 調査倫理について理解する
- 第14回 インタビュー計画をたてる
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジュメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

複眼思考法と調査法（たとえばインタビュー）の習得は、ゼミ論、卒論を書く際に役に立つだけでなく、よき市民の作法としても必要です。

キーワード /Keywords

社会学、実証研究、複眼思考、疑似相関、関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの問い、質的調査、インタビュー

教養演習 A II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かさないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社、1997年、924円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト(924円)を購入しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習(キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム)を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。キャンプ実習(教養基礎演習I)のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1)リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2)安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3)プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4)野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5)テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6)グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7)ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
 キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。
 キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。
 小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 AI・AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

異文化理解の基礎（応用編）：
本演習では、現代世界の宗教に関わる文化に広く問題に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界と宗教に関わる文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。
(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』、島園進ほか『現代宗教とスピリチュアリティ』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告を含む授業態度30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョンI(異文化理解の基礎(人間と文化))で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、運悪く受講してなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、宗教性

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習II」、「教養演習AII」、もしくは「教養演習BII(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論1
- 3回 読解と議論2
- 4回 読解と議論3
- 5回 読解と議論4
- 6回 読解と議論5
- 7回 読解と議論6
- 8回 読解と議論7
- 9回 読解と議論8
- 10回 読解と議論9
- 11回 読解と議論10
- 12回 読解と議論11
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回(ガイダンス)時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第1回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。4年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、【本演習に友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については7月頭に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(2)安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画(3)プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画(1)野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画(2)安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画(3)プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務) ... 80% レポート ... 20%
 スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
 スキー実習は、教養基礎演習II(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名
 /Instructor

伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 3年次
 /Year

単位
 /Credits

2単位

学期
 /Semester

2学期

授業形態
 /Class Format

演習

クラス 3年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
 教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信満々で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
 なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
 また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジユメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
 ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。
 ①教育実習1を受講中であること、②社会科教育法ないしは公民科教育法をセットで受講していること、を受講の条件とします。
 なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 40% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 40%、課題 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 ゼミ論文をかいてもらう（400字×30枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
 コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回 演習運営方針に関する話し合い。
 第2回～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。
 小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。
 以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。一学期と比較して二学期はより抽象的な文献に挑戦する。

教科書 /Textbooks

1学期の受講者の関心に合わせて現代社会または文化に関するテキストを読む。テキストについては受講者の希望を聞きながら第1回で決定する。
(候補：世界思想社社会学ベーシックスシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、マルセル・ゴーシュ『民主主義と宗教』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、異文化理解の基礎 / 人間と文化、現代社会と文化 / 文化と政治、政治のなかの文化）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「防衛セミナー」(「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」)のいずれかとセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「防衛セミナー」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
 具体的には、以下のことについて学習・習得する。

(1) 「複眼思考」を身につける。

- ・「常識」にとらわれず、「別の考え方」を模索する。
- ・誤った因果関係を見破る。
- ・ものごとを「実体論」的ではなく、「関係論」的にとらえる（ものごとは関係の中から構築される、という思考方法を身につける）。
- ・「問い」そのものを「問う」という思考方法を身につける（メタ・レベルでの問いのたて方を身につける）。

(2) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける

- ・質的調査と量的調査の違いを理解する。
- ・インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
- ・調査倫理について理解する。

(3) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについて何らかの解釈を行う。

- ・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
- ・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
- ・インタビューを用いて、何らかの解釈を行う。

演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

荻谷剛彦著, 2002, 『知的複眼思考法』, 講談社 + α文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 複眼思考とは何か
- 第2回 複眼思考を身につける (1) 批判的に読み、批判的に書く
- 第3回 複眼思考を身につける (2) 「問い」をたてる
- 第4回 複眼思考を身につける (3) 因果関係を設定する
- 第5回 複眼思考を身につける (4) 概念化しモデル化する
- 第6回 複眼思考を身につける (5) 関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの思考
- 第7回 質的社会調査の考え方
- 第8回 フィールドワークについて理解する
- 第9回 「問い」をたてる
- 第10回 資料・データを探す
- 第11回 インタビューの技法を身につける
- 第12回 インタビューの実際の流れを理解する
- 第13回 調査倫理について理解する
- 第14回 インタビュー計画をたてる
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジュメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

複眼思考法と調査法（たとえばインタビュー）の習得は、ゼミ論、卒論を書く際に役に立つだけでなく、よき市民の作法としても必要です。

キーワード /Keywords

社会学、実証研究、複眼思考、疑似相関、関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの問い、質的調査、インタビュー

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社、1997年、924円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト (924円) を購入しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます (形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりまますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2014年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は2年次以上です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2014年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 自然学で学ぶこと
 - 第2講 今西錦司という人がいた
 - 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
 - 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
 - 第5講 自然学における日常実践
 - 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
 - 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
 - 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
 - 第9講 江戸時代の旅と自然
 - 第10講 山と人の自然学1【山村と故郷論】
 - 第11講 山と人の自然学2【自然観と森林観】
 - 第12講 山と人の自然学3【竹と産業】
 - 第13講 山と人の自然学4【竹と文化】
 - 第14講 木竹資源利用の国際比較
 - 第15講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
 - 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
 - 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然学のまなざし【昼】

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

講義は教室の中だけでは終わりません。
そんなつもりで受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ, 地球史, 生命と地球の共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2～3回 自然史博物館見学（1）～博物館を楽しもう
- 4回 二次的自然と哺乳類（馬場）【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 5回 アンモナイトの古生物学（御前）【化石】【進化】【古生態】
- 6回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）【絶滅危惧】【生物多様性】
- 7回 ヒスイが語る地下深部の世界（森）【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 8回 アラビアの砂漠に棲む生き物たち（山根）【アラビア半島】【人と自然と文化】
- 9回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）【化石】【生命史】【絶滅】
- 10回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 11回 深海生物～その形と適応的意義～（下村）【深海】
- 12回 昆虫の多様性と進化（葦島）【分類】【学名】
- 13回 森の移り変わりを考える（真鍋）【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 14回 化石が語る魚類の進化（藪本）【魚類化石】
- 15回 自然史博物館見学（2）～課題研究

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とします。2回の博物館見学は必須となります。
授業への積極的な参加（授業中の課題など）40%、期末レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1回目の博物館見学は10月5日（日）、2回目は12月～1月のいずれかの日曜日を予定しています（変更の場合は掲示します）。
授業スケジュールについての説明がありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。博物館までの交通費および入館料は自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

化学物質と化学知識は生活に不可欠なものです。それらは生活を豊かにし、豊かな未来社会を展望するのに必要です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養としてだけでなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

まず基礎的な化学知識を正確に掴む必要があります。そのために、基礎的な化学知識を学習します。次に化学的知識と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析/理解能力を高めることがこの授業のねらいである。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、自然界の現象で重要な物性である物質三態（気・液・固）を学習します。化学物質と身近な問題との関わりを、生活に必要な生体物質・食品・薬、環境に重要な放射能・地球温暖化に関連した事項に絞って解説をする。

教科書 /Textbooks

大場好弘著：「身のまわりの化学 - 物質・環境・生命 - 」：化学同人：2012/4/15：¥1800+税：ISBN978-7598-1480-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）¥2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 第1章 物質科学の基礎：元素、原子・分子、
- 2 第1章 物質科学の基礎：周期律、原子の性質、単体の性質
- 3 第2章 2.1-2.4 生活の中の無機化学
- 4 第2章 2.5 電池
- 5 第2章 2.2 有機化合物
- 6 第2章 2.3 生活の中の有機化合物・・・コロイド
- 7 第2章 2.3 生活の中の有機化合物・・・洗剤（補足資料）
- 8 第2章 2.3 生活の中の有機化合物・・・医薬品（補足資料）
- 9 第2章 2.7 日常の中の高分子
- 10 第3章 3.0 炭水化物、脂質（補足資料）
- 11 第3章 3.1 タンパク質
- 12 第3章 3.2 核酸
- 13 第4章 地球環境と化学（4.1節，4.2節，）
- 14 第4章 地球環境と化学 4.3 エネルギーの化学
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポートなど20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくことと良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人の取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第6回 感情はコントロールできるか
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまなを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第7回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。【積極的傾聴法】【私メッセージ】
- 第8回 動物の自己意識
動物は自己像をどのように理解するのかを考える。【自己像認知】【マークテスト】
- 第9回 「自己」の発見
ヒトの自己意識の芽生えについて考える。【自己意識】【自己概念】
- 第10回 身体感覚のメカニズム
自分の身体を自分のモノとして感じるメカニズムについて考える。【身体保持感】【ラバーハンド錯覚】
- 第11回 「他者」への気づき
他者をどのように認識するのか、他者の情報をどのように検出するのかについて考える。【生物らしさ】【バイオリジカルモーション】
- 第12回 「他者」の心を読む
他者に共感する、推測する能力の発達について考える。【共感】【心の理論】
- 第13回 ロボットに心は宿るか
他者に心を見出すメカニズムについて考える。【メンタライジング】【ロボット】
- 第14回 心を読むことの難しさ
自閉症児の心の理解について考える。【マインドブラインドネス仮説】【誤信念課題】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 50% 課題(レポート) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

現代人のこころ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

宗教は、わたしたちの日常生活とかけはなれた存在ではない。それは日常の倫理や道徳を支え、わたしたちの生き方と死に方とを方向づける強い力をもっている。さらにまた、メディアの発達していない時代に宗教は文字文化の担い手であり、音楽や身体技法など、文化の貯蔵所のやぐわりをはたしていた。かつまた、20世紀から21世紀にかけて民族とともに宗教が紛争と葛藤の焦点となり、原理主義の高まりとともに各地でさまざまな政治問題を生んでいることは、日々報道されるところである。

にもかかわらず、日本にあつてわたしたちは宗教とのつきあいを苦手だと感じるのはなぜだろうか。この講義では、そうした現代日本人の感受性そのものをも視野におさめて、過去から現在にいたる「宗教的なるもの」の根っこに迫ってみたい。

なお今年とはピックスごとに、諸宗教を横断的にとらえるところみをする。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』ちくま文庫
堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版

あとは講義の通りに適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに 宗教について考える、宗教を分類する
2. 神々の世界(日本) 起源神話、異類婚姻譚
3. 神々の世界(世界) 渾沌と秩序、塔と洪水
4. あの世(日本) 極楽浄土、六道輪廻
5. あの世(世界) 地獄と天国、煉獄と金、
6. 苦と悪 悪霊、神義論、四苦八苦
7. 出世間 修道院、荒野、出家とサンガ
8. 聖者と菩薩 列聖、慈悲
9. 修行と戒律 身体、戒と律、聖地巡礼
10. 祭りと儀礼 年中行事、通過儀礼、祝祭日
11. 声と文字 声の文化と文字の文化、聖典
12. 物語 話法と話芸、伝説、昔話
13. 運命 予定説、宿命論、造悪論
14. 呪いと祝福 呪術、病治し、祈りと念仏
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習よりも、復習よりも、講義の場で以下のことに力を注ぐこと。

講義をよく聴く。

配布資料をよく読む。

資料をもとに、また講義や本をヒントに、自分で考える習慣をつける。

私たちと宗教 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教的なものは、その周辺にカルト的集団やオカルト的現象を生むことがある。神秘的な力にはよい方向とよくない方向がともに備わっており、わたしたちにはそのよい方向を識別する目をやしなう必要がある。なによりも宗教に関する正確な知識を心がけるよう、また距離を置いた受けとめ方のレッスンをかさねるよう、意識的な努力を心がけたい。

なお講義一回ごとに大切なことをあらたにひとつ学べば、半期で最低10の知識を学習できる。そのようにして四年間を着実に過ごすならば、知らないうちに成長していることがあとになってわかるだろう。

キーワード /Keywords

上記授業計画を参照のこと。

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。
- 伊原木大祐『レヴィナス 犠牲の身体』創文社、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴールの大衆批判】
- 4回 実存の思想(3)【キルケゴールの実存的宗教論】
- 5回 実存の思想(4)【ハイデガー】
- 6回 実存の思想(5)【サルトル】
- 7回 実存の思想(6)【メルロ=ポンティ】
- 8回 中間総括(確認テスト)
- 9回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 11回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 15回 フェミニズムの思想(4)【クイア】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 期末テスト...60%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第8回に確認テスト(第3回~第7回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに來る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、たとえ全回出席してプリントを入手したとしても、ノートを取っていない、もしくは授業を聴いていないのであれば、単位の取得可能性は限りなくゼロに近いものとなるだろう。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【開国】【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【表象分析事始め】 比較分析の有効性について
- 11回 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として④【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として⑤まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』 松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』 古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』 永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第5回 機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第6回 外部講師による特別講義(予定)
- 第7回 語用論(山崎)
- 第8回 ことばと文化(山崎)
- 第9回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第10回 会話の規則(平野)
- 第11回 日本語の方言(平野)
- 第12回 ことばのバリエーション(平野)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
 4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代美術を中心に国内外の芸術活動の事例を紹介します。
それらを鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして解釈・応用できるよう、アート・リテラシーの向上を促します。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品のコンテクスト
- 3回 芸術作品に見るジェンダー1：国内の事例
- 4回 芸術作品に見るジェンダー2：海外の事例
- 5回 カワイイ文化と社会
- 6回 メイクと社会
- 7回 サブカルチャーと社会
- 8回 芸術とリアリティ
- 9回 引き算の美・足し算の美
- 10回 芸術と生活
- 11回 芸術のカ×権力×暴力
- 12回 芸術と教育
- 13回 芸術と宗教
- 14回 北九州アートシーン
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記の講義内容は変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展示会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
田部井 世志子 / Yoshiko TABELI / 比較文化学科, 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
五月女 晴恵 / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター, 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2014年のテーマ：「文学と青春」

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。今年度の「文学を読む」では、青春を扱った文学、もしくは、青春に読んでおく文学作品について、そんな出会いを体験してしまった、かつての文学少年、文学少女たちが学部を越えて熱く語ります。青春の只中を現在進行形で生きている皆さんにとって、人生を変える一冊との出会いとなる、忘れえぬ授業となることでしょう。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ①言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ②「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・文学と「青春」(福島 文学部比較文化学科)
- 2回 岩本(文学部比較文化学科)
- 3回 馬場(文学部比較文化学科)
- 4回 田部井(文学部比較文化学科)
- 5回 渡瀬(文学部比較文化学科)
- 6回 五月女(文学部比較文化学科)
- 7回 伊藤(外国語学部英米学科)
- 8回 木原(外国語学部英米学科)
- 9回 齊藤(外国語学部国際関係学科)
- 10回 漆原(基盤教育センター)
- 11回 神原(基盤教育センター)
- 12回 田村(経済学部経済学科)
- 13回 永田(グローバル人材育成推進室)
- 14回 特別講師
- 15回 特別講師

(各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本・・100%。(三分の二以上の出席がなければ評価対象外となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文学を読む【昼】

履修上の注意 /Remarks

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回到現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名
/Instructor

大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちに民主主義が当たり前のルールになっているかもしれません。しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。

このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 古代ギリシアの民主制
- 第3回 近代デモクラシーの基礎① 【ホブズ】【ロック】
- 第4回 近代デモクラシーの基礎② 【ルソー】【トクヴィル】
- 第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【福澤諭吉】【中江兆民】
- 第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】【ラディカル・デモクラシー】
- 第7回 現代日本の民主主義理論① 【境界線の政治学】
- 第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】
- 第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】【権威主義体制】【全体主義体制】
- 第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】【対立理論】【ポピュリストモデル】
- 第11回 民主主義と有権者① 【政治参加】【直接民主主義】【間接民主主義】
- 第12回 民主主義と有権者② 【エリート民主主義】【参加民主主義】
- 第13回 民主主義と選挙 【ダウンスモデル】【メディアン定理】
- 第14回 民主主義と政党、議会 【代表 / 代理】【二院制】
- 第15回 2つの民主主義 【多極共存型民主主義】【多数主義型民主主義】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 (80%)、講義への参加態度 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみ人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

私語は厳禁

出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになる。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ジェンダー論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
 中村 英樹 / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人の関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①法についての基本的な知識を獲得した上で、社会での共生に必要な理解力や思考力を鍛える。
- ②共生をめぐる現代社会の諸問題について、課題を発見しそれを分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞，ガイダンス（二宮）
- 第2回 法と道徳について（重松）
- 第3回 障害のある人の権利～ 日本国憲法から（植木）
- 第4回 民主主義の限界 - 立憲主義との関係で（中村）
- 第5回 行政は「個人の権利」をもつか（福重）
- 第6回 規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第7回 犯罪とは何か ～ 国家刑罰権をどのように制約するか（大杉）
- 第8回 契約について（契約の意義，種類，契約自由の原則等）（矢沢）
- 第9回 家族とは何か（小野）
- 第10回 商法とは何か（今泉）
- 第11回 企業形態と法（高橋）
- 第12回 民事訴訟とは何か（小池）
- 第13回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう（津田）
- 第14回 雇用とは何か（雇用関係の成立，雇用関係の展開，雇用関係の終了）（石田）
- 第15回 国際社会と日本，まとめ（二宮）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる（100%，④に注意）。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点(自然・経済・市民)から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設(環境ミュージアム、エコタウンなど)見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2012年 945円
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系(外部講師)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 6・7回 施設見学1～エコタウン
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 10・11回 環境関連施設見学2～環境ミュージアム
- 12回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 13回 環境首都検定に向けて・小テスト(日高)
- 14回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 15回 社会が求める環境人材とは(外部講師)

成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。
環境首都検定の成績(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(20%)、授業への参加・授業中の課題など(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

平成26年度の環境首都検定は12月14日(日)の予定。
エコタウン見学は11月5日(水)、環境ミュージアム見学は11月30日(日)を予定しているが、変更の可能性もある。授業スケジュールについては第1回目ガイダンス時に配布する予定。
環境ミュージアムおよび首都検定会場までの交通費は自己負担とする。
定員は200名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を作るため、環境について一緒に勉強しましょう。
本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 1年 / 1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という感覚）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女/彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある。）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家的生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としながらいかに振る舞うことが可能なだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』（○）
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』（○）・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』（岩波書店、2012）』（○）、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）』（○）、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらないのか？」
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【利潤】【公表利益】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会の脆弱性【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機=福祉国家(混合経済)の登場【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰の新自由主義の台頭【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

企業と社会【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【ブラック企業】
【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50点) + 期末レポート試験(50点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうか、受講中に参加するかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

つながりの人間学【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。この講義を通して、地域活動に興味を持った方は、第2学期開講の「サービスマーケティング入門2」も受講してください。より深く地域活動とおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)、昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 神原ゆうこ
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

この講義は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムのさまざまな現場で活躍されている方々の講義を聞き、現代社会と人間の関係について総合的な理解を深めることを目的とする。受講者各自には、新聞を通して、現代社会が直面する課題を発見し、解決のために自ら学ぶ姿勢を持つことが求められる。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義中に担当者が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション/新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 第2回 ニュースの価値付け/見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 第3回 政治を見る目/取材現場で感じたこと (編集委員)
- 第4回 地域とともに/分権時代と地域紙 (編集企画委員)
- 第5回 災害報道の実際/東日本大震災から3年 (社会部記者)
- 第6回 アジアと九州を考える/国際報道の現場から (編集委員)
- 第7回 読者参加型の新聞づくり/地元「遺産」を取材して (編集委員)
- 第8回 デジタル時代の新聞/電子メディアへの挑戦 (q b i z 編集長)
- 第9回 キャンペーン報道の力/消防団と防災 (社会部デスク)
- 第10回 九州経済をどう見るか/経済記者の視点(経済部長)
- 第11回 スポーツ報道の世界/運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 第12回 報道写真の力/カメラマンの心得とは(写真部記者)
- 第13回 北九州の現場から/半世紀を経た都市づくり (北九州本社記者)
- 第14回 地域文化を見つめて/文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 第15回 新聞をデザインする/ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日々の新聞をよく読み、世の中の動きに敏感になること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通じて社会とあなたがどうつながっているか、考えるきっかけにしてください。また、多メディア時代の新聞の役割について、少しでも理解を深めてくれればうれしいです。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それにもなつて、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となつてきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、第2次世界大戦後の国際人口移動(労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民など)について概説する。その上で、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて、実証研究に基づいて、考察していきたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの説明 / 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 グローバル化と国際人口移動
- 第4回 さまざまな国際人口移動 - 労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民、ディアスポラ
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1) - エスニシティと階級
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2) - 移民と教育、移民と政治
- 第7回 日本社会と移民(1) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会1
- 第8回 日本社会と移民(2) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会2
- 第9回 日本社会と移民(3) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会3
- 第10回 日本社会と移民(4) - 日系ブラジル人と日本社会1
- 第11回 日本社会と移民(5) - 日系ブラジル人と日本社会2
- 第12回 排外主義・排外意識(1) - 排外意識の状況
- 第13回 排外主義・排外意識(2) - 排外意識形成のメカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第5回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第6回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第7回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第8回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第9回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第10回 Case Study①: 湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第11回 Case Study②: ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第12回 Case Study③: リビア問題と国連【保護する責任】
- 第13回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第14回 Case Study④: アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと社会
- 2回 イギリスにおけるエスニシティ【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 5回 フランスにおけるエスニシティ【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 6回 フランスにおける文化摩擦【スカーフ問題】【ブルカ禁止法】
- 7回 フランスにおける同化主義【ライシテ】【共和国憲法】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念【るっぼ】【サラダ・ポウル】
- 11回 黒人史と公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 12回 マイノリティをめぐる政策【アフアーマティブ・アクション】【バッキ判決】
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人【強制収容】【第二次世界大戦】
- 14回 今日のエスニシティ状況【ヒスパニック】【不法移民】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって 担当：三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当：伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当：伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当：伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】 担当：チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動 【バングラデシュ】 担当：チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当：チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動とし叟社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当：チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当：申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当：三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当：三宅
- 第15回 まとめ 担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor
 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程, 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程
 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは
- 2回 自由貿易 【比較優位】 【貿易保護】
- 3回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 4回 企業の海外進出と立地 【人件費】 【為替レート】
- 5回 ICT技術と経済のグローバル化 【コンピュータ・ネットワーク】
- 6回 市場の世界化と地域経済 【グローバル】
- 7回 グローバル化と地方自治体 【自治体外交】 【多文化共生】
- 8回 グローバル化の進展と国際会計ルール採用の意義 【IFRS】
- 9回 グローバル化とファイナンス 【アベノミクス】 【金融市場】 【外国人投資家】
- 10回 グローバル化時代の地域政策 【環境】 【新産業】 【地域振興】
- 11回 人と情報のボーダレス化 【多国籍組織】 【ダイバーシティ】 【世界同時情報共有】 【ネットワーキング】
- 12回 グローバル文化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】 【グローバル人事】
- 13回 景気の国際間波及メカニズム 【GDP】 【三面等価】
- 14回 景気の国際間波及メカニズム 【需要変動】 【乗数】
- 15回 まとめと総復習-グローバル化の光と影

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
 定義が困難な理由について
 - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
 - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
 - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
 テロリズムの定義
 - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
 - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
 - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
 「大量」殺戮テロの始まり
 化学テロと生物テロ
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
 地下鉄サリン事件の概要
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
 911の特異性
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
 ビンラディンのプロファイル
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際社会と日本のあり方や関係について、様々な視点から解説する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』(知の攻略 思想読本4)、作品社、2003(第3刷)、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第ⅠⅤ部の総論 姜尚中論文
- 5回 第ⅠⅠ部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第ⅠⅠ部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】 【帝国】
- 7回 第ⅠⅠ部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第ⅠⅠ部の「日本」 小森陽一論文 【自己植民地化】 【近代主義】 【ナショナリズム】
- 9回 第ⅠⅠ部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第ⅠⅠ部の「国家」 響田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第ⅠⅠⅠ部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第ⅠⅠⅠ部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第ⅠⅠⅠ部の3、高橋哲也論文 【過去の克服】
- 14回 第ⅠⅠⅠ部の4、野村浩也・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本~3本 80% 平常の学習状況 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習、関連文献を自主的に読むこと

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

1. この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
2. この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
3. この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
- 門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
- 鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 明治維新と国民国家
- 3回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 4回 新渡戸稲造の『武士道』
- 5回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 6回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 7回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 8回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 9回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 10回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 11回 「国語」とは何か
- 12回 網野善彦と日本史の多様性
- 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 14回 「桃太郎」と吉備王国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

歴史の読み方I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

見玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ(順序不同)、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN(小林)
 - 第2・3・4回 日本(小林)【バブル経済】、【昭和の終焉】
 - 第5・6・7回 東南アジア(伊野)【ビルマの民主化運動】
 - 第8・9回 ドイツ(岩本)【ベルリンの壁崩壊】【ドイツ統一】
 - 第10・11回 アメリカ(寺田)【レーガン政権】
 - 第12・13回 中国(下野)【天安門事件】
 - 第14・15回 ポーランド(スピルマン)【「連帯」運動】【ソ連崩壊】
- 以上、順序不同。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

"皆さんは、「Japan as No1」と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、私たち自身の価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、「Japan as No1」と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たちが生きる現代を理解することでもあります。本講義では、過去をもとに現代の社会・経済状況を理解することを目的として、第二次世界大戦後から現代に至る日本経済の推移と、その結果としての日本社会の変化についてお話しします。"

教科書 /Textbooks

毎週配布するレジュメに基づいて授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 ①敗戦と復興
- 第3回 ②「Japan as No1」と言われた時代 - 1950年代から70年代 -
1. 高度経済成長の経緯
- 第4回 2. 高度経済成長を可能とした諸要因
- 第5回 3. 戦後日本の産業構造の変化
- 第6回 ③高度経済成長と日本社会
1. 人口の変化と「人口問題」
- 第7回 2. 高度経済成長と生活様式の変化
- 第8回 3. 社会生活と企業 - 「企業社会」の発展 -
- 第9回 4. 高度経済成長がもたらした「歪(ひず)み」
- 第10回 ④「ロスジェネレーション」 - 1980年代以降の日本経済 -
1. 低成長時代から「バブル」の時代へ
- 第11回 2. 「バブル崩壊」と長期不況
- 第12回 3. 「痛みを伴う改革」がもたらしたもの
- 第13回 4. 「失われた世代」の就業環境 - 「非正規雇用」の歴史と現状 -
- 第14回 ⑤「豊かさ」と「貧しさ」の現在形
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について「考える」社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

戦後の日本経済【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

高度経済成長 人口問題 企業社会 ロストジェネレーション バブル経済 非正規雇用

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本・の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。
 本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。
 具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。
 本学教員と外部講師によるオムニバス形式での授業を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に配布するプリントに記載

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 3回 トランスジェンダー 【性同一性障害】
- 4回 性的自立とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 5回 メディアとジェンダー 【ジェンダー・バイアス】 【メディア・リテラシー】
- 6回 家族を持つ権利と生殖医療・法律 【養子】 【不妊治療】
- 7回 ケア役割とジェンダー 【ケアの女性化】
- 8回 セクシュアル・ハラスメントとデートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力被害とトラウマ 【性暴力裁判】 【強姦神話】 【フェミニスト・カウンセリング】
- 10回 日本における売春防止法と「婦人保護」 【公娼制度】 【売春の歴史】
- 11回 日本と諸外国の売買春をめぐる動向 【セックスワーカー】 【売春の合法化】
- 12回 戦争と性暴力 【軍事化】 【性支配】
- 13回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 14回 子どもの性被害 【児童ポルノ禁止法】 【児童虐待防止法】
- 15回 これまでの振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、課題60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった「関係性」を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

教科書 /Textbooks

教科書はなし。
講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)
 「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)
 「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】 【授業の進め方】 【学習目標】 【評価方法】
- 2回 ホスピタリティの歴史と文化 【ホスピタリティとは何か】 【西洋のホスピタリティ文化】
- 3回 ホスピタリティとおもてなし 【東洋のホスピタリティ文化】 【茶道】 【仁】 【おもてなし】
- 4回 ホスピタリティとサービスの語源と概念比較【ホスピタリティ】 【サービス】
- 5回 ホスピタリティ産業の現状(その1) 【近年の航空事業の動向】 【接客現場】 【国際線業務】
- 6回 ホスピタリティと心理1 【EQ】
- 7回 ホスピタリティと心理2 【交流分析】
- 8回 ホスピタリティとコミュニケーション1 【ラポール】 【言語非言語】 【空間管理】 【スマイル】
- 9回 ホスピタリティとコミュニケーション2 【聴き方の基本】 【効果的な話し方】 【敬意表現】
- 10回 中間のまとめ
- 11回 ホスピタリティとビジネス1 【プロ意識】 【身だしなみ】 【人間関係】 【電話やメール】
- 12回 ホスピタリティとビジネス2 【顧客心理】 【クレーム対応】 【CS】
- 13回 ホスピタリティ産業の現状(その2) 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 14回 ホスピタリティと企業1【職場環境】 【内部顧客】 【メンタルヘルス】 【企業の社会的責任】
- 15回 ホスピタリティと企業2【企業の社会貢献】 【ホスピタリティの意義と可能性】 【暗黙知と形式知】

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み ①授業中に行う練習問題の取り組み ②中間のまとめ問題の提出 50%

期末試験の成績 50%

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第1回目には、シパスを持参のこと。

ホスピタリティを理解し、実践していくことを目的としています。遅刻・途中退室・私語は慎んで下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場合は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知 コミュニケーション能力

教養特講Ⅲ (まなびと講座A) 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD (持続可能な発展のための教育) に必要となる、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とする。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ESDとは何か？ (オリエンテーション) 【北九州市立大学】
- 第2回：まなびとESDステーション活動と地域協働① 【北九州まなびとESDステーション特任教員】
- 第3回：まなびとESDステーション活動と地域協働② 【北九州まなびとESDステーション特任教員】
- 第4回～第6回：ESDと地球環境～科学的視点から考える地球の自然～ 【九州女子大学】
- 第7回～第9回：生活の再考～ESDの視点から身近な生活を見つめ直す～ 【西南女学院大学】
- 第10回～第12回：ESDと福祉 ～社会的弱者に対するケアの技法～ 【九州栄養福祉大学】
- 第13回：学習成果報告会に向けたワークショップ 【北九州市立大学】
- 第14回・第15回：学習成果報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：10%
- ・ 小レポート×4回：40%
- ・ 学習成果報告会でのプレゼンテーション：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション (小倉北区の魚町商店街内) 」にて開講される。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講Ⅳ (まなびと講座 B) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD (持続可能な発展のための教育) に必要となる、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とする。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ESDとは何か？ (オリエンテーション) 【北九州市立大学】
- 第2回～第4回：地域社会をデザインする～ESDの視点からみた地域活性化の技法～
 【西日本工業大学・九州工業大学・北九州市立大学】
- 第5回～第7回：ESDと国際理解～グローバル時代の国際協力～【九州国際大学】
- 第8回～第10回：ビオトープで考える生物多様性とESD【九州共立大学】
- 第11回～第12回：健康はお口から～口腔ケアから考えるESDの可能性～【九州歯科大学】
- 第13回：学習成果報告会に向けたワークショップ【北九州市立大学】
- 第14回・第15回：学習成果報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：10%
- ・ 小レポート×4回：40%
- ・ 学習成果報告会でのプレゼンテーション：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション (小倉北区の魚町商店街内) 」にて開講される。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育 (子供) ・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた中世・近世初期の日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%
ミニツツペーパー... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が2 / 3未滿の受講生については試験を受ける資格を付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養う事を旨とする。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのようなかかわりは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみにとどまる事なく、東アジアという包括的な視座に置き、北アジア・西アジア・東南アジアの諸地域をも含みつつ、各時代の政治・経済・外交・文化・思想等の多角的な方面から理解する事を掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 隋唐と朝鮮・日本 - 中国の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...30%・定期試験...70%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
平常の受講態度を見るため、授業中に予告なく小テストを実施する事も有り得る。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。
出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修している事が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与える事が確実な中国の歴史について学ぶ事は、必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 北アジア 西アジア 東南アジア 中国 朝鮮 日本 政治 経済 外交 文化 思想

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 堤 圭史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、国内外の地域社会で生きる人々が抱える諸問題を社会的に解読していく力を身につけることにある。社会学とは、我々が生活している世界の中から、(1)「不思議」な社会現象を見つけだし、(2)その現象がいかなるものであるかを記述した上で、(3)なぜそのような「不思議」な社会現象が発生・存続しているのかを説明し、さらに(4)その社会現象が何らかの問題をはらんでいるものである場合には、その現象の発生・存続のメカニズムをふまえて、よりよいシステムを構想してゆく科学である。この授業では、まず、社会学に特徴的な社会現象の捉え方について社会学の古典的著作を例にとりあげながら紹介していく。ついで、「組織」、「家族」、「農山村」、「都市」、「階層」、「逸脱」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。レジメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会学がわかる事典』(森下伸也、日本実業出版社)
- 『社会学をつかむ』(西澤晃彦・渋谷望著、有斐閣)
- 『畏怖する近代』(左古輝人著、法政大学出版局)
- 『社会学』(長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志著、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回: 本講義のテーマ、内容、構成の紹介
- 第2回: 社会と個人、個人と社会(1)【E. デュルケム】
- 第3回: 社会と個人、個人と社会(2)【M. ウェーバー】
- 第4回: 集団と組織(1)【集団の諸類型、社会集団の構造と機能】
- 第5回: 集団と組織(2)【官僚制と民主主義】
- 第6回: 家族(1)【社会変動と家族】
- 第7回: 家族(2)【家族問題と社会問題】
- 第8回: 階層と社会移動(1)【階級・階層の捉え方】
- 第9回: 階層と社会移動(2)【社会移動と教育】
- 第10回: 都市と農村(1)【都市化とコミュニティ】
- 第11回: 都市と農村(2)【社会変動と都市問題】
- 第12回: 逸脱と統制(1)【正常と異常 / 同調と逸脱】
- 第13回: 逸脱と統制(2)【逸脱の捉え方】
- 第14回: グローバル化とエスニシティ
- 第15回: まとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小レポート30%。講義内容の理解度と、問題意識の明確さに注目し評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 【近世・近代日本の都市発展】
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 【現代日本の都市発展】
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 【農業立地論】
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 【日本農村の構造的変化】
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 【中心地理論】
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 【都市の内部構造】
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 【都市と郊外】
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 【都市システム】
- 第10回 商業立地と流通システム(1) 【チェーンストアの配送】
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 【大型店と商店街】
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 【工業立地論】
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 【空間分業】
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 【産業集積の理論】
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 【産業集積の実態】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を中心に学びます。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法を学ぶとともに、地理学的知見を高めることを目的とします。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力
- 3回 地図の歴史
- 4回 地図には、どのような種類があるか
- 5回 地図は、どのように作られるか
- 6回 地図記号と景観
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習)
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 海岸砂丘の環境と土地利用を読む
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 歴史景観を読む
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける地誌の諸相をテーマとする。世界地誌、日本地誌、身近な地域の地誌を通じて、それぞれの地域の知識を得るとともに、地誌学に様々な表現方法があることを習得してもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 世界地誌(1) 世界の自然・人文環境
- 第3回 世界地誌(2) 東アジア
- 第4回 世界地誌(3) 東南アジア
- 第5回 世界地誌(4) 南アジア・西アジア
- 第6回 世界地誌(5) アフリカ
- 第7回 世界地誌(6) ヨーロッパ
- 第8回 世界地誌(7) アングロアメリカ
- 第9回 世界地誌(8) ラテンアメリカ
- 第10回 世界地誌(9) オセアニア
- 第11回 日本地誌(1) 日本の自然環境
- 第12回 日本地誌(2) 日本の人文環境
- 第13回 身近な地域の地誌(1) 北九州地域の地誌
- 第14回 身近な地域の地誌(2) 筑豊地域の地誌
- 第15回 身近な地域の地誌(3) 下関地域の地誌

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第2版)』(青林書院・2011年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 長谷部恭男他編『憲法判例百選I・II(第6版)』(有斐閣・2013年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(人権享有主体)
- 第5回 人権各論②(幸福追求権)
- 第6回 人権各論③(平等原則)
- 第7回 人権各論④(信教の自由)
- 第8回 人権各論⑤(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権・権力分立)
- 第10回 統治機構②(日本の政治制度)
- 第11回 統治機構③(日本の選挙制度)
- 第12回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第13回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第14回 平和主義③(憲法9条と裁判所)
- 第15回 日本憲法史

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に必要なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が確立することを意図している。

教科書 /Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション 倫理学とは何か。
- 第2回 古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスとプラトンの倫理思想 【徳と国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(2) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスの倫理思想 【ユダヤ教イエス派】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) パウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) アウグスティヌスと聖フランチェスコの倫理思想 【信と知】
- 第7回 キリスト教の倫理(4) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第8回 近代の倫理思想(1) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(2) スピノザの倫理思想 【ラディカルな啓蒙】
- 第10回 近代の倫理思想(3) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(4) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(5) ヘーゲルの倫理思想 【国家と理性】
- 第13回 近代の倫理思想(6) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想 ハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む) 40パーセント
講義で紹介した参考文献のどれかを読んで書く期末レポート 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で配布した資料を読み、自分なりの整理をしておく。毎回リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問して下さい。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会、ネットワーク、セキュリティ

データ処理【昼】

担当者名 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国 1 - 1 . 国
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1 - 2 . 再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国1-3.国
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1-4.再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによってできている。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指す。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになる。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要がある。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ているといえる。この授業で使用するプログラミング言語は、VBA（Visual Basic for Application）である。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっている。

この授業は、パソコンを利用して授業を行う。具体的には、以下のような項目を身につける：

- コンピュータが行っている情報処理の流れ
- 論理的な思考方法の基礎
- VBAを用いたプログラム作成の基礎

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとは何か【VBA】
- 2回 VBAによるプログラミングの方法と簡単なプログラムの作成【Range】【フォント指定】
- 3回 プログラミングの計画について【フローチャート】
- 4回 基礎的なプログラムの作成【Select】【With】【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】【幅と高さ設定】【線種設定】【色設定】
- 6回 メッセージボックスとワークシート操作【MsgBox】【Worksheets】
- 7回 変数と条件分岐構文【変数の宣言】【変数のデータ型】【If文】
- 8回 条件分岐構文と乱数を利用したプログラム【ランダム関数】
- 9回 多重の条件分岐構文【If文のネスト】
- 10回 繰り返し構文1【For文】
- 11回 繰り返し構文2【While文】
- 12回 繰り返し構文の練習1【変数の四則演算】【「=」の意味】
- 13回 繰り返し構文の練習2【永久ループ】【変数のシミュレーション】
- 14回 多方向条件分岐構文【Select Case文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなる。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなる。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説する。

キーワード /Keywords

プログラミング VBA フローチャート

英語I (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4、小テスト
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7、小テスト
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10、小テスト
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 小テスト、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(4回)... 85% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力 (リーディング力) や聴く力 (リスニング力) の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況 (小テストを含む)...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test
(朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力 (リーディング力) や聴く力 (リスニング力) の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況 (小テストを含む)...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4、小テスト
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7、小テスト
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10、小テスト
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 小テスト、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(4回) ... 85% 日常の授業への取り組み... 15%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Laos, the Amazon of Asia
- 3 回China's Dirty Secrets
- 4 回China, Beyond the Lost Horizon
- 5 回Japan, The Fukushima Syndrome
- 6 回Philippines, Living with Slums
- 7 回Indonesia, Rainforest Warriors
- 8 回Indonesia, Paper Tiger
- 9 回Thailand, Red and Yellow
- 1 0 回UK, The Generation Game
- 1 1 回UK, Snatched Kids
- 1 2 回UK, The Great British Wedding
- 1 3 回UK, Tax the Fat
- 1 4 回USA, City of the Century
- 1 5 回Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語III (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Fun Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Travel-Introductions
- 第 3 回 Travel-Building Skills
- 第 4 回 Travel-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Shopping-Introduction
- 第 7 回 Shopping-Building Skills
- 第 8 回 Shopping-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Movies-Introduction
- 第11回 Movies-Building Skills
- 第12回 Movies-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4-6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語III (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Communicative English skills

教科書 /Textbooks

English in Common 4 (Pearson)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Relationships)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (In the Media)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Home sweet home)
- 第 6 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 7 回: Unit 4 and discussion in English (Wealth)
- 第 8 回: Unit 5 and discussion in English (Spare time)
- 第 9 回: Unit 6 and discussion in English (Travel tales)
- 第 10 回: Unit 7 and discussion in English (Lifelong learning)
- 第 11 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 12 回: Unit 8 and discussion in English (Making changes)
- 第 13 回: Unit 9 and discussion in English (On the job)
- 第 14 回: Unit 10 and discussion in English (Memories of you)
- 第 15 回: Class presentations (Original Topics)

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

As instructed by teacher
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy learning English together

キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語Ⅳ (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Egypt, Sisters of the Revolution
- 2 回Nigeria, the Legacy of Empire
- 3 回Africa, End of the Elephant
- 4 回Africa, The Curse of Gold
- 5 回Zimbabwe, Blood Diamonds
- 6 回Libya, The Gaddafi Years
- 7 回Kenya, School of Olympic Dreams
- 8 回UK, Getting the Balance Right
- 9 回UK, The Cost of Going Green
- 1 0 回UK, The Parent Trap
- 1 1 回Japan, Sayonara Baby
- 1 2 回New Zealand, Adrenalin Nation
- 1 3 回Australia's Hidden Valley
- 1 4 回European Union, Joining the Club
- 1 5 回Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語Ⅳ (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn to express through writing and speaking. Students will activate the knowledge of English which they already possess as well as build vocabulary. Through collaboration and teacher feedback, students will gain more confidence in their English skills.

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Fun Flavor Book 2. Robert Murphy. Deeper Understanding Books.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Sports-Introductions
- 第3回 Sports-Building Skills
- 第4回 Sports-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Music-Introduction
- 第7回 Music-Building Skills
- 第8回 Music-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Fashion-Introduction
- 第11回 Fashion-Building Skills
- 第12回 Fashion-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test Practice / Composition

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 3 x 20% = 60%. Essay 20%. Exam 20%.
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course will give students experiences in the four basic language skills. There is a main emphasis on speaking, but writing, listening and comprehension are expected to lead the student to a more fluent and less mechanical approach to English.

教科書 /Textbooks

English inCommon published by Pearson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting acquainted & writing student information cards
2. Unit 6 Lessons 1 & 2
3. Unit 6 Lessons 3 & 4
4. Unit 7 Lessons 1 & 2
5. Unit 7 Lessons 3 & 4
6. Unit 8 Lessons 1 & 2
7. Unit 8 Lessons 3 & 4
8. Conversation Test & Written Grammar Review Test
9. Writing & Speech class
10. Unit 9 Lessons 1 & 2
11. Unit 9 Lessons 3 & 4
12. Unit 10 Lessons 1 & 2
13. Unit 10 Lessons 3 & 4
14. Conversation Test & Written Grammar Review Test

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be an average of all class work and Tests. The final examination will be worth 30%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Every students is required to do all of the classwork and tests. Students absent when there is an assignment or test must make that assignment or test up. This is the student's responsibility, not the teacher's. Work that is not completed by the deadline set by the teacher will be considered "0" when averaging the total marks.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

If you relax and don't worry about your mistakes in daily classes, you will progress fast. If you are afraid of making mistakes your progress will be very very slow.

キーワード /Keywords

英語V (国 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test
(朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (国 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット1
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット1
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット1
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット1
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット1
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット1
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット1
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット1
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット1
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット1
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (国 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (国 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (国 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 3 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (国 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット1
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット1
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット1
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット1
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット1
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット1
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット1
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット1
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット1
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット1
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (国 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Communicative English skills

教科書 /Textbooks

English in Common 4 (Pearson)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Relationships)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (In the Media)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Home sweet home)
- 第 6 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 7 回: Unit 4 and discussion in English (Wealth)
- 第 8 回: Unit 5 and discussion in English (Spare time)
- 第 9 回: Unit 6 and discussion in English (Travel tales)
- 第 10 回: Unit 7 and discussion in English (Lifelong learning)
- 第 11 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 12 回: Unit 8 and discussion in English (Making changes)
- 第 13 回: Unit 9 and discussion in English (On the job)
- 第 14 回: Unit 10 and discussion in English (Memories of you)
- 第 15 回: Class presentations (Original Topics)

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

As instructed by teacher
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy learning English together

キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語VII (国 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Laos, the Amazon of Asia
- 3 回China's Dirty Secrets
- 4 回China, Beyond the Lost Horizon
- 5 回Japan, The Fukushima Syndrome
- 6 回Philippines, Living with Slums
- 7 回Indonesia, Rainforest Warriors
- 8 回Indonesia, Paper Tiger
- 9 回Thailand, Red and Yellow
- 1 0 回UK, The Generation Game
- 1 1 回UK, Snatched Kids
- 1 2 回UK, The Great British Wedding
- 1 3 回UK, Tax the Fat
- 1 4 回USA, City of the Century
- 1 5 回Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語VII (国 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国 2 - C
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4-6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語VIII (国 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course will use the four basic language skills to the end that each student will have a chance to become more fluent in English. Each student will be required to speak in every class. Periodic writing assignments will challenge the students use of the language and give an opportunity for him to learn from his mistakes.

教科書 /Textbooks

English in Common 4 published by Pearson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting acquainted and filling out student information cards
2. Unit 6 Lessons 1 & 2
3. Unit 6 Lessons 3 & 4
4. Unit 7 Lessons 1 & 2
5. Unit 7 Lessons 3 & 4
6. Unit 8 Lessons 1 & 2
7. Unit 8 Lessons 3 & 4
8. Unit 9 Lessons 1 & 2
9. Unit 9 Lessons 3 & 4
10. Mid semester test 1. Written Grammar Test Units 6~9 Conversation Test
11. Unit 10 Lessons
12. Unit 11 Lessons
13. Unit 12 Lessons
14. Oral Conversation Test

成績評価の方法 /Assessment Method

The grade will be an average of all tests and assignment. The final exam will be worth 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

All students will be required to do all of the work. When you are absent you must make up the work you have missed. Otherwise your missing assignment or test may effect your grade.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Don't worry about making mistakes in weekly classes. Relax and enjoy communicating in English with me and with each other.

There are two levels of students using this book. Assignments and tests will take this into consideration.

キーワード /Keywords

英語VIII (国 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Egypt, Sisters of the Revolution
- 2 回Nigeria, the Legacy of Empire
- 3 回Africa, End of the Elephant
- 4 回Africa, The Curse of Gold
- 5 回Zimbabwe, Blood Diamonds
- 6 回Libya, The Gaddafi Years
- 7 回Kenya, School of Olympic Dreams
- 8 回UK, Getting the Balance Right
- 9 回UK, The Cost of Going Green
- 1 0 回UK, The Parent Trap
- 1 1 回Japan, Sayonara Baby
- 1 2 回New Zealand, Adrenalin Nation
- 1 3 回Australia's Hidden Valley
- 1 4 回European Union, Joining the Club
- 1 5 回Student Presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語VIII (国 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 In this course, students will learn to express through writing and speaking. Students will activate the knowledge of English which they already possess as well as build vocabulary. Through collaboration and teacher feedback, students will gain more confidence in their English skills.

教科書 /Textbooks
 Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2. Robert Murphy. Deeper Understanding Books.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Sports-Introductions
- 第3回 Sports-Building Skills
- 第4回 Sports-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Music-Introduction
- 第7回 Music-Building Skills
- 第8回 Music-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Fashion-Introduction
- 第11回 Fashion-Building Skills
- 第12回 Fashion-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test Practice / Composition

成績評価の方法 /Assessment Method
 Presentations: 3 x 20% = 60%. Essay 20%. Exam 20%.
 Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

時事的な英文記事や学術的な英文テキストなどを用いて、英語力に磨きをかけることを目的とする。あわせて、関連する文化的事象についての理解を深めていくことも目的とする。

教科書 /Textbooks

配布プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 時事英語①
- 4回 アカデミックリーディング①
- 5回 グループ討論①
- 6回 グループ討論②
- 7回 時事英語②
- 8回 アカデミックリーディング②
- 9回 グループ討論③
- 10回 グループ討論④
- 11回 時事英語③
- 12回 アカデミックリーディング③
- 13回 グループ討論⑤
- 14回 グループ討論⑥
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験あるいは期末課題...30%、平常の学習状況 (小テストを含む)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

言語に関するエッセイを読みながら、英語の読解力の向上だけでなく、言語そのものに対する理解を深めることを目標とする。毎回、一人ないし、二人の担当者が教科書の内容をレポートしながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが、求められる。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 4
- 7回 Chapter 5
- 8回 Chapter 5
- 9回 Chapter 6
- 10回 Chapter 6
- 11回 Chapter 7
- 12回 Chapter 7
- 13回 Chapter 8
- 14回 Chapter 8
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業での質問等、授業への積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語XII (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Happiness-Introductions
- 第 3 回 Happiness-Building Skills
- 第 4 回 Happiness-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Religion-Introduction
- 第 7 回 Religion-Building Skills
- 第 8 回 Religion-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4-6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 戦兵 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 戦兵 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関（本文）
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州（本文）
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡（本文）
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀（本文）
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎（本文）
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国（本文）
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道（本文）
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州 (会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡 (会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎 (会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国 (会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州 (会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡 (会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎 (会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国 (会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州 (会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡 (会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎 (会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国 (会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひとつと終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
中国政府公認のビジネス中国語試験（BCTテスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月
「体験漢語 - 公務編」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期
第1回 第1課 単語練習、聴解練習
第2回 第1課 会話、作文練習
第3回 第1課 場面の体験
第4回 第2課 単語練習、聴解練習
第5回 第2課 会話、作文練習
第6回 第2課 場面の体験
第7回 第3課 単語練習、聴解練習
第8回 第3課 会話、作文練習
第9回 第3課 場面の体験
第10回 第4課 単語練習、聴解練習
第11回 第4課 会話、作文練習
第12回 第4課 場面の体験
第13回 第5課 単語練習、聴解練習
第14回 第5課 会話、作文練習
第15回 第5課 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。
就職に有利になるビジネス中国語の中国政府公認試験BCTに挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、 ビジネス文章

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひとつと終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

中国政府公認のビジネス中国語試験（BCTテスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月
「体験漢語 - 公務編」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期

第1回 第6課 単語、聴解練習
第2回 第6課 会話、作文練習
第3回 第6課 場面の体験
第4回 第7課 単語、聴解練習
第5回 第7課 会話、作文練習
第6回 第7課 場面の体験
第7回 第8課 単語、聴解練習
第8回 第8課 会話、作文練習
第9回 第8課 場面の体験
第10回 第9課 単語、聴解練習
第11回 第9課 会話、作文練習
第12回 第9課 場面の体験
第13回 第10課 単語、聴解練習
第14回 第10課 会話、作文練習
第15回 第10課 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になるビジネス中国語の中国政府公認試験（BCT基礎）に挑戦してほしい

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、 ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 ホテルの予約【起点・終点】
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立てる中国語』[改訂版]王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版)王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心にする反復練習を望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 母音 (1)
3. 子音 (1)
4. 子音 (2)
5. 子音 (3)
6. 子音 (4)
7. 子音 (5)
8. 母音 (2)
9. 終声 (1)
10. 発音の変化 (1)
11. 発音の変化 (2)
12. 【指定詞の丁寧形】
13. 【指定詞の丁寧形・疑問】
14. 【指定詞の丁寧形・否定】
15. 【指定詞の丁寧形・否定の疑問】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩(改訂版)』(叢基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、 白水社) 定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 前期のまとめ、
- 2 . 【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3 . 【動詞と形容詞の丁寧形・疑問】
- 4 . 【動詞と形容詞の丁寧形】
- 5 . 【漢数詞】【固有数詞】
- 6 . 【動詞と形容詞の丁寧形・否定】
- 7 . 【指定詞の打ちとけた丁寧形・疑問と否定】
- 8 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形】
- 9 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・変則活用】
- 10 . 【尊敬表現の丁寧形・疑問と否定】
- 11 . 【尊敬表現のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
- 12 . 【動詞と形容詞の丁寧形・過去】
- 13 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
- 14 . 【意思・推量・婉曲表現】
- 15 . 【願望表現】【勧誘表現】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 1学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 国1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長(朝日出版社)
 油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、セスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - 1・2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『楽しくできる韓国語初級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 用言活用の基本について
- 3回 第1課 食べ方がけっこう違いますね。【動詞の現在連体形】
- 4回 第2課 韓国へ行ったことがありますか？【動詞の過去連体形】【経験を述べる】
- 5回 第3課 卒業したら何をするつもりですか？【動詞の未来連体形】【予定を述べる】
- 6回 復習とフリーターキング
- 7回 第4課 背の高い男は誰ですか？【形容詞の現在連体形】
- 8回 第5課 お忙しいところすみません。【～のですが、～のに】
- 9回 第6課 熱いから気をつけてください。【は不規則活用】【理由】
- 10回 第7課 外国語は毎日聞かなければなりません。【に不規則活用】【義務】
- 11回 復習とフリーターキング
- 12回 第8課 風邪はすっかり治ったんですか？【人不規則活用】【理由②】
- 13回 第9課 A型とO型はどう違いますか？【三不規則活用】
- 14回 第10課 赤い色はありませんか？【を不規則活用】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）初級での学習事項（基礎文法）に加え中級文法を学ぶ。
文法の知識を踏まえて読み書きの力を養う。音読練習の徹底や会話練習も取り入れながら学習内容の理解を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語初級II』（新大久保学院、李志瑛・金鎮姫）DEKIRU出版 定価2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 初級のまとめ
3. 【動詞の現在連体形】
4. 【先行動作の用法】
5. 【動詞の過去連体形】
6. 【動詞の未来連体形】【～するつもりです】
7. 【形容詞の現在連体形】
8. 【名詞文の現在連体形】
9. 【～なのに】【～のですが】【語彙の補足】
10. 1課～5課のまとめ
11. 【不規則活用①】【理由】
12. 【不規則活用②】【～しなければなりません】
13. 【不規則活用③】【ために、ので】
14. 【不規則活用④】【～じゃないですか】
15. 6課～9課のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - 1・2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『楽しくできる韓国語初級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第11課 私もメール送ります。【話者の意思・約束】
- 4回 第12課 あそこに何と書いてありますか？【完了状態の継続】【禁止】
- 5回 第13課 雨が降りそうですね。【過去・現在・未来の推量】
- 6回 復習とフリートーキング
- 7回 第14課 新年の挨拶をした後、お墓参りに行きます。【～する前に、～した後に】
- 8回 第15課 辛くして食べるほうです。【傾向を述べる】
- 9回 第16課 日本にいらしてからどれくらいになりましたか？【時間の経過】
- 10回 復習とフリートーキング
- 11回 第17課 こうすれば探しやすいです。【-기 名詞化】
- 12回 第18課 運転お上手でしょうね。【推測・予測、～するとき】
- 13回 第19課 私がお待ちしましょうか？【～あげる・～てくれる】
- 14回 第20課 何を召し上がりますか？【意思・話者の願望】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）前期での学習事項に加え中級文法を学ぶ。
文法の知識を踏まえて読み書きの力を養う。音読練習の徹底や会話練習も取り入れながら学習内容の理解を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語初級II』（新大久保学院、李志瑛・金鎮姫）DEKIRU出版 定価2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 【不規則活用⑥】【～みてください】
3. 【話者の意志・約束】
4. 【完了状態の継続】
5. 【～しないでください】
6. 【過去 / 現在 / 未来の推量】
7. 【～する前に】【～する後】
8. 【～するほうだ】【～になる】
9. まとめ10課～15課
10. 【時間の経過】【～しようと思っています】
11. 【名詞化】
12. 【推測・予測】
13. 【するとき・したとき】
14. 【～てあげる / ～てくれる】
15. まとめ16課～19課

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国2 - 1・2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使いたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社(2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前などとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前などとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

講義概要：朝鮮語の言語能力及び朝鮮文化への理解を通して、国際化に対応できるコミュニケーション能力の育成を目的とする。
到達目標：朝鮮語Ⅶでは、朝鮮語Ⅲ・Ⅳ前期・後期で学習した基礎韓国語を基にして、初級上レベルのコミュニケーション能力の向上を目標としています。前期は、「自己紹介」「約束」「道案内」など、身の回りのトピックについて学習します。

教科書 /Textbooks

「ちょこっとチャレンジ！韓国語」金順玉・阪堂千津子・崔栄美 著 白水社、2013年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『パスポート朝鮮語小辞典』（朝和+和朝）、塚本勲監修、白水社
- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』、油谷幸利他編集、小学館
- 『朝鮮語辞典』、油谷幸利他編集、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回講義案内及び第1課「名前はなんとおっしゃいますか？」
- 第2回第1課「名前はなんとおっしゃいますか？」
- 第3回第1課「名前はなんとおっしゃいますか？」
- 第4回第2課「朝子といいますが、日本から来ました。」
- 第5回第2課「朝子といいますが、日本から来ました。」
- 第6回第2課「朝子といいますが、日本から来ました。」
- 第7回第3課「魚は焼かないでください。」
- 第8回第3課「魚は焼かないでください。」
- 第9回第3課「魚は焼かないでください。」
- 第10回第4課「ファンの集いに行くことにしました。」
- 第11回第4課「ファンの集いに行くことにしました。」
- 第12回第4課「ファンの集いに行くことにしました。」
- 第13回第5課「道を渡って左にずっと行ってください。」
- 第14回第5課「道を渡って左にずっと行ってください。」
- 第15回第5課「道を渡って左にずっと行ってください。」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト（音読・会話・語彙・文型）及び課題への取り組み度（30%）
- 授業への参加意欲及び発言度（20%）
- 学期末試験（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 朝鮮語Ⅲ（前期）・朝鮮語Ⅳ（後期）の単位取得済みが望ましい。
- ペア授業を行うので会話演習へ取り組みと講義での積極的な発言意欲をもつこと。
- 音読・会話テストに向けた自習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - 1・2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使いたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみてください。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみてください。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

講義概要：朝鮮語の言語能力及び朝鮮文化への理解を通して、国際化に対応できるコミュニケーション能力の育成を目的とする。

到達目標：朝鮮語VIIIでは、朝鮮語III、IV（前期・後期）で学習した基礎韓国語を基にして、中級上レベルのコミュニケーション能力の向上を目標としています。後期は、「買い物」「体の具合」「思い出」など身の回りのトピックについて学習します。

教科書 /Textbooks

「ちょこっとチャレンジ！韓国語」金順玉・阪堂千津子・崔栄美 著、白水社、2013年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『パスポート朝鮮語小辞典』（朝和+和朝）、塚本勲監修、白水社
- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』、油谷幸利他編集、小学館
- 『朝鮮語辞典』、油谷幸利他編集、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回講義案内及び第6課「ファンの集いに行ってみてください・・・」
- 第2回第6課「ファンの集いに行ってみてください・・・」
- 第3回第6課「ファンの集いに行ってみてください・・・」
- 第4回第7課「少し安くしてください。」
- 第5回第7課「少し安くしてください。」
- 第6回第7課「少し安くしてください。」
- 第7回第8課「私の気持ちですから受け取ってください。」
- 第8回第8課「私の気持ちですから受け取ってください。」
- 第9回第8課「私の気持ちですから受け取ってください。」
- 第10回第9課「咳がひどくて眠れませんでした。」
- 第11回第9課「咳がひどくて眠れませんでした。」
- 第12回第9課「咳がひどくて眠れませんでした。」
- 第13回第10課「字幕を見ながら勉強します。」
- 第14回第10課「字幕を見ながら勉強します。」
- 第15回第10課「字幕を見ながら勉強します。」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト（音読・会話・語彙・文型）及び課題への取り組み度（30%）
- 授業への参加意欲及び発言度（20%）
- 学期末試験（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 朝鮮語VII(前期)の単位修得済みが望ましい。
- ペア授業を行うので会話演習へ取り組みと講義での積極的な発言意欲をもつこと。
- 音読・会話テストに向けた自習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。

教科書 /Textbooks

曹喜淑 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書を基本としながら、適宜プリントを配布する予定。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介とウォーミングアップ
- 3回 第1課 紹介①
- 4回 第1課 紹介②
- 5回 第2課 旅行①
- 6回 第2課 旅行②
- 7回 第3課 予約①
- 8回 第3課 予約②
- 9回 第4課 案内①
- 10回 第4課 案内②
- 11回 第5課 ショッピング①
- 12回 第5課 ショッピング②
- 13回 第6課 交通①
- 14回 第6課 交通②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み... 40% 期末試験またはレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人
/Class 3年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書を基本としながら、適宜プリントなどを配布する予定。

- 1回 ガイダンス
- 2回 第7課 キャンセル①
- 3回 第7課 キャンセル②
- 4回 第8課 新聞①
- 5回 第8課 新聞②
- 6回 第9課 伝達①
- 7回 第9課 伝達②
- 8回 第10課 食事①
- 9回 第10課 食事②
- 10回 第11課 電話①
- 11回 第11課 電話②
- 12回 第12課 文化①
- 13回 第12課 文化②
- 14回 第13課 美容室①
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み... 40% 期末試験またはレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中国2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 中国2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基本的な文法を学習し、簡単な自己表現を読み書き出来るようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

ジャンリュック・アズラ 他著 『モワ、ジュ・・・』 アルマ出版 2012年 2500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 フランス語の文字と発音
- 2回目 1課 主語人称代名詞 動詞 <etre>、男性形と女性形
- 3回目 1課 否定文
- 4回目 2課 <-er> 動詞の活用
- 5回目 2課 疑問文の形と疑問副詞
- 6回目 3課 疑問代名詞
- 7回目 3課 疑問形容詞、動詞 <avoir>
- 8回目 4課 不定冠詞と部分冠詞
- 9回目 4課 否定のde 量の表現
- 10回目 5課 定冠詞の用法 特定の物
- 11回目 5課 定冠詞の用法 一般的な物
- 12回目 6課 所有形容詞
- 13回目 6課 品質形容詞
- 14回目 7課 直接目的語代名詞
- 15回目 7課 間接目的語代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小テスト20% なお6月に実施される実用フランス語技能検定試験5級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文字の読み方、動詞の活用、男性名詞と女性名詞

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き基本的な文法を学習して、日常生活についての読み書きの表現力を深めます。

教科書 /Textbooks

ジャンリュック・アズラ 他著 『モワ、ジュ・・・』 アルマ出版 2012年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 8課 強勢形代名詞 前置詞
- 3回目 8課 位置の表現
- 4回目 9課 中性代名詞en
- 5回目 9課 中性代名詞y
- 6回目 10課 複合過去 助動詞 <avoir> を使って
- 7回目 10課 複合過去 助動詞 <etre> を使って
- 8回目 11課 半過去
- 9回目 11課 複合過去と半過去
- 10回目 12課 近接未来
- 11回目 12課 単純未来
- 12回目 13課 代名動詞の形
- 13回目 13課 代名動詞の意味
- 14回目 15課 比較級
- 15回目 15課 最上級

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 日常の授業への取り組み30% 小テスト20% なお11月に実施される実用フランス語技能検定試験4級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

代名詞 語順 時制

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2520)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

なお、1年生の1学期中に実用フランス語検定試験5級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。ただし申請を希望する者は、以下の三点について注意すること。

- 1 検定合格は単位認定の最低点を保証するものであり、成績はあくまでも日常の授業への取り組みならびに期末試験の結果による。
- 2 検定に合格した場合も必ず期末試験を受験すること。期末試験を受験しない場合、単位認定はできない。
- 3 検定合格の通知(コピー可)を必ず期末試験日(当日を含む)までに提示すること、期末試験当日に成績を出すため、以後の連絡には応じない。なお、期末試験の日時が検定の合格通知に先行する場合は、最終講義日までにその旨を申し出ること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2520）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞・数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去形の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来形の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

なお、1年生の2学期中に実用フランス語検定試験4級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。ただし申請を希望する者は、以下の三点について注意すること。

- 1 検定の合格は単位認定の最低点を保証するものであり、成績はあくまでも日常の授業への取り組みならびに期末試験の結果による。
- 2 検定に合格した場合も必ず期末試験を受験すること。期末試験を受験しない場合、単位認定はできない。
- 3 検定合格の通知(コピー可)を必ず期末試験日(当日を含む)までに提示すること、期末試験当日に成績を出すため、以後の連絡には応じない。なお、期末試験の日時が検定の合格通知に先行する場合は、最終講義日までにその旨を申し出ること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級で習得した基礎知識をもとに、さらに詳しく文法を学びフランス語らしい表現力アップを目標とします。

教科書 /Textbooks

高橋信良 他著 『フランス語ブルー2 トリコロール文法編』 朝日出版社 2014年 1200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1課 関係代名詞と中性代名詞
- 2回目 2課 補語人称代名詞
- 3回目 3課 非人称構文
- 4回目 4課 現在分詞とジェロンディフ
- 5回目 5課 知覚動詞
- 6回目 5課 使役動詞
- 7回目 6課 直説法大過去
- 8回目 7課 直説法単純未来
- 9回目 8課 関係代名詞 lequel
- 10回目 9課 条件法現在
- 11回目 9課 条件法過去
- 12回目 10課 間接話法
- 13回目 10課 感嘆文
- 14回目 11課 接続法 形と用法1
- 15回目 12課 接続法の用法2

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 日常の授業への取り組み30% 小テスト20% なお6月に実施される実用フランス語技能検定試験3級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することが出来る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動詞 単文と複文 法

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期に学習した事項をもとに作文の練習をして、よりフランス語らしい表現力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

星笠守之 他著 『フランス語プラン2 トリコロール 作文編』 朝日出版 1200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1課 関係代名詞 qui que
- 2回目 1課 関係代名詞 ce qui ce que
- 3回目 2課 関係代名詞 ou dont
- 4回目 2課 前置詞がつく関係代名詞
- 5回目 3課 現在分詞
- 6回目 3課 ジェロンドンディフ
- 7回目 4課 知覚構文
- 8回目 5課 使役文
- 9回目 6課 無生物主語
- 10回目 7課 強調構文
- 11回目 8課 非人称構文
- 12回目 9課 さまざまな接続詞 並列文
- 13回目 10課さまざまな接続詞 複文
- 14回目 11課 間接話法
- 15回目 12課 直説法か接続法か

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 日常の授業への取り組み30% 小テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

単文と複文 日本語とフランス語の同異

フランス語VII 【昼】

担当者名
/Instructor

ドゥラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中国2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française.

Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II".

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base.

Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話を培うことです。

語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。

フランス語の習得だけでなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。

指定の教科書を主に使い授業を進めます。

毎週、語彙の小テストを行います。

最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代, Brigitte Moser Hori) 三修社 2900 ¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Présentation des étudiants 自己紹介
- 2 - Révisions des bases (1) 基本の復習 1
- 3 - Se repérer dans l'espace (1) 位置関係 1
- 4 - Se repérer dans l'espace (2) 位置関係 2
- 5 - Au restaurant (1) レストランにて 1
- 6 - Au restaurant (2) レストランにて 2
- 7 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 1
- 8 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 2
- 9 - Le corps et la santé (1) 身体と健康 1
- 10 - Le corps et la santé (2) 身体と健康 2
- 11 - Les vacances (1) バカンス 1
- 12 - Les vacances (2) バカンス 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト (8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

なお、該当期間中に実用フランス語技能検定試験の3級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名
/Instructor

ドゥラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 中国2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française.

Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II".

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base.

Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけでなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代, Brigitte Moser Hori) 三修社 2900 ¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - A la Poste (1) 郵便局にて 1
- 2 - A la Poste (2) 郵便局にて 2
- 3 - L'environnement (1) 生活と環境 1
- 4 - L'environnement (2) 生活と環境 2
- 5 - La vie quotidienne : la famille (1) 日常生活 : 家族 1
- 6 - La vie quotidienne : la famille (2) 日常生活 : 家族 2
- 7 - La vie quotidienne : le week-end (1) 日常生活 : 週末の過ごし方 1
- 8 - La vie quotidienne : le week-end (2) 日常生活 : 週末の過ごし方 2
- 9 - Rêves de futur (1) 将来の夢 1
- 10 - Rêves de futur (2) 将来の夢 2
- 11 - Les sentiments (1) 様々な感情 1
- 12 - Les sentiments (2) 様々な感情 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト (8回)
- 30% exposé 発表
- 40% examen final 定期試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（含む1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですが、具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（第2版）
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス（共著）、弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
 電子辞書も奨めます。辞書については最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形の活用
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 serとestarの練習問題
- 14 serとestarの練習問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超過している場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を半期に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思うかもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
 スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
 スペイン(増田監修:新潮社)
 スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
 スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
 スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)
 辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 5回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 6回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 日付の表現
- 9回 時刻
- 10回 天気の表現
- 11回 不定語について
- 12回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 まとめ
- 15回 スペイン語のさらなる習得に向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語(スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など)に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易いので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 挨拶、スペイン語の発音、「じゃあね！」
- 3回 アクセントについて、ser動詞、「私はマリです」
- 4回 国籍・職業・出身地、「彼女は学生です」
- 5回 形容詞、指示詞、「この本は面白い」
- 6回 - ar動詞、- er動詞、- ir動詞、「スペイン語を話せる？」
- 7回 数字1-15、「どこに住んでいるの？」
- 8回 tener、数字16 - 100、「私は18歳です」
- 9回 所有詞、hacer、poner、decir、「家族」
- 10回 estar動詞、「どこにあるの？」
- 11回 hay、「この辺にバルはありますか？」
- 12回 querer、「スペインを旅行したい」
- 13回 poder、「今日はサッカーができません」
- 14回 目的格人称代名詞、「私に写真を見せてくれる？」
- 15回 不規則動詞・目的格人称代名詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IIIの復習
- 2回 ir/venirの表現「明日東京へ行きます。」
- 3回 「スペイン語を勉強するつもりです。」
- 4回 天候表現「今日はいい天気ですね。」
- 5回 時間表現「何時ですか？」
- 6回 gustar構文「私はバルサが好きです。」
- 7回 gustar型動詞「頭がいたいのか？」
- 8回 再帰動詞「私はマリといいます。」
- 9回 「もう行っちゃうの」
- 10回 比較級「フアのほうが背が高い。」
- 11回 「フアはクラスで一番絵が上手だ。」
- 12回 現在完了「楽しかった！」
- 13回 現在分詞「今掃除中です。」
- 14回 スペイン語でDVDを見る
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』第2版、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。スペイン語テキストの文法事項を押さえ、いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

前年度と同じテキストを使用します。(『コミュニケーションのためのスペイン語 三訂版』坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、2版(三訂版)
他、プリント配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 自己紹介、その他不規則動詞
- 3回 現在分詞、不定語と否定語「スペイン語を勉強しています。」
- 4回 過去分詞、現在完了「どうしましたか？」
- 5回 ser・estarの受身「泥棒は警察に逮捕された」
- 6回 接続法現在の活用
- 7回 接続法、名詞節「できたらこの本を送ってほしい」
- 8回 点過去「昨日パエージャを食べた」
- 9回 se受身、se 無人称「アパート貸します」
- 10回 線過去「昨日食事をしていたとき・・・」
- 11回 命令「口をあけて」
- 12回 比較「マリアは私より背が高い」
- 13回 相対・絶対最上級「高すぎる！」
- 14回 DVDなど視聴覚教材
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅶを更に発展させていきます。いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅶと同じテキスト『スペイン語でコミュニケーション 三訂版』(坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、三訂版2版)をそのまま使用します。
他、プリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書についてはスペイン語Ⅶに同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅶの復習
- 2回 関係詞「今朝来た人はなんていう名前？」
- 3回 関係副詞「バレンシアはよく米を食べる地域です」
- 4回 接続法の用法(形容詞節・副詞節)
- 5回 直説法未来「今度新しい車を買うだろう」
- 6回 直説法過去未来「昨日、今度新しい車を買うと言った」
- 7回 接続法過去「飛行機で旅行するよう勧めた」
- 8回 条件文「お金があったらもう一軒別荘を買うのに」
- 9回 短編教材と聞き取り
- 10回 短編教材と会話練習
- 11回 「自分の好きな有名人」
- 11回 「スペイン語圏で私が興味あること」
- 13回 スペイン語でDVDなどを見る(1)
- 14回 スペイン語でDVDなどを見る(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 60% 日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期 (ペア)
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
 - 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
 - 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
 - 4回 大学生生活(3)【大学教員・職員との付き合い方】
 - 5回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
 - 6回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】
 - 7回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】
 - 8回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】
 - 9回 大学生生活(8)【大学の定期試験】
 - 10回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・リストアップする】
 - 11回 論理的思考力(2)【マッピングする・キーワードを繋げる】
 - 12回 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
 - 13回 論理的思考力(4)【定義をする】
 - 14回 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・時間軸に沿って考える】
 - 15回 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・論理的に考えて表現する】
- 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力 論理的思考

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
 - 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
 - 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
 - 4回 大学生生活(3)【大学教員・職員との付き合い方】
 - 5回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
 - 6回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】
 - 7回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】
 - 8回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】
 - 9回 大学生生活(8)【大学の定期試験】
 - 10回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・リストアップする】
 - 11回 論理的思考力(2)【マッピングする・キーワードを繋げる】
 - 12回 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
 - 13回 論理的思考力(4)【定義をする】
 - 14回 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・時間軸に沿って考える】
 - 15回 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・論理的に考えて表現する】
- 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力 論理的思考

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 授業についてのコメントを書く【コメント用紙】
- 5回 伝言する【メモ】
- 6回 誘う・誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する・依頼される【携帯メール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【PCメール】
- 10回 報告する【PCメール】
- 11回 なくさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 12回 経験についての感想を書く【原稿用紙】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 自己PRを書く【原稿用紙】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(発表や課題を含む)・・・30% 試験・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語Iと日本語IIは、日本語IIIと授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 授業についてのコメントを書く【コメント用紙】
- 5回 伝言する【メモ】
- 6回 誘う・誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する・依頼される【携帯メール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【PCメール】
- 10回 報告する【PCメール】
- 11回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 12回 経験についての感想を書く【原稿用紙】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 自己PRを書く【原稿用紙】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(発表や課題を含む)・・・30% 試験・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語Iと日本語IIは、日本語IIIと授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方
- 3回 価値の一様性
- 4回 言葉の起源をもとめて
- 5回 経済学とは何か
- 6回 思いやり
- 7回 住まい方の思想
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査
- 10回 改訂 介護概論
- 11回 ことばの構造、文化の構造
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方
- 3回 価値の一様性
- 4回 言葉の起源をもとめて
- 5回 経済学とは何か
- 6回 思いやり
- 7回 住まい方の思想
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査
- 10回 改訂 介護概論
- 11回 ことばの構造、文化の構造
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IVでは、留学生が主体的に日本語の学習に取り組めるようにチュートリアルを行う。留学生が大学を卒業するためには、ある程度決まったレベルの高い日本語力が求められるが、それを獲得する道筋は人それぞれである。個別のニーズに応じた授業を提供して他の授業と相補関係を作ることで、より大きな教育効果を狙っている。

教科書 /Textbooks

『アカデミック・ジャパニーズ・ポートフォリオ(試作版)』を配布予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【チュートリアルの意義】
- 第2回 学習計画を立てる(1)知る【大学生に必要な日本語能力】【パフォーマンス・チェック】【学習評価】
- 第3回 学習計画を立てる(2)意識する【学習目標】【理想の自分】
- 第4回 学習計画を立てる(3)計画する【学習方法】【学習リソース】【評価方法】
- 第5回 実践する(1)試してみる【実践を評価する】
- 第6回 実践する(2)修正する【学習計画の修正】
- 第7回 チュートリアル(1)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第8回 チュートリアル(2)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第9回 チュートリアル(3)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第10回 振り返る(1)【自己評価】【学習計画の修正】
- 第11回 チュートリアル(4)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第12回 チュートリアル(5)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第13回 チュートリアル(6)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第14回 チュートリアル(7)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第15回 振り返る(2)総括【全体の振り返り】【評価表】【自己評価】【ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

教師の観察による評価...30% 評価表に基づく評価...70%(自己評価...40% ピア評価...30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語IVは、日本語Vと日本語VIと授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チュートリアル 学習者オートノミー 理想の自分 学習計画 自己評価

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IVでは、留学生が主体的に日本語の学習に取り組めるようにチュートリアルを行う。留学生が大学を卒業するためには、ある程度決まったレベルの高い日本語力が求められるが、それを獲得する道筋は人それぞれである。個別のニーズに応じた授業を提供して他の授業と相補関係を作ることで、より大きな教育効果を狙っている。

教科書 /Textbooks

『アカデミック・ジャパニーズ・ポートフォリオ(試作版)』を配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『自律を目指すことばの学習 : さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【チュートリアルの意義】
- 第2回 学習計画を立てる(1)知る【大学生に必要な日本語能力】【パフォーマンス・チェック】【学習評価】
- 第3回 学習計画を立てる(2)意識する【学習目標】【理想の自分】
- 第4回 学習計画を立てる(3)計画する【学習方法】【学習リソース】【評価方法】
- 第5回 実践する(1)試してみる【実践を評価する】
- 第6回 実践する(2)修正する【学習計画の修正】
- 第7回 チュートリアル(1)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第8回 チュートリアル(2)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第9回 チュートリアル(3)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第10回 振り返る(1)【自己評価】【学習計画の修正】
- 第11回 チュートリアル(4)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第12回 チュートリアル(5)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第13回 チュートリアル(6)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第14回 チュートリアル(7)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第15回 振り返る(2)総括【全体の振り返り】【評価表】【自己評価】【ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

教師の観察による評価...30% 評価表に基づく評価...70%(自己評価...40% ピア評価...30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語IVは、日本語Vと日本語VIと授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チュートリアル 学習者オートノミー 理想の自分 学習計画 自己評価

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語読解力」に焦点を当てる。「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語読解力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語読解力」に焦点を当てる。「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語読解力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 留学生1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 授業外学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。
授業外学生との作文交換活動を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Bでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。

具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。

授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歴史【江戸の町と町民文化】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序】
- 8回 歌舞伎(3)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵三段目】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 60% 自己評価 ... 20% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学期終了後ではあるが、2月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業概要

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からの回復から現代にいたる問題をとりあげ考えていく。

到達目標

1. 第二次世界大戦後、日本経済がどのような経過をたどって現在に至ったかを理解できる。
2. 1973年、1979年の石油ショックを契機に、日本経済が大きく変わったことを理解できる。
3. 1985年のプラザ合意以降、急激な円高に直面し、対外進出を強めたことを理解できる。
4. バブル経済とその崩壊後の日本経済の諸問題について理解できる。
5. 今後の日本経済のゆくえについて述べるができる。

教科書 /Textbooks

口講義のため指定の教科書なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書等

- 半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年
- 井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 戦後の荒廃から復興へ

- ①第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱

第2回 ②経済復興へ - 戦後の諸改革

省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦

第3回 ③占領下の経済から復興へ

第4回 2. 高度経済成長

- ① 高度経済成長へ

第5回 ②重化学工業の発展、国土開発政策の展開

第6回 ③経済発展と公害、四大公害訴訟

- ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第7回 3. 石油ショックと低成長

- ① 石油ショックとその影響

第8回 ②“重厚長大”から“軽薄短小”へ

第9回 ③貿易・経済摩擦

第10回 ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第11回 4. バブル崩壊、不況

- ①バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題

第12回 ②長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加

第13回 ③アジア諸国、中国経済の発展と日本経済

第14回 5. 現在の日本経済の諸問題

- ①少子高齢化社会保障

第15回 ②財政危機と国民生活

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート30%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ

- ・新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本は公的医療制度たる国民皆保険制度のおかげで、世界一の長寿国となった。男性は79歳、女性は86歳である。しかし医療費が年間30兆円を超えて財政難に直面している。

日本の将来の公的医療制度は如何にあるべきか。解答を得るために世界各国から来ている留学生に自国の公的医療制度を語ってもらう。その上でどの医療制度が我が国に最適かについて考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

留学生の説明を元に講義を行うので教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示するが、さしあたり、池上直己『ベーシック 医療問題』(日本経済新聞社)を挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本、イギリス、アメリカの医療制度の特徴
- 第2回 イギリスのNHS(ナショナル・ヘルスサービス)の歴史展開過程
- 第3回 第2次世界大戦とヘバリッジ報告書
- 第4回 大戦後のアトリー労働政権と福祉国家政策
- 第5回 ベバン保健大臣とNHS発足
- 第6回 NHSの組織とヘルスセンターの役割
- 第7回 サッチャー政権とNHS改革(1)
- 第8回 サッチャーの経済改革(2)
- 第9回 トニー・ブレア労働党のNHS改革
- 第10回 アメリカの医療制度
- 第11回 クリントンの医療改革
- 第12回 戦後日本経済史
- 第13回 国民皆保険制度の確立とその特徴
- 第14回 国民会保険制度の問題点
- 第15回 老人介護

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート20%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞を毎日読んで 自国の政治や経済、社会文化に目を通しておくこと。特に公的医療制度の変更事項には注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの政治Ⅲ【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の歴史について講じるが、対象とする時期は、主に植民地時代から19世紀後半までとする。現在われわれは、覇権国としてのアメリカの姿を当然のものとして理解しているが、この国は誕生してからまだ二百数十年しか経っておらず、初発の段階から超大国の資質を備えていたわけではない。それだけに、アメリカの成り立ちから発展のプロセスを検討していくことは意味があるといえよう。このような新興国が発展を遂げていく具体的過程を学び、最終的には、自国やその他の国々の政治発展と比較できるような視野を身につけることが本講義のねらいとなる。

教科書 /Textbooks

特に使用しないが、講義の予習・復習の助けとなる文献をガイダンスで紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の各回ごとに、さらに理解を深めることができるような文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大航海時代とアメリカ大陸
- 第3回 イギリスと植民地アメリカ
- 第4回 大西洋三角貿易と奴隷制
- 第5回 アメリカ独立革命
- 第6回 アメリカ合衆国憲法の成立
- 第7回 ハミルトン体制と産業革命
- 第8回 アメリカにおける政党対立
- 第9回 ジャクソニアン・デモクラシー
- 第10回 アメリカにおける先住民
- 第11回 初期アメリカにおける思想の生成
- 第12回 西部開拓の時代
- 第13回 南北戦争
- 第14回 金ぴか時代
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト...70%、小テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

パワーポイントなどを用いて講義を行う。また、受講者の理解を深めるために映像を使うことも考えている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

継続的な出席と、聴講後の復習が重要である。

キーワード /Keywords

アメリカ、政治発展、資本主義

アメリカの政治Ⅳ【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の政治発展について、南北戦争期から20世紀初頭までを扱う。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回19世紀後半のアメリカ政治の発展
- 第3回南北戦争の終結
- 第4回再建の時代のはじまり
- 第5回再建の時代の終結
- 第6回共和党政権と南北戦争後の連邦秩序
- 第7回金びか時代とマシーン政治
- 第8回北部の改革運動
- 第9回19世紀国家秩序の動揺
- 第10回1893年不況とポピュリズム
- 第11回マッキンレー政権の政治
- 第12回改革の時代
- 第13回帝国と帝国主義
- 第14回19世紀アメリカ民主政の特徴
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治I,II, IIIであつかう内容や、国際関係Iであつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治 歴史

アメリカの社会I【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

教科書 /Textbooks

明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ 多民族社会における統合の現実(第3版)』有斐閣選書、2011年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ:メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。
その他多数。授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 多民族国家アメリカ—概観
- 第3回 同化の諸概念
- 第4回 新大陸で出会った三つの人種集団
- 第5回 アングロ・アメリカ社会の形成
- 第6回 国民的統合に向けて
- 第7回 2011年の最もカレントなトピックについて(小テストを兼ねる)
- 第8回 「新移民」の流入(1)—イタリア移民、ユダヤ人移民
- 第9回 「新移民」の流入(2)—中国と日本からの移民
- 第10回 自由の女神の涙
- 第11回 多民族国家アメリカ—続く移民の流れ
- 第12回 平等の達成(1)—移民法の改正、先住民
- 第13回 平等の達成(2)—アフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人
- 第14回 真の平等を求めて—多様性と統合の調和
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 小テスト...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおく和良好的。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性はある。その場合は授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会II【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の民族的・人種的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観すると共に、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から、顕著なものを取り上げ、各項目について具体的な事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。授業を通して、アメリカ合衆国社会の特性について、総合的に理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

ジェームス・M・ヴァーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動：名もなき人びとの戦いの記録』（集英社新書、2007年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 19世紀前半までの黒人
- 第3回 南北戦争と奴隷制① - 綿花王国
- 第4回 南北戦争と奴隷制② - 戦争の経過
- 第5回 南部再建と人種関係の再編
- 第6回 近代黒人解放運動
- 第7回 二つの世界大戦と「市民」への道程
- 第8回 公民権運動と映画
- 第9回 公民権運動① - ブラウン判決以前の公民権運動
- 第10回 公民権運動② - 1950年代後半から1960年代前半
- 第11回 公民権運動③ - 混迷の時代へ
- 第12回 公民権運動を支えた人々
- 第13回 ポスト公民権運動期の黒人
- 第14回 アメリカにおけるアフアーマティブ・アクションの導入と展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(復習小テスト)...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおく和良好的。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究I【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を、特に教育問題を中心とする内政面から検討する。戦後の大まかな動きを確認し、ブレア政権以降のイギリス社会がどのような状況にあるかを検討する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【イギリス】
- 第2回 戦後イギリス社会に関する概説【福祉国家】
- 第3回 ブレア政権成立の背景【労働党】【サッチャー主義】
- 第4回 「階級社会」(1)【土曜の夜と日曜の朝】
- 第5回 「階級社会」(2)【労働者階級】
- 第6回 「階級社会」(3)【怒れる若者たち】【英国病】
- 第7回 ブレアの改革構想【国有化】【ヴォランティアリズム】
- 第8回 1997年以降のイギリス社会(1)【New Labour】【第三の道】
- 第9回 1997年以降のイギリス社会(2)【社会的公正】【グローバル化】
- 第10回 イギリスの社会政策(1)【市場経済】【雇用問題】
- 第11回 イギリスの社会政策(2)【包摂社会】【コミュニティ】
- 第12回 イギリスの教育政策(1)【1988年教育改革法】【Bridging the Gap】
- 第13回 イギリスの教育政策(2)【NEET】【社会的排除】
- 第14回 21世紀のイギリス社会とブレア改革【公共利益】【イギリス文化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究II 【昼】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を特に外交面から検討する。具体的には、ブレア政権の大きな成果とされる北アイルランド紛争の實質的な終結とブレア政権の躓きの石となったイラク戦争をめぐるイギリス社会・世論の動向について、考察を進める

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション【イギリス】【アイルランド】
- 第2回 北アイルランド問題の起源(1)【ナショナリズム】【独立戦争】
- 第3回 北アイルランド問題の起源(2)【アイルランド内戦】【デヴァレラ】
- 第4回 イギリス社会と北アイルランド紛争【公民権運動】【IRA】
- 第5回 北アイルランド平和の展開とイギリス(1)【グッドフライデー合意】【権限委譲】
- 第6回 北アイルランド平和の展開とイギリス(2)【武装放棄】【自治政府】
- 第7回 アイルランド社会の現在【経済成長】【グローバル化】
- 第8回 「帝国」喪失後のイギリス対外政策【帝国】【植民地】
- 第9回 ブレアの対外政策とイギリス社会の変化【欧州統合】【戦略防衛見直し】
- 第10回 コソヴォ紛争とイギリス社会【人権】【旧ユーゴ】
- 第11回 9・11以降のイギリス社会【アメリカ】【英米関係】
- 第12回 イギリス社会とイラク戦争(1)【イラク戦争】【世論】
- 第13回 イギリス社会とイラク戦争(2)【ケリー事件】【ハットン委員会】
- 第14回 21世紀のイギリス社会と対外関係【帝国意識】【イギリス文化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交I【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための基礎知識を習得する。授業では、中国の近現代史を政治的観点から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN~中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 なぜ中国は共産主義を選択したのか
- 3回 中国が国際政治の変遷から受けた影響
- 4回 建国当初の中国はどのような国家だったのか
- 5回 社会主義化
- 6回 文化大革命I【1960年代後半】
- 7回 文化大革命II【1970年代前半】
- 8回 近代化の模索
- 9回 改革開放I【対外開放】
- 10回 改革開放II【経済改革】
- 11回 改革開放がもたらした歪み
- 12回 第二次天安門事件
- 13回 改革開放の加速と政治改革の停滞
- 14回 現代の課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 授業で指示した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。
- (2) 「中国研究概論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交II【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、中国の外交政策・対外関係・台湾問題について、総合的に学ぶことである。国内政治、政策の変化、国際環境の変化と、中国外交の変化との関連性を示し、中国の視点から主要国との二国間関係や台湾問題を検討する。海洋主権や地域主義・グローバリズムへの参加といった今日的課題についても、中国国内の議論を紹介しながら説明する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～文献紹介と授業の進め方
- 2回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交I【イデオロギー、現実主義】
- 3回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交II【指導者と外交方針】
- 4回 対日関係I【国交正常化】
- 5回 対日関係II【ポスト毛沢東時代】
- 6回 中台関係I【基礎知識】
- 7回 中台関係II【中国の台湾政策】
- 8回 中台関係III【中台関係の現状分析】
- 9回 米中関係I【冷戦期】
- 10回 米中関係II【ポスト冷戦期】
- 11回 多国間外交：地域主義とグローバリズム
- 12回 経済外交・資源外交・安全保障I【概念】
- 13回 経済外交・資源外交・安全保障II【対外行動の分析】
- 14回 華僑華人と大陸中国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。
- (2) 「中国研究概論(旧カリ：地域研究入門中国)」「現代中国の政治(旧カリ：中国の政治外交I)」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の対外認識と論理を理解して、中国との共存可能性を模索する手がかりを得て下さい。

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交I【昼】

担当者名 /Instructor 山田 良介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・ この授業では、現代の韓国・北朝鮮と日本との関係について理解を深める。
- ・ 特に焦点を当てる事項は、日韓国交正常交渉の内容と問題点、歴史問題（強制連行問題、従軍慰安婦問題、歴史教科書問題、竹島問題、靖国神社参拝問題）、拉致問題、日韓国交正常化交渉問題、在日朝鮮・韓国人の問題である。
- ・ 韓国・北朝鮮の政治外交について調査、分析することを通じて、情報収集能力、思考力を養う。

教科書 /Textbooks

内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社、2002年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
田中宏、有光健、中山武敏他『未解決の戦後補償』創史社、2012年
その他、授業で適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。
- 2回 朝鮮半島と日本との近現代史の概要
- 3回 日韓国交正常化交渉における歴史問題の扱い①：NHK特集番組の視聴
- 4回 日韓国交正常化交渉における歴史問題の扱い②：NHK特集番組の視聴（続き）
- 5回 日韓国交正常化交渉における歴史問題の扱い③：日韓双方の立場の整理
- 6回 日韓国交正常化交渉における歴史問題の扱い④：日韓双方の立場の批評
- 7回 従軍慰安婦問題①：概要
- 8回 従軍慰安婦問題②：争点の整理
- 9回 従軍慰安婦問題②：解決方法の考察
- 10回 歴史教科書問題①：概要
- 11回 歴史教科書問題②：考察
- 12回 拉致問題と日韓国交正常化問題①：概要
- 13回 拉致問題と日韓国交正常化問題②：考察
- 14回 在日韓国・朝鮮人の問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に関するコメント40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストは、講義と相互補完的關係にあるので、きちんと読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交II【昼】

担当者名 /Instructor 宋 珉鎬 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・この授業では、韓国の環境問題に焦点を当て、韓国がどのような環境問題に直面してきたのか、そして、環境問題を巡り、どのような政治が展開されてきたのかについて理解を深める。
- ・話の進め方としては、先ず、韓国政治の歴史的展開と韓国における環境問題の変遷について概観する。次に、1961年にクーデターを経て誕生し、朝鮮戦争後低迷していた韓国経済を発展させることに成功した朴正熙政権から、朴正熙の娘である朴槿恵が率いる現在の政権まで、政権ごとに時期を区分し、各政権下で環境問題を巡る政治がどのように展開されてきたのか見ていく。
- ・また、国際的な課題である「持続可能な発展」の実現のために、韓国がどのような対応をしてきたのか、中央政府、地方政府、市民、NGOに焦点を当てながら、検討する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。随時資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 木村幹『韓国現代史-大統領たちの栄光と蹉跎』中央公論新社<中公新書>、2008年
- 具度完『韓国環境運動の社会学-正義に基づく持続可能な社会のために』法政大学出版社、2001年
- 大畑裕嗣『現代韓国の市民社会論と社会運動』成文堂、2011年
- 東アジア環境情報発信所編『環境共同体としての日中韓』集英社<集英社新書>、2006年
- 森晶寿編『東アジアの環境政策』昭和堂、2012年
- その他、授業で紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業の説明
2. 韓国政治の変遷
3. 韓国の環境問題の変遷
4. 強権体制下における環境問題を巡る政治状況①朴正熙政権期(1961年~79年)
5. 強権体制下における環境問題を巡る政治状況②全斗煥政権期(1980年~88年)
6. 民主化後の環境問題を巡る政治状況①盧泰愚政権期(1988年~93年)
7. 民主化後の環境問題を巡る政治状況②金泳三政権期(1993年~98年)
8. 民主化後の環境問題を巡る政治状況③金大中政権期(1998年~2003年)
9. 民主化後の環境問題を巡る政治状況④盧武鉉政権期(2003年~08年)
10. 民主化後の環境問題を巡る政治状況⑤李明博政権期(2008年~13年)
11. 民主化後の環境問題を巡る政治状況⑥朴槿恵政権期(2013年~現在)
12. 「持続可能な発展」に向けた取り組み①中央政府の対応
13. 「持続可能な発展」に向けた取り組み②地方政府の対応
14. 「持続可能な発展」に向けた取り組み③市民、NGOの対応
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・質疑応答など...10%、読書感想文...10%、発表...20%、期末試験...60%。
その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布する資料は、講義を理解するために、きちんと読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国政治、環境問題、民主化、持続可能な発展、NGO

東アジア地域秩序論I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際政治の観点から「東アジア共同体」を多元・重層的に捉え直し、アジア地域統合の課題や可能性を分析する。そして将来の東アジア地域秩序の構想・構築を展望する。

教科書 /Textbooks

山本吉宣等【編著】『国際政治から考える東アジア共同体』（ミネルヴァ書房、2012）、3200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の報告と補足講義で進行する。

- 第1回 教科書の紹介、第I部第1章 【地域統合】【理論】【制度】
- 第2回 第I部第2章 【東アジア共同体】【TPP】【アメリカの関与】
- 第3回 第I部第3章 【EU事例】【主権】
- 第4回 第I部第4章 【東アジア共同体憲章案】
- 第5回 第II部第5章 【ASEAN】【ヨーロッパ統合】
- 第6回 第II部第6章 【北東アジア】【朝鮮半島】
- 第7回 第II部第7章 【アジア太平洋】【中国】【アジア地域連携】
- 第8回 第II部第8章 【バルカン】【地域史】
- 第9回 第III部第9章 【地域安全保障】【中国】
- 第10回 第III部第10章 【安全保障】【地域秩序】
- 第11回 第III部第11章 【欧州共同体】【地域の不安定化】
- 第12回 第IV部第13章 【人の移動】【マイノリティ】
- 第13回 第V部第14章 【アイデンティティ】【東アジア・アイデンティティ】
- 第14回 第V部第15章 【戦後ドイツ】【東アジア地域統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告(20点)、レポート3本(80点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの過去・現在に関心を持ち、明るい将来を構想すること。

キーワード /Keywords

東アジア地域秩序論II 【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近代における東アジア地域秩序の変容を論じ、将来の東アジア地域秩序を考えること。そのため、講義II(後期)の授業では、東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)のナショナリズムの形成と展開を考察する。その過程で、三国それぞれのナショナリズムの特徴を比較考察する。また、ナショナリズム論も考察する。最後に、三国のナショナリズムと「グローバル化時代の東アジア」を対比し、それを調和させるべく、「東アジア共同体論」を検討する。講義全体のキーワードは【アジアからの視点】【文明論的な視点】【ナショナリズム】【東アジア共同体】

教科書 /Textbooks

米原謙・金鳳珍・區建英著『東アジアのナショナリズムと近代-なぜ対立するのか-』大阪大学出版会、2011、3700円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- テキストの精読、学生の報告、補足講義という形で行う。
- 1回 概説と教科書の序章【アジアからの視点】【文明論的な視点】
 - 2回 第一章の一【国体論】【国体ナショナリズム】
 - 3回 第一章の二、三【中華世界像】【国民国家】【明治儒学と国体】
 - 4回 第二章の一、二【原初ナショナリズム】【近代ナショナリズム】
 - 5回 第二章の三、四【ナショナリズムの噴出と相克】
 - 6回 第三章の一、二【洋務運動】【戊術変法】【ナショナリズムの萌芽】
 - 7回 第三章の三【辛亥革命】【民族主義】【国粹主義】
 - 8回 第四章の一【脱亜】【興亜】【帝国日本】
 - 9回 第四章の二、三【戦争】【東亜協同論】
 - 10回 第五章の一、二【抵抗ナショナリズムの離散と噴出】【分極】
 - 11回 第五章の三、四【ナショナリズムの離合集散】【分裂と変質】
 - 12回 第六章の一、二【アジア主義】【抗日ナショナリズム】
 - 13回 第六章の三【アジア民族同盟】【統一戦線】【抗日戦争】
 - 14回 終章【ナショナリズムの相克】
 - 15回 まとめ【相生と相克】【東アジア共同体】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告 10%、3本のレポート 90%(1本30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考文献等、自主的に勉強すること。予習と復習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済論【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

東アジア地域は長い期間にわたって経済発展を続けてきた地域であり、今後東アジア経済の動向が世界の中で重要な意味を持つようになる。この授業のねらいは、一つには多様性に富んだ東アジア地域の国々の経済の概観し、その特徴を深く理解することである。二つにはこれから日本と東アジアの経済関係がどのようなものであるべきかを考える契機とすることである。

授業では、まず東アジア地域全体の統計データを確認して、世界の中での東アジア経済の位置づけと全体像を把握する。次に、東アジアの主要な国の経済の概要と特徴を探ることとする。個々の国の特徴についてより深い理解が得られるように、歴史的社会的事情や開発経済学の理論などの解説を適宜行う。次に、東アジア地域が共通して経験した問題点と、今後取り組むべき課題を取り上げる。最後に、日本と東アジアとの経済関係について取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺利夫編『アジア経済読本 第4版』、東洋経済新報社
長谷川啓之編著『アジア経済発展論』、文眞堂
三木敏夫『東アジア経済発展論』、創成社
郭洋春『現代アジア経済論』、法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、世界の中の東アジア
- 2回 韓国経済
- 3回 台湾経済、韓国と台湾の比較
- 4回 開発独裁、アジアNIEsの工業化戦略
- 5回 香港、シンガポールの経済
- 6回 東アジアの物流事情
- 7回 タイ、マレーシアの経済
- 8回 国際人口移動、華人ネットワーク
- 9回 中国経済
- 10回 アジア通貨危機
- 11回 通貨危機後の対策と構造改革
- 12回 東アジアにおける地域協力
- 13回 地域協力に対する日本の対応
- 14回 日本と東アジアとの経済関係のあり方(1)
- 15回 日本と東アジアとの経済関係のあり方(2)、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

普段から東アジアの政治経済情勢について新聞、ニュースなどで接するようにしてください。また、経済学科以外の受講生は経済学の入門書を読んだり、経済関係の授業を受けて、経済用語に慣れ親しんでおくことを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業化戦略、通貨危機、地域協力

アジア地域統合論 【昼】

専門教育科目
専門科目
A群 (地域研究科目)

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN (東南アジア諸国連合) を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与える地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN-新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 黒柳米司『ASEAN35年の軌跡-'ASEAN Way'の効用と限界』有信堂高文社、2003年。
- 黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦-「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
- 山影進『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合 (ASA) の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド (Maphilindo)
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国 (1) 「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国 (2) カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 ASEANのAPECへの参画
- 13回 ASEAN地域フォーラム (ARF)、ASEAN+3、東アジア首脳会議 (EAS)
- 14回 ASEANの展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。

小テストを3回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論I 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「円安・円高」という言葉と共に為替レートに関するニュースが増加しています。為替レートの変動は貿易や企業の活動に影響を与えるものですが、為替レートとはどのように決まるのでしょうか。それには市場と国家が複雑に関係しているのです。今日の我々の生活を取り巻く環境は、政治と経済、政策決定の国際的要因と国内的要因とが交錯することに特徴があるといえるでしょう。この授業では、ブレトンウッズ体制を中心とする戦後の国際経済体制の構築と変容を中心に検討し、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について理解を深めると同時に、関連する理論について学習します。

教科書 /Textbooks

とくに使用せず、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門 [第3版]』(有斐閣、2007年)
細谷千博監修 / 滝田賢治、大芝亮編『国際政治経済 「グローバル・イシュー」の解説と資料』(有信堂、2011年)
- 関下稔『国際政治経済学要論：学際知の挑戦』(晃洋書房、2010年)
- 山田高敬、大矢根聡 [編]『グローバル社会の国際関係論』[新版](有斐閣、2011年)。

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
1. イントロダクション：国際政治経済学とは何か
 2. 現在の国際政治経済システムの特徴と課題【国家、グローバルイゼーション、ゼロ・サム】
 3. 国際対立の理論【リアリズム、アナーキー、勢力均衡】
 4. 国際協調の理論【リベラリズム、相互依存論】
 5. マルキシズム【従属論、世界システム論】
 6. ブレトンウッズ体制の成立と展開【金ドル・本位制、ワシントン・コンセンサス】
 7. スミソニアン体制と変動相場制【ニクソンショック、プラザ合意】
 8. GATTの成立と変遷【ITO憲章、例外規定、国際協定コード】
 9. 保護貿易をめぐる政治と経済【戦略的通商政策、通商法301条】
 10. WTO体制の展開【非関税障壁、紛争処理、コンセンサス方式】
 11. 開発支援をめぐる国際制度【民主化、ガバナンス】
 12. 地域統合(1)：北米【地域統合の理論、NAFTA】
 13. 地域統合(2)：欧州【EU、共通農業政策、ユーロ】
 14. 地域貿易協定の増大とアジア【FTA、ASEAN、TPP】
 15. 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：30% ミニレポート：20% 期末試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に参考文献を読んでおくことが望ましいです。
日頃から国際政治経済関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論II 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「国際政治経済論I」をふまえて国際政治経済の主要な理論について学び、それぞれの理論における異なる世界観、国際問題のとらえ方、問題の位置付けを中心に検討し、理解を深めることを目的としています。

政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題、特に多国籍企業やNGOの活動、地球環境問題、グローバリゼーションと貧困問題などの学習を通じて、政治(国家)と経済(市場)の相互作用についての理解を深めると同時に、関連する理論について学習することをねらいとします。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門 [第3版]』(有斐閣、2007年)
- 細谷千博監修 / 滝田賢治、大芝亮編『国際政治経済 「グローバル・イシュー」の解説と資料』(有信堂、2011年)
- 関下稔『国際政治経済学要論』(見洋書房、2010年)。
- 田中明彦、中西寛 [編] 『新・国際政治経済の基礎知識』 [新版] (有斐閣、2010年)。

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
1. イントロダクション：ポスト冷戦期の国際政治経済
 2. ネオ・リアリズム【覇権安定論、パワー概念】
 3. ネオ・リベラリズム【国際レジーム論、囚人のジレンマ】
 4. 多国籍企業の発展とグローバルな生産【直接投資、企業誘致】
 5. 科学技術と政治経済【テクノ・ナショナリズム、IT革命】
 6. グローバリゼーションと知的財産権【TRIPs協定、医薬品特許】
 7. コンストラクティビズム【アイデア、構造的変化】
 8. 前半の総括
 9. 資本規制・自由化の政治経済【協調的資本規制、包括的為替管理、「金融化」】
 10. 通貨・金融危機の政治経済【中南米、アジア、IMF】
 11. 貧困国の累積債務問題【債務危機、構造調整プログラム】
 12. 新興国の台頭と課題【BRICs、G20】
 13. ヒトの移動をめぐる国際政治経済【移民政策、移民送金】
 14. 地球公共財をめぐる国際社会の対応【生物多様性条約、特許、伝統的知識】
 15. 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：30% ミニレポート：20% 期末試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に参考文献を読んでおくことが望ましいです。
日頃から国際政治経済関係に関する出来事について関心を持ち、新聞を読む習慣を身につけておくことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論I【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代世界では数百にのぼる国際機構が活動している。これらの機構は、国家や私たちの生活にとっていかなる意味をもつのか。この講義では、第1に、代表的な国際機構である国際連合に焦点を当てて、その設立、目的、任務、制度、活動状況、国家との関係、課題等を学習する。第2に、国際連合のような普遍的機構の先駆といえる国際連盟等にも着目することによって、国際機構の法体系と意思決定方式がいかなる史的展開をみえてきたのかを考察する。

教科書 /Textbooks

奥脇直也・小寺彰編集代表『国際条約集2014年度版』有斐閣、2014年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに：国際機構の定義と役割
- 第2回 国際機構の理論
- 第3回 国際機構の歴史
- 第4回 国際連盟(1)設立の背景と組織
- 第5回 国際連盟(2)活動
- 第6回 国際連合(1)設立の背景
- 第7回 国際連合(2)組織
- 第8回 国際連合(3)活動
- 第9回 他の世界的国際機構
- 第10回 国際政治と国際機構(1)国連安保理
- 第11回 国際政治と国際機構(2)国連PKO
- 第12回 国際政治と国際機構(3)日本と国連
- 第13回 国際政治と国際機構(4)ICC
- 第14回 国際政治と国際機構(5)IAEA
- 第15回 まとめ：効果的で民主的な国際機構は可能か

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用します。持参していない人は受講できません。
なお、ページ数のある教科書ですので、附箋と色ペンを用意すると便利です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際機構論IIも履修すると、国際機構の多面性と動態性を把握することに役立つと思います。

キーワード /Keywords

国際機構論II 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群 (国際関係科目)

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ連合 (EU)、米州機構 (OAS)、北大西洋条約機構 (NATO)、東南アジア諸国連合 (ASEAN)、アラブ連盟、アフリカ連合 (AU) 等、地理的に近接する諸国が独自の国際機構 (地域的国際機構) を設立する動きは、現代世界における特質となっている。そして、このような動きは、日本が位置する東アジアないし環太平洋の地域でも例外ではない。この講義では、第1に、ヨーロッパ28カ国が加盟するEUに焦点を当てて、その設立、組織、活動状況を多面的に学びたい。第2に、地域的機構がもつ含意を、現代の日本を取り巻く状況から探究する。

教科書 /Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU 欧州統合の現在 第3版』創元社、2012年。
初版および第2版とは内容が異なる。必ず第3版を準備すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鷺江義勝編著『リスボン条約による欧州統合の新展開』ミネルヴァ書房、2009年。
ほか講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに：地域的国際機構の定義
- 第2回 地域的国際機構の理論
- 第3回 国際政治と地域的国際機構
- 第4回 テキスト「プロローグ」
- 第5回 テキスト第1章 (ヨーロッパ共同体の設立)
- 第6回 テキスト第1章 (EUの歴史)
- 第7回 テキスト第2章 (EUの組織)
- 第8回 テキスト第2章 (EUの政策決定)
- 第9回 テキスト第3章 (EUの共通政策)
- 第10回 テキスト第3章 (EUの人権保護)
- 第11回 テキスト第4章 (EUの対外関係)
- 第12回 テキスト「エピローグ」
- 第13回 地域的国際機構とアジア太平洋 (1) これまでの経緯
- 第14回 地域的国際機構とアジア太平洋 (2) 今後の展望
- 第15回 まとめ：主権国家はどのように解体するのか

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用します。持参していない人は受講できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際機構論Iをあわせて受講すれば、国際機構の全体像を把握することに役立つと思います。

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際開発援助の視点から途上国が抱える諸課題について学習します。まずは、政府開発援助の仕組みとその役割、国際開発援助レジームの発展についての専門的知識を学びます。次に、個別の 이슈ごとどのような取り組みが行われているのかを学びます。

教科書 /Textbooks

○勝間靖編『テキスト国際開発論』ミネルヴァ書房、2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際開発援助の歴史的発展 1 (1960年代～1970年代)
- 第2回 国際開発援助の歴史的発展 2 (1980年代～現在)
- 第3回 国際開発援助レジームの発展と限界
- 第4回 日本のODAの仕組みと働き
- 第5回 日本のODAの理念と問題点
- 第6回 貧困問題を捉える視点
- 第7回 貧困の克服に向けた取り組み
- 第8回 飢餓と食糧安全保障
- 第9回 健康問題と感染症
- 第10回 途上国における教育問題
- 第11回 途上国におけるジェンダーの問題
- 第12回 国際開発における国連の役割
- 第13回 国際開発におけるNGOの役割
- 第14回 援助を超える議論 - BOP、CSR -
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

国際協力機構(JICA)や経済開発協力機構(OECD)のホームページを日頃から参照しておくこと、本講義の内容が理解しやすくなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

篠田英朗『平和構築入門』ちくま新書、2013年。
○月村太郎『民族紛争』岩波新書、2013年。
○リンダ・ポルマン『クライシス・キャラバン - 紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 冷戦の終結と新しい戦争
- 第2回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース①【ユーゴ崩壊の過程】
- 第3回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース②【ユーゴ崩壊の要因】
- 第4回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース③【ビデオ】【ディスカッション】
- 第5回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダのケース①【ルワンダ内戦の経緯】
- 第6回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第7回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアのケース①【ソマリア内戦の経緯】
- 第8回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第9回 P K Oの変容と限界
- 第10回 「人道的介入」から「保護する責任」論へ
- 第11回 平和構築アプローチ
- 第12回 紛争後復興における開発の役割
- 第13回 Do No Harm原則①
- 第14回 Do No Harm原則②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(レポート)... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新書や文庫で紛争地のルポルタージュなどを読んでおくと講義の理解に役立ちます。
JICAのホームページから『課題別指針 平和構築』(2009年)をダウンロードして読んでおくと、講義の後半部分の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

世界経済論I【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済問題は、私たちの日常生活にも、地域にも国にも、また国際社会にも大きな影響を及ぼしている。経済を理解することで国際関係分野でも地域研究分野でもより深い理解を得ることができる。この授業では、経済の仕組みを理解するうえで最低限必要な経済学の知識と見方・考え方を身に付けることをめざす。この授業では、テキストにしたがって日常の経済取引を扱う「市場」に関する項目(ミクロ経済)から始めて、国全体の経済を扱う項目(マクロ経済)へと進めていく。説明では複雑な数式は使わず、できるだけ具体的な事例を出しながら説明していく。また、随時経済に関する時事トピックを取り上げて解説する。

教科書 /Textbooks

中谷武・中村保編著「1からの経済学」、碩学舎、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重「はじめての経済学」(上・下)、日本経済新聞出版社、2004年 (○)
岩田規久男「経済学への招待」、新生社、2007年
宮崎勇・田谷禎三「世界経済図説 第三版」、岩波新書、2012年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：経済学とわたしたち
- 2 分業の利益
- 3 価格メカニズム
- 4 市場の効率性
- 5 市場の失敗
- 6 市場の限界
- 7 労働市場
- 8 GDPとは何か
- 9 何がGDPを決めるか
- 10 消費需要と投資需要
- 11 貨幣と金融
- 12 政府の役割
- 13 外国貿易と為替レート
- 14 経済成長と国民生活
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テストまたはレポート(2回)...70%、平常点および課題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

普段から身近な雇用・就職状況だけでなく、貿易や為替レートなどの状況にも関心を向けて、新聞や雑誌の経済記事に目を通しておくと、授業が理解しやすくなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市場 GDP 貿易

世界経済論II 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識と考え方を身につけることを目的とする。この授業では、直接投資と多国籍企業、南北問題(先進国と発展途上国の経済格差)や地球環境問題、国際人口移動など、世界が抱えている諸問題を経済の視点から考察していく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『第3版グローバルエコノミー』有斐閣
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと 第3版』有斐閣
石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえるVer.5』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の流れ、世界経済の概観
- 2回 直接投資と多国籍企業(1): 企業・会社とは?
- 3回 直接投資と多国籍企業(2): 直接投資と多国籍企業とは?
- 4回 世界の中の貧困と格差(1): 発展途上国の現状と貧困認識
- 5回 世界の中の貧困と格差(2): 南北問題の出現(1950年代)と開発援助アプローチの変遷(1960、70年代)
- 6回 世界の中の貧困と格差(3): 開発援助アプローチの変遷(1980年代)、新展開(1990年代以降)
- 7回 アジアにおける地域統合(1): 戦後アジアの政治経済、地域統合の背景
- 8回 アジアにおける地域統合(2): アジア地域統合の歩み、ASEANとAPECの新たな展開
- 9回 アジアにおける地域統合(3): TPPと日本の対応
- 10回 地球環境問題(1): 地球環境の現状と持続可能な開発
- 11回 地球環境問題(2): 地球温暖化の原因と現状
- 12回 地球環境問題(3): 地球温暖化への取り組み
- 13回 国際人口移動(1): 移民と国際労働力移動、主要国の移民政策
- 14回 国際人口移動(2): 移民の社会・経済的效果、日本での現状
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 小テスト...30% 期末試験またはレポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞やニュースを見ると、世界情勢は特に経済の面で激動していることが分かります。この授業をきっかけにして世界経済に関心を持ち、世界経済について正しく理解した上で自分の意見を持てるようになればいいと思います。

キーワード /Keywords

直接投資・多国籍企業、南北問題、開発援助、地域統合、地球環境問題、国際人口移動

国際人権論 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群 (国際関係科目)

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

人間の権利をいかに保護するか。あるいはそもそも、なぜ保護する必要があるのか。現代世界においては、各々の国家が個別にこれらの問いに応えればよいというわけではない。

講義では、主に国際政治学と国際法学の観点から、人権に関する規範と制度がどのように形成されているのかを考察する。

教科書 /Textbooks

奥脇直也・小寺彰編集代表『国際条約集2014年版』有斐閣、2014年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに：人権を定義する
- 第2回 人権概念の創出
- 第3回 国際連盟と人権保護
- 第4回 国際連合における人権の規範と制度 (国連憲章)
- 第5回 国際連合における人権の規範と制度 (世界人権宣言)
- 第6回 国際連合における人権の規範と制度 (社会権規約と自由権規約)
- 第7回 国際連合における人権の規範と制度 (各種の人権条約)
- 第8回 国際連合における人権の規範と制度 (近年の展開)
- 第9回 地域的国際機構と人権保護への対応
- 第10回 現代世界と国際人権 (1) 死刑の存廃
- 第11回 現代世界と国際人権 (2) 「人権外交」
- 第12回 現代世界と国際人権 (3) 「アジア的価値」
- 第13回 現代世界と国際人権 (4) グローバル化と労働者
- 第14回 現代世界と国際人権 (5) 日本と国際人権
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用します。持参していない人は受講できません。
なお、ページ数のある教科書ですので、附箋と色ペンを用意すると便利です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族と国家【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深めることである。授業の前半では歴史について取り上げ、後半では社会について取り上げる。歴史・社会いずれの側面においても、多民族社会である東南アジアをとらえ、東南アジアの事例を通じて多文化共生について考える視点を養うことに力点を置く。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 港市国家の形成と外来文明との接触(1~14世紀)
- 3回 交易の時代(15~18世紀)
- 4回 植民地国家の形成(19世紀)
- 5回 近代化の中の社会変容(19~20世紀)
- 6回 脱植民地化と国民国家の形成(20世紀)
- 7回 開発の時代と民主化の進展(20世紀後半~21世紀)
- 8回 公正さの希求と信仰への回帰(20世紀後半~)
- 9回 信仰と暴力とが結びつけられる時(1) 導入・事例紹介
- 10回 信仰と暴力とが結びつけられる時(2) 事例紹介・分析
- 11回 自前の国家を前提としない生き方(20世紀後半~)
- 12回 多民族社会における国民国家の実験(20世紀後半~)
- 13回 多民族社会における共存の模索(1) 導入・事例紹介
- 14回 多民族社会における共存の模索(2) 事例紹介・分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末テスト...70%

小テスト実施日に欠席する/した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球環境論 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群 (国際関係科目)

担当者名 /Instructor 松本 治彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

最近の新聞で話題となっていること、例えば「ヒッグス粒子発見と発表?」「暗黒物質が見つかるか?」「生命起源は地球外?」「地球温暖化問題は本当?」「太陽活動が低下?」「人類最古のDNA解読」「炭素革命から水素革命へ」「PM2.5?」「ナノマシン?」などの記事が載っています。これらの内容をどのように理解すればよいのか?難しい世の中になりました。「理系の人間だからこれくらいのことは理解しているでしょう」とか、「文系の人間だから知らなくて当然です」と言いたくなるかもしれませんが、しかし、今の社会では、これら情報の理解度と真偽の判断が、各人のその後の人生に影響を及ぼすことがあります。

そこで、この授業では、受講する皆さんが地球の環境(地球の現在・過去・未来)について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をします(もちろん、社会科学系の話もします)。この授業の最も重要なことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を常に考えながら話を聞いていただくことです。なるべく、数式や化学式を使わないように話していきますが、これらを利用する際には、基本的な話からはじめて、理解しやすいように工夫をしています。この授業の受講後には、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系(地球の環境も含めて)の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待しています。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。配布資料に沿って授業を進めます(パワーポイントを利用します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、第1回目の講義で資料を基に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回「地球の歴史、何がわかっているの?そして、未来は?」【事実と意見の区別】【科学の特徴】【時間と空間のスケール】【基本単位を知る】【授業概要】【参考図書の紹介】
- 2回「宇宙の始まり」【ビックバンとインフレーション】【自然の大きさ】【質量と重さ】【素粒子】【4つの力】【電磁波】
- 3回「地球の誕生・生物の誕生」【年代測定】【ウイルスとの共生】【ミドルワールドの世界】【光合成生物】【カンブリア爆発】【スノーボール・アースイベント】【恐竜の絶滅】
- 4回「人間社会の形成」【ヒトの進化】【人間活動】【自然生態系と人工生態系】
- 5回「熱収支と四季」【太陽放射と地球放射】【温室効果】【1日の最高気温は何時?】【1年で最も寒い月は?】
- 6回「水と大気の大循環」【大気鉛直構造】【温度とは?】【大気の大循環】【海洋の深層大循環】
- 7回「森林消失と生物種絶滅」【熱帯林の破壊】【乾燥地帯の農業】【再生への対処法】
- 8回「オゾン層破壊・PM2.5」【紫外線】【オゾンとフロン】【オゾンホール】【光化学スモッグ】【PM2.5とは?】
- 9回「温暖化モデルとIPCC」【スーパーコンピュータとカオス】【IPCCの作業原則】【温暖化モデルの現状】【予防原則】【最近の気温は?】【私の見解】【天気予報】
- 10回「間氷期・氷期サイクルと太陽活動」【南極・グリーンランドの氷床】【氷期サイクル】【ミランコビッチサイクル】【太陽活動の異変】
- 11回「海洋・大気の周期的変動」【北極振動】【太平洋・大西洋の数十年周期の振動】【偏西風の蛇行】【エルニーニョ・ラニーニャ・南方振動】【黒潮の蛇行】
- 12回「化石燃料から再生可能エネルギーへ」【石油・石炭・天然ガス】【シェールガス】【メタンハイドレート】【水力】【バイオ燃料】【地熱】【太陽電池】【風力】【波力】【原子力】
- 13回「炭素社会から水素社会に」【燃料電池】【水素発電所】【水素ステーション】【人工光合成】
- 14回「未来予測」【2050年までの取り組みが大事】【宇宙のこと】【イノベーション加速】【人口予測】【遺伝子工学】【コンピュータ技術】【軌道エレベーター】【ナノマシン】【レプリケーター】【テラフォーミング】
- 15回「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で配布する質問カードへの記入(感想、質問等を記入する)30%、学期末試験70%で総合評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、授業の終わりに質問カードに質問・感想等を記入する時間を取ります。しかし、5~10分程度の短い時間ですので、皆さんは短時間で疑問点や感想を箇条書きできるように、日頃から心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、概要・授業計画をみると分かるように、広範囲な地球の環境について取り上げています。前半は自然科学系の基本的な知識を中心に理解を深めてもらいます。中ほどでは最近、話題となっている地球環境に影響を与えている自然現象や人間活動などについて「その真偽」を中心にお話をします。後半は、基礎知識、最近の現象を踏まえて、これから望ましいエネルギー、社会構造、および未来の予測について、私の考えを述べます。なお、受講生の皆さんが高校の時に理系科目をあまり勉強していなくても、この授業を理解できるように工夫（たとえば、質問カードの記入）しています。分からないことは遠慮せずにこのカードに書いてください。次回の授業では、質問に答えることが始まります。

キーワード /Keywords

「事実と意見の区別」「ミクロ・ミドル・マクロの区別」「時間・場所的スケール」「地球温暖化予測モデルの精度」「炭素社会から水素社会へ」

国際紛争論 【昼】

専門教育科目
専門科目
B 群 (国際関係科目)

担当者名 /Instructor 西山 美久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

冷戦終焉後、内戦や地域紛争が世界各地で多発している。これらの紛争はどのように発生し、激化したのであろうか。本講義では、様々な事例を通してポスト冷戦期における国際紛争を多面的に検証し、現代世界における平和の意味や条件について学んでいく。

教科書 /Textbooks

なし。講義の際、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大芝亮編著『国際政治学入門』ミネルヴァ書房、2008年。
- 大芝亮、藤原帰一、山田哲也『平和政策』有斐閣、2006年。
- 長有紀枝『入門 人間の安全保障』中公新書、2012年。
- 大野正美『グルジア戦争とは何だったのか』東洋書店、2009年。
- 菅英輝『アメリカの世界戦略』中公新書、2008年。
- 塩川伸明『ロシアの連邦制と民族問題—多民族国家ソ連の興亡III』岩波書店、2007年。
- 月村太郎『民族紛争』岩波書店、2012年。
- 月村太郎編『地域紛争の構図』晃洋書房、2013年。
- ナイ、ジョセフ(村田晃嗣、田中明彦訳)『国際紛争—理論と歴史(第9版)』有斐閣、2013年(旧版は図書館に所蔵されている)。

その他の文献については、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 冷戦期の国際紛争 : 【米ソ冷戦】
- 第3回 冷戦終焉と「新しい戦争」 : 【内戦】【アイデンティティ】
- 第4回 ルワンダ・ジェノサイド : 【ジェノサイド】【フツ族、ツチ族】
- 第5回 旧ユーゴスラヴィア紛争(1) : 【国家の解体】【クロアチア】
- 第6回 旧ユーゴスラヴィア紛争(2) : 【ボスニア】【人道的介入】
- 第7回 チェチエン紛争(1) : 【第1次紛争】【ロシア連邦】【エリツイン】
- 第8回 チェチエン紛争(2) : 【第2次紛争】【プーチン】
- 第9回 ナゴルノ・カラバフ紛争 : 【アルメニア】【アゼルバイジャン】
- 第10回 9.11テロとアメリカ : 【テロリズム】
- 第11回 イラク戦争 : 【先制攻撃】
- 第12回 ロシア・グルジア紛争(1) : 【南オセチア】【未承認国家】
- 第13回 ロシア・グルジア紛争(2) : 【ロシア・グルジア関係】
- 第14回 新しい安全保障 : 【国家安全保障】【人間の安全保障】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①期末試験(70%)
- ②レポート(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

情報量の多い授業なので、出来る限り出席しノートをとるようにして下さい。また、配布レジュメや参考文献で予習・復習を行って下さい(特に、復習が大事です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際紛争や国際政治に関心のある学生の受講を歓迎します。一緒に勉強しましょう。

キーワード /Keywords

新しい戦争、国家の解体、ユーラシア地域、テロリズム、国家安全保障、人間の安全保障。

英米文化概論I【昼】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白いのイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【国制】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。

教科書 /Textbooks

テキストとして斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）を使用する。同書のほかに、基礎文献を追加する場合がありますので注意すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをガイダンスで配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【アメリカ合衆国の輪郭】
- 第2回 英領アメリカ植民地の文化【ピューリタニズム】【自由主義】【多様性】
- 第3回 独立革命と共和主義【大覚醒】【共和主義】
- 第4回 19世紀アメリカの形成【二大政党制】【民主主義】【超絶主義】
- 第5回 市場革命【民主化】【市場革命】
- 第6回 奴隷制の拡大と南北戦争【奴隷制】【南北戦争】
- 第7回 再建の時代【再建】【憲法修正】【フェミニズム】
- 第8回 20世紀アメリカの出現【金ぴか時代】【移民】【革新主義】
- 第9回 第一次世界大戦【100%アメリカニズム】
- 第10回 大衆消費社会と禁酒法【移民制限】【1920年代】
- 第11回 大恐慌の発生【世界恐慌】【ニューディール】
- 第12回 第二次世界大戦【冷戦】【日系人】
- 第13回 公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【人種問題】
- 第14回 多文化主義の興隆【ヒスパニック】【同性結婚】
- 第15回 これからのアメリカ社会【9.11】【21世紀】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの文化と歴史について包括的な知識を提供します。

キーワード /Keywords

アメリカ 文化 歴史

地域研究特講 【昼】

担当者名 /Instructor ODU 教員 / 国際教育交流センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This class is a survey of art, design, cinema, and other elements of America's visual culture. The class will also discuss the distinctions between high culture and low culture, and the complex relationship Americans have with their own history and geography. The class will also examine creativity and divergent thinking as way to build upon conventional learning from the perspective of a visual artist. Students will be expected to make journal entries related to class discussion for each day of the class, which will be evaluated by the professor at the end of the course. Students will also be evaluated on their participation and contribution to each class discussion.

教科書 /Textbooks

Any relevant reading will be made available to students before the first day of class. Film Clips, powerpoint presentations and study of selected artifacts will be part of each class discussion.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日揭示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

DAY ONEIntroductory discussion and overview of my perspective
American culture according to one American
History and Geography: from the personal to the universal
The American frontier and the notion of alternative

DAY TWOPop Culture/High Culture: From Warhol to Koons
Robert Venturi on Vegas
Generica and the Geography of Nowhere
Who is American when everyone is from somewhere else?

DAY THREEObjects that define the American culture
Wealth, equality, and Poverty: The commodification
of blight and the value of vulgarity
Art as a form of currency.

DAY FOURInnovation vs. inertia.
America's love/hate relationship with success
Creativity and the embrace of failure

DAY FIVEOld Vs. New? Koans of the future and revisiting
the notion of cultural alternatives

成績評価の方法 /Assessment Method

後日揭示

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献講読 【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

38作品が収録された短編集を読み進めながら多文化社会アメリカ合衆国の様々な声に耳を傾けることで、民族、人種、性、言語、宗教、思想など多様な文化的背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指します。必要に応じて映像資料を使用します。

教科書 /Textbooks

Imagining America: Stories from the Promised Land (Revised Edition)
Edited by Wesley Brown and Amy Ling (New York: Persea Books, 2002.)

※教科書の購入方法は第1回目の授業内で指示します。
※教科書はあらかじめ各自で入手しても構いません。その場合は授業開始時までにある程度読み進めておくことを奨励します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (授業の概要、成績評価の方法などの説明、分担決定) , "In the Land of the Free"
- 第2回 "The Whipping," "The English Lesson," "The German Refugee"
- 第3回 "They Won't Crack It Open," "A Wife's Story," "Silver Pavements, Golden Roofs"
- 第4回 "The Blossoming of Bongbong," "Children of the Sea," "His Grace"
- 第5回 "Japanese Hamlet," "New Year for Fong Wing," "Seventeen Syllables"
- 第6回 "The Lesson," "The Death of Horatio Alger," "In the American Society"
- 第7回 "Near the End of the World," "Don't Explain," "Hungry Dog"
- 第8回 Review (1)
- 第9回 "The Loudest Voice," "The Man to Send Rain Clouds," "American Horse"
- 第10回 "El Patrón," "Thank God for the Jews," "Gussuk"
- 第11回 "Barbie-Q," "Birthday," "Borders," "How to Date a Browngirl, Blackgirl, Whitegirl, or Halfie"
- 第12回 "Old West," "Elethia," "Visitors"
- 第13回 "The Disappearance," "The Chandelier," "Five Jack Cool"
- 第14回 "To Da-duh, In Memoriam," "Election Day, 1984," "A Drug Called Tradition"
- 第15回 Review (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (発表・課題提出) ...40%
小テスト...30%
期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

履修者には十分な英文読解力が身に付いていることが期待されます。
授業は議論形式で進めるため、議論に積極的に参加できることが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回で扱う文献は必ず読んで上で授業にのぞんでください。
各回で取り上げる話題について自ら調査や研究を行うことで理解を深めるよう心がけてください。
遅刻や欠席は極力避けてください。

キーワード /Keywords

多様性、移動、文化的アイデンティティ

国際関係特講I【昼】

担当者名 /Instructor 國谷 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The world is now experiencing rapid globalization not only in the fields of politics and economics, but also in many other fields such as culture, information and technology. In this situation, study of international relations, which has based itself on the notion of nation-state as a unit of international relations, needs serious rethinking of itself. Reviewing the concept of nation-state from the relative point of view is crucially important for the proper understanding of current globalization.

In this lecture, I will try to discuss such relativist ideas from two perspectives: one is the perspective from Southeast Asia as a region, and the other is that from Islam as a religion.

Southeast Asia is a region which has a long history of cultural exchange and the development of multi-cultural societies. In the contemporary world, ASEAN has shown its unique endeavor towards regionalism. In this regard, Southeast Asia is an important region in order to understand the globalism in a historical context.

Islam, on the other hand, has been regarded as a serious threat against the international order based on the nation-states, or against the modern western civilization in general. However, if one looks into the development of Islam in Southeast Asia, it will easily be seen that the relations between Islam and modernity is far more complex and controversial. By studying the modern development of Islam in relation to the development of nation-states in Southeast Asia, we can acquire another perspective from which we can re-evaluate the globalization.

During this lecture, students will be asked to participate in group-discussion and group-presentation. Positive and constructive attitude towards discussion will be required.

教科書 /Textbooks

No particular textbook is used.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

床呂郁哉・西井涼子・福島康弘編『東南アジアのイスラーム』(東京外国語大学出版会、2012年)
大川玲子『イスラーム化する世界: グローバリゼーション時代の宗教』(平凡社新書、2013年)
ベネディクト・アンダーソン著; 白石隆, 白石さや訳『定本想像の共同体: ナショナリズムの起源と流行』(書籍工房早山、2007年)
その他、講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Study of international relations and the current globalism
2. Preliminary presentations: self-introduction / opinion about the globalism
- 3-4. General lecture ①: The origins of globalism: from the history of Southeast Asia
- 5-6. General lecture ②: Islam and the modern world
- 7-8. Topic lecture ①: Acceptance of Islam in Southeast Asia
- 9-10. Topic lecture ②: "Two world of Islam": Southeast Asia and the Middle East
- 11-12. Topic lecture ③: Islamic revivalism
13. Summary ①: Islam in the contemporary world
14. Summary ②: Group Discussion
15. Summary ③: Group Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Group discussion and presentation : 50%
Report : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students will be asked to prepare for the group-discussion and presentation.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

In the group-discussion and presentation, it's very important to actively participate in the discussion, even if you can not speak English perfectly. I will support the discussion, so never hesitate to speak out your opinion.

キーワード /Keywords

Southeast Asia, Islam, nationalism, globalism

国際関係特講II 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 元 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

20世紀初頭から今日に至るまで戦争の様式も希求される平和観と安全保障観も、変化してきた。戦争でたくさんの人々がその犠牲になったことは知られている。しかし、国際平和の時代にも関わらず、それを上回るほど多くの人々が抑圧され、殺戮されてきたことはあまり知られていない。平和の時代にあっても国によっては政治的反体制の人々が、国によっては民族マイノリティが厳しい弾圧の対象となった。人種差別反対、民族解放、人権尊重を唱えてきた社会主義国家で、あるいはアジア・アフリカの植民地解放の結果独立した国々で、平和と友好の陰で、なんと多くの人々が民衆殺戮（政治的殺戮）の犠牲になったことか。本講義では、まず20世紀の平和と安全保障観の変容を概説する。次に冷戦期の平和と国家体制安全保障観を概観し、冷戦の終結に向けたCSCE（欧州安全保障協力会議）の枠組みで行われた協力体制のCSCEプロセスが冷戦終結に及ぼした影響を明らかにする。最後に冷戦の終結後に変容する国際安全保障活動をOSCE（欧州安全保障協力機構）の活動を中心に明らかにするとともに、人間の安全、民族マイノリティの安全の問題でユーラシア大陸が分断されていく過程を明らかにする。

教科書 /Textbooks

吉川 元『民族自決の果てに』（有信堂高文社、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1.吉川 元『国際安全保障論』有斐閣、2007年。
- 2.吉川 元 他、『グローバルガヴァナンス論』法律文化社、2014年。
- 3.「分断される欧州安全保障共同体-安全保障戦略をめぐる対立と相克の軌跡」、日本国連学会編『国連研究』第12号、2011年6月。
- 4.『世界の中のアフリカ-国家建設の歩みと国際社会』上智大学出版会、2013年。（吉川元・矢澤達宏 共編）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1.戦争と平和の歴史の概説
- 2.第一世界大戦と民族自決
- 3.国際平和と民族マイノリティ
- 4.封印された民族問題
- 5.欺かれた人尊重平和
- 6.冷戦と国家体制安全保障
- 7.CSCEプロセス
- 8.ソ連の崩壊と冷戦の終結
- 9.民族の戦争
- 10.民主主義の平和
- 11.CSCE/パリ首脳会議
- 12.OSCEと安全保障共同体
- 13.分断されるOSCE共同体
- 14.上海協力機構
- 15.アイデンティティ政治と内戦

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一誠以貫

キーワード /Keywords

安全保障、国際安全保障、安全保障共同体、OSCE、CSCE、上海協力機構、

英文法・英作文A【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 3 / Pearson Education. 2014.
Alice Oshiima and Ann Hogue

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Chapter 1: Academic Paragraphs
英文ライティングの基本について学ぶ
- 第3回 Chapter 1: 英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ
- 第4回 Chapter 2: Narrative Paragraphs
記述型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第5回 Chapter 3: Basic Paragraph Structure
主題文の書き方を学ぶ
- 第6回 Chapter 4: Logical Division of Ideas
論理展開の方法を学ぶ
- 第7回 Chapter 5: Process Paragraphs
過程を説明するパラグラフの書き方を学ぶ
- 第8回 Chapter 6: Definition Paragraphs
定義型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第9回 Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs
原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ
- 第10回 Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs
比較型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第11回 Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs
対照型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第12回 Chapter 9: Essay Organization
英文エッセイライティングの基本について学ぶ
- 第13回 Chapter 10: Opinion Essays
意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ(1)
- 第14回 Chapter 10: 意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

英文法・英作文A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文A【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 3 / Pearson Education. 2014.
Alice Oshiima and Ann Hogue

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Chapter 1: Academic Paragraphs
英文ライティングの基本について学ぶ
- 第3回 Chapter 1: 英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ
- 第4回 Chapter 2: Narrative Paragraphs
記述型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第5回 Chapter 3: Basic Paragraph Structure
主題文の書き方を学ぶ
- 第6回 Chapter 4: Logical Division of Ideas
論理展開の方法を学ぶ
- 第7回 Chapter 5: Process Paragraphs
過程を説明するパラグラフの書き方を学ぶ
- 第8回 Chapter 6: Definition Paragraphs
定義型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第9回 Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs
原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ
- 第10回 Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs
比較型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第11回 Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs
対照型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第12回 Chapter 9: Essay Organization
英文エッセイライティングの基本について学ぶ
- 第13回 Chapter 10: Opinion Essays
意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ(1)
- 第14回 Chapter 10: 意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

英文法・英作文A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文A【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 3 / Pearson Education. 2014.
Alice Oshiima and Ann Hogue

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Chapter 1: Academic Paragraphs
英文ライティングの基本について学ぶ
- 第3回 Chapter 1: 英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ
- 第4回 Chapter 2: Narrative Paragraphs
記述型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第5回 Chapter 3: Basic Paragraph Structure
主題文の書き方を学ぶ
- 第6回 Chapter 4: Logical Division of Ideas
論理展開の方法を学ぶ
- 第7回 Chapter 5: Process Paragraphs
過程を説明するパラグラフの書き方を学ぶ
- 第8回 Chapter 6: Definition Paragraphs
定義型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第9回 Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs
原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ
- 第10回 Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs
比較型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第11回 Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs
対照型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第12回 Chapter 9: Essay Organization
英文エッセイライティングの基本について学ぶ
- 第13回 Chapter 10: Opinion Essays
意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ(1)
- 第14回 Chapter 10: 意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

英文法・英作文A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文A【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 3 / Pearson Education. 2014.
Alice Oshiima and Ann Hogue

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Chapter 1: Academic Paragraphs
英文ライティングの基本について学ぶ
- 第3回 Chapter 1: 英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ
- 第4回 Chapter 2: Narrative Paragraphs
記述型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第5回 Chapter 3: Basic Paragraph Structure
主題文の書き方を学ぶ
- 第6回 Chapter 4: Logical Division of Ideas
論理展開の方法を学ぶ
- 第7回 Chapter 5: Process Paragraphs
過程を説明するパラグラフの書き方を学ぶ
- 第8回 Chapter 6: Definition Paragraphs
定義型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第9回 Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs
原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ
- 第10回 Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs
比較型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第11回 Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs
対照型パラグラフの書き方を学ぶ
- 第12回 Chapter 9: Essay Organization
英文エッセイライティングの基本について学ぶ
- 第13回 Chapter 10: Opinion Essays
意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ(1)
- 第14回 Chapter 10: 意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

英文法・英作文A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

Ready to Write / Pearson Education. 2010.
Karen Blanchard and Christine Root

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Chapter 1 Getting Ready to Write
英文パラグラフライティングの復習 (1)
- 第3回 Chapter 2 Writing Paragraphs
英文パラグラフライティングの復習 (2)
- 第4回 Chapter 3 Revising and Editing
英文ライティングの修正・訂正方法の復習
- 第5回 Chapter 4 Writing Essays
英文エッセイライティングの基本を学ぶ
- 第6回 Chapter 5 Process Essays
過程を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第7回 Chapter 6 Division and Classification Essays
分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第8回 Chapter 7 Cause and Effect Essays
原因と結果を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第9回 Chapter 8 Comparison and Contrast Essays
比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ (1)
- 第10回 Chapter 8 比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ (2)
- 第11回 Chapter 9 Problem-Solution Essays
問題解決型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第12回 Chapter 10 Writing Summaries
要約文の書き方を学ぶ
- 第13回 Chapter 11 Expressing Your Opinions
意見を述べる英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第14回 Chapter 12 Writing Undergraduate and Graduate Application Essays
志望動機書の書き方を学ぶ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

英文法・英作文B【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキスト以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

Ready to Write / Pearson Education. 2010.
Karen Blanchard and Christine Root

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Chapter 1 Getting Ready to Write
英文パラグラフライティングの復習 (1)
- 第3回 Chapter 2 Writing Paragraphs
英文パラグラフライティングの復習 (2)
- 第4回 Chapter 3 Revising and Editing
英文ライティングの修正・訂正方法の復習
- 第5回 Chapter 4 Writing Essays
英文エッセイライティングの基本を学ぶ
- 第6回 Chapter 5 Process Essays
過程を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第7回 Chapter 6 Division and Classification Essays
分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第8回 Chapter 7 Cause and Effect Essays
原因と結果を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第9回 Chapter 8 Comparison and Contrast Essays
比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ (1)
- 第10回 Chapter 8 比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ (2)
- 第11回 Chapter 9 Problem-Solution Essays
問題解決型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第12回 Chapter 10 Writing Summaries
要約文の書き方を学ぶ
- 第13回 Chapter 11 Expressing Your Opinions
意見を述べる英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第14回 Chapter 12 Writing Undergraduate and Graduate Application Essays
志望動機書の書き方を学ぶ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

英文法・英作文B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキスト以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

Ready to Write / Pearson Education. 2010.
Karen Blanchard and Christine Root

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Chapter 1 Getting Ready to Write
英文パラグラフライティングの復習 (1)
- 第3回 Chapter 2 Writing Paragraphs
英文パラグラフライティングの復習 (2)
- 第4回 Chapter 3 Revising and Editing
英文ライティングの修正・訂正方法の復習
- 第5回 Chapter 4 Writing Essays
英文エッセイライティングの基本を学ぶ
- 第6回 Chapter 5 Process Essays
過程を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第7回 Chapter 6 Division and Classification Essays
分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第8回 Chapter 7 Cause and Effect Essays
原因と結果を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第9回 Chapter 8 Comparison and Contrast Essays
比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ (1)
- 第10回 Chapter 8 比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ (2)
- 第11回 Chapter 9 Problem-Solution Essays
問題解決型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第12回 Chapter 10 Writing Summaries
要約文の書き方を学ぶ
- 第13回 Chapter 11 Expressing Your Opinions
意見を述べる英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第14回 Chapter 12 Writing Undergraduate and Graduate Application Essays
志望動機書の書き方を学ぶ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

英文法・英作文B【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキスト以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

Ready to Write / Pearson Education. 2010.
Karen Blanchard and Christine Root

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Chapter 1 Getting Ready to Write
英文パラグラフライティングの復習 (1)
- 第3回 Chapter 2 Writing Paragraphs
英文パラグラフライティングの復習 (2)
- 第4回 Chapter 3 Revising and Editing
英文ライティングの修正・訂正方法の復習
- 第5回 Chapter 4 Writing Essays
英文エッセイライティングの基本を学ぶ
- 第6回 Chapter 5 Process Essays
過程を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第7回 Chapter 6 Division and Classification Essays
分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第8回 Chapter 7 Cause and Effect Essays
原因と結果を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第9回 Chapter 8 Comparison and Contrast Essays
比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ (1)
- 第10回 Chapter 8 比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ (2)
- 第11回 Chapter 9 Problem-Solution Essays
問題解決型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第12回 Chapter 10 Writing Summaries
要約文の書き方を学ぶ
- 第13回 Chapter 11 Expressing Your Opinions
意見を述べる英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第14回 Chapter 12 Writing Undergraduate and Graduate Application Essays
志望動機書の書き方を学ぶ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

英文法・英作文B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキスト以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction: Meeting People.
Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
Week 3 Unit 1: keeping conversations going
Week 4 Unit 2: Energy
Week 5 Unit 2: listening for details
Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
Week 10 Unit 4: Water
Week 11 Unit 4: expressing opinions
Week 12 Unit 4: note taking
Week 13 Unit 5: The Brain
Week 14 Unit 5: discussing problems
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Recap of first semester
- Week 2 Unit 6: Food
- Week 3 Unit 6: understanding visuals
- Week 4 Unit 7: Our Active Earth
- Week 5 Unit 7: using transitions
- Week 6 Unit 8: Cultures
- Week 7 Unit 8: making inferences
- Week 8 Unit 8: evaluating ideas
- Week 9 Unit 9: Species Survival
- Week 10 Unit 9: graphical organization
- Week 11 Unit 9: cause and effect
- Week 12 Unit 10: Entrepreneurs
- Week 13 Unit 10: evaluating information
- Week 14 Unit 10: speculating
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Recap of first semester
- Week 2 Unit 6: Food
- Week 3 Unit 6: understanding visuals
- Week 4 Unit 7: Our Active Earth
- Week 5 Unit 7: using transitions
- Week 6 Unit 8: Cultures
- Week 7 Unit 8: making inferences
- Week 8 Unit 8: evaluating ideas
- Week 9 Unit 9: Species Survival
- Week 10 Unit 9: graphical organization
- Week 11 Unit 9: cause and effect
- Week 12 Unit 10: Entrepreneurs
- Week 13 Unit 10: evaluating information
- Week 14 Unit 10: speculating
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Recap of first semester
- Week 2 Unit 6: Food
- Week 3 Unit 6: understanding visuals
- Week 4 Unit 7: Our Active Earth
- Week 5 Unit 7: using transitions
- Week 6 Unit 8: Cultures
- Week 7 Unit 8: making inferences
- Week 8 Unit 8: evaluating ideas
- Week 9 Unit 9: Species Survival
- Week 10 Unit 9: graphical organization
- Week 11 Unit 9: cause and effect
- Week 12 Unit 10: Entrepreneurs
- Week 13 Unit 10: evaluating information
- Week 14 Unit 10: speculating
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Recap of first semester
- Week 2 Unit 6: Food
- Week 3 Unit 6: understanding visuals
- Week 4 Unit 7: Our Active Earth
- Week 5 Unit 7: using transitions
- Week 6 Unit 8: Cultures
- Week 7 Unit 8: making inferences
- Week 8 Unit 8: evaluating ideas
- Week 9 Unit 9: Species Survival
- Week 10 Unit 9: graphical organization
- Week 11 Unit 9: cause and effect
- Week 12 Unit 10: Entrepreneurs
- Week 13 Unit 10: evaluating information
- Week 14 Unit 10: speculating
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning. 2014.
CLIL Global Issues / Sanshusha. 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 CLIL Global Issues (CLIL) Topic 1: Stereotypes and Racism
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom or Expression?
- 第4回 CLIL Topic 2: Information and Communication
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 CLIL Topic 3: Culture and Fashion
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 CLIL Topic 4: Health
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 CLIL Topic 5: Food
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 CLIL Topic 6: A Sound Material-Cycle Society
- 第13回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第14回 CLIL Topic 7: Global Warming
- 第15回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、常に英語力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning. 2014.
CLIL Global Issues / Sanshusha. 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 CLIL Global Issues (CLIL) Topic 1: Stereotypes and Racism
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom or Expression?
- 第4回 CLIL Topic 2: Information and Communication
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 CLIL Topic 3: Culture and Fashion
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 CLIL Topic 4: Health
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 CLIL Topic 5: Food
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 CLIL Topic 6: A Sound Material-Cycle Society
- 第13回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第14回 CLIL Topic 7: Global Warming
- 第15回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、常に英語力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning. 2014.
CLIL Global Issues / Sanshusha. 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 CLIL Global Issues (CLIL) Topic 1: Stereotypes and Racism
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom or Expression?
- 第4回 CLIL Topic 2: Information and Communication
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 CLIL Topic 3: Culture and Fashion
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 CLIL Topic 4: Health
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 CLIL Topic 5: Food
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 CLIL Topic 6: A Sound Material-Cycle Society
- 第13回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第14回 CLIL Topic 7: Global Warming
- 第15回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、常に英語力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning. 2014.
CLIL Global Issues / Sanshusha. 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 CLIL Global Issues (CLIL) Topic 1: Stereotypes and Racism
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom or Expression?
- 第4回 CLIL Topic 2: Information and Communication
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 CLIL Topic 3: Culture and Fashion
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 CLIL Topic 4: Health
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 CLIL Topic 5: Food
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 CLIL Topic 6: A Sound Material-Cycle Society
- 第13回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第14回 CLIL Topic 7: Global Warming
- 第15回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、常に英語力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning. 2014.
CLIL Global Issues / Sanshusha. 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 CLIL Global Issues (CLIL) Topic 8: Energy
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 CLIL Topic 9: Ecosystems and Humans
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 CLIL Topic 10: Endangered Species
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 CLIL Topic 11: International Relationships
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 CLIL Topic 12: War and Peace
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 CLIL Topic 13: Human Rights
- 第13回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第14回 CLIL Topic 14: Global Citizenship
- 第15回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、常に英語力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning. 2014.
CLIL Global Issues / Sanshusha. 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 CLIL Global Issues (CLIL) Topic 8: Energy
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 CLIL Topic 9: Ecosystems and Humans
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 CLIL Topic 10: Endangered Species
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 CLIL Topic 11: International Relationships
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 CLIL Topic 12: War and Peace
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 CLIL Topic 13: Human Rights
- 第13回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第14回 CLIL Topic 14: Global Citizenship
- 第15回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、常に英語力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning. 2014.
CLIL Global Issues / Sanshusha. 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 CLIL Global Issues (CLIL) Topic 8: Energy
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 CLIL Topic 9: Ecosystems and Humans
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 CLIL Topic 10: Endangered Species
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 CLIL Topic 11: International Relationships
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 CLIL Topic 12: War and Peace
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 CLIL Topic 13: Human Rights
- 第13回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第14回 CLIL Topic 14: Global Citizenship
- 第15回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、常に英語力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning. 2014.
CLIL Global Issues / Sanshusha. 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 CLIL Global Issues (CLIL) Topic 8: Energy
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 CLIL Topic 9: Ecosystems and Humans
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 CLIL Topic 10: Endangered Species
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 CLIL Topic 11: International Relationships
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 CLIL Topic 12: War and Peace
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 CLIL Topic 13: Human Rights
- 第13回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第14回 CLIL Topic 14: Global Citizenship
- 第15回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、常に英語力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Delivering Your Message
- Week 3 Putting Your Speech Together
- Week 4 Developing Self-Confidence - Outlining and Writing
- Week 5 Speech 1: Self-Introduction
- Week 6 Speech 2: A Personal Experience
- Week 7 Speech 3: A Meaningful Object
- Week 8 Speech 4: A Specific Fear
- Week 9 Speech 5: A Personal Opinion Speech
- Week 10 Speaking to Inform - Preparing for the Informative Speech
- Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
- Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
- Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
- Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Delivering Your Message
- Week 3 Putting Your Speech Together
- Week 4 Developing Self-Confidence - Outlining and Writing
- Week 5 Speech 1: Self-Introduction
- Week 6 Speech 2: A Personal Experience
- Week 7 Speech 3: A Meaningful Object
- Week 8 Speech 4: A Specific Fear
- Week 9 Speech 5: A Personal Opinion Speech
- Week 10 Speaking to Inform - Preparing for the Informative Speech
- Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
- Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
- Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
- Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Delivering Your Message
- Week 3 Putting Your Speech Together
- Week 4 Developing Self-Confidence - Outlining and Writing
- Week 5 Speech 1: Self-Introduction
- Week 6 Speech 2: A Personal Experience
- Week 7 Speech 3: A Meaningful Object
- Week 8 Speech 4: A Specific Fear
- Week 9 Speech 5: A Personal Opinion Speech
- Week 10 Speaking to Inform - Preparing for the Informative Speech
- Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
- Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
- Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
- Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名 /Instructor デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Delivering Your Message
- Week 3 Putting Your Speech Together
- Week 4 Developing Self-Confidence - Outlining and Writing
- Week 5 Speech 1: Self-Introduction
- Week 6 Speech 2: A Personal Experience
- Week 7 Speech 3: A Meaningful Object
- Week 8 Speech 4: A Specific Fear
- Week 9 Speech 5: A Personal Opinion Speech
- Week 10 Speaking to Inform - Preparing for the Informative Speech
- Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
- Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
- Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
- Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Introduction to Persuasive Speaking
- Week 3 Preparing for the Persuasive Speech
- Week 4 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- Week 5 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
- Week 6 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
- Week 7 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
- Week 8 Persuasive Speech - Writing and Revising
- Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
- Week 10 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
- Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
- Week 12 Speaking for Special Purposes
- Week 13 Symposium - Outlining and Writing
- Week 14 Symposium - Delivery
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Introduction to Persuasive Speaking
- Week 3 Preparing for the Persuasive Speech
- Week 4 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- Week 5 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
- Week 6 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
- Week 7 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
- Week 8 Persuasive Speech - Writing and Revising
- Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
- Week 10 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
- Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
- Week 12 Speaking for Special Purposes
- Week 13 Symposium - Outlining and Writing
- Week 14 Symposium - Delivery
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Introduction to Persuasive Speaking
- Week 3 Preparing for the Persuasive Speech
- Week 4 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- Week 5 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
- Week 6 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
- Week 7 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
- Week 8 Persuasive Speech - Writing and Revising
- Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
- Week 10 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
- Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
- Week 12 Speaking for Special Purposes
- Week 13 Symposium - Outlining and Writing
- Week 14 Symposium - Delivery
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Introduction to Persuasive Speaking
- Week 3 Preparing for the Persuasive Speech
- Week 4 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- Week 5 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
- Week 6 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
- Week 7 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
- Week 8 Persuasive Speech - Writing and Revising
- Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
- Week 10 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
- Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
- Week 12 Speaking for Special Purposes
- Week 13 Symposium - Outlining and Writing
- Week 14 Symposium - Delivery
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【昼】

担当者名
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3 - 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4 Unit 6: Process Paragraph
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11 Unit 13: About the Essay
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15 Examination Essay

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%
Class Performance 15%
Assigned homework essays 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3 - 2
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4 Unit 6: Process Paragraph
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11 Unit 13: About the Essay
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15 Examination Essay

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%
Class Performance 15%
Assigned homework essays 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【昼】

担当者名
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・ 実習
/Class Format

クラス 3 - 3
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4 Unit 6: Process Paragraph
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11 Unit 13: About the Essay
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15 Examination Essay

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%
Class Performance 15%
Assigned homework essays 60%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【昼】

担当者名
/Instructor

デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3 - 4
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4 Unit 6: Process Paragraph
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11 Unit 13: About the Essay
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15 Examination Essay

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%
Class Performance 15%
Assigned homework essays 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法II 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English. Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%
Mid and Final Semester Tests 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法II 【昼】

担当者名 /Instructor デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English. Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%
Mid and Final Semester Tests 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法II 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義・ 実習 /Class クラス 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English. Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%
Mid and Final Semester Tests 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法II 【昼】

担当者名
/Instructor

デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3 - 4
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English.
Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%
Mid and Final Semester Tests 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名
/Instructor

ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3 - 3
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3 - 4
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3 - 4
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論I【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際化やグローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したこと、国家以外のアクター（国際機関や多国籍企業、国際NGO）の影響力が増大したこと、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったことなどで表されます。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
- 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、他 [著] 『国際政治学をつかむ』 (有斐閣、2009年)
- 山影進 『国際関係論講義』 (東京大学出版会、2012年)
- 田中明彦、中西寛 [編] 『新・国際政治経済の基礎知識』 [新版] (有斐閣、2010年)

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
1. 国際関係学の誕生と展開【理想主義、現実主義】
 2. 国際社会と主権国家【主権、国民国家】
 3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
 4. リアリズム【パワー・ポリティクス、勢力均衡】
 5. ネオリアリズム【アナーキー 囚人のジレンマ】
 6. リベラリズム【相互依存、機能主義】
 7. ネオリベラリズム【国際レジーム・制度】
 8. 前半の総括
 9. コンストラクティヴィズム【理念、間主観性、アイデンティティ】
 10. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
 11. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
 12. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
 13. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
 14. アクターとしてのNGO【規範起業家、プライベート・レジーム】
 15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：30% ミニレポート：20% 期末試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的文脈からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。随時、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済 - 「グローバル・イシュー」の解説と資料』有信堂高文社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
- 第2回 「東アジアにおける安全保障環境の変化」(1)【米軍のリバランス戦略】【中国の海洋進出】【尖閣問題】
- 第3回 「東アジアにおける安全保障環境の変化」(2)【国家安全保障会議】【武器輸出三原則】【集団的自衛権】
- 第4回 「新しい安全保障観」【人間の安全保障】
- 第5回 「保護する責任」(1)【人道的介入】【NATO空爆】【国家主権】
- 第6回 「保護する責任」(2)【アラブの春(リビア、シリア)】
- 第7回 「人の非自発的移動」【難民】【国内避難民】
- 第8回 「アフリカ情勢」(1)【経済成長とガバナンス】
- 第9回 「アフリカ情勢」(2)【内戦と資源の罅】
- 第10回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
- 第11回 「食と環境」【遺伝子組み換え作物】
- 第12回 「エネルギー問題」【原子力】【再生可能エネルギー】
- 第13回 「感染症」【HIV/AIDS】【結核】【マラリア】
- 第14回 「国家間貿易」【WTOレジーム】【TPP】【FTA/EPA】
- 第15回 「公正な貿易」【フェアトレード】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)・・・30% 学期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

平素から新聞を読んだり、関連の新書を読むように心がけると授業内容の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

国際関係史I【昼】

担当者名 /Instructor 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現在の国際関係を理解するために必要な歴史的な知識を提供するとともに、歴史的なアプローチを紹介する。講義では、第二次世界大戦後のアメリカの外交戦略の発展を体系的に論じるとともに、とくに冷戦終結期とポスト冷戦期の外交に重点を置いて議論を進める。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定しないが、主に「冷戦後期」を扱い、大国以外も視野に入れるという意味で、O.A.ウェスタッド『グローバル冷戦史』（名古屋大学出版会、2010年）は本講義理解の一助となろう。詳細は、第1回のガイダンスにて説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の各回で、さらに理解を深めるための文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 戦後国際政治の構造 【二極】、【多極】、【一極】
- 第3回 ヨーロッパにおける冷戦 【東西ドイツ】、【NATO】
- 第4回 アジアにおける冷戦 【中国と台湾】、【朝鮮戦争】
- 第5回 二極から多極の時代へ 【非同盟】、【ゴースト】、【中ソ対立】
- 第6回 デタントの時代 【米中デタント】、【モスクワ・デタント】、【ヨーロッパ・デタント】
- 第7回 新冷戦の時代 【アフガニスタン内戦】
- 第8回 中東における冷戦 【中東戦争】、【イラン・イラク戦争】
- 第9回 東欧革命とドイツ統一 【汎ヨーロッパ・ピクニック】
- 第10回 ソ連の崩壊と冷戦の終焉 【ゴルバチョフ】、【ペレストロイカ】
- 第11回 湾岸戦争 【イラク】、【フセイン】
- 第12回 冷戦後における日米関係の再編 【日米安保再定義】
- 第13回 クリントン時代の国際政治 【デモクラティック・ピース】
- 第14回 9.11テロとイラク戦争 【「帝国」アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%、小テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義はパワーポイントを用いて行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予備知識がなくとも、継続的な出席と各回聴講後の復習を前提とすることによって、講義についていくことは十分可能となるが、「アメリカの政治II」（2013年度）を履修した学生は、そこでは触れられなかったトピックについて継続的に学ぶことができる。

キーワード /Keywords

【冷戦】、【ポスト冷戦】、【封じ込め】、【覇権国】、【第三世界】

国際関係史II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

第1回～第7回、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会、2013)、2400円
第8回～第15回、五百旗頭真編『第3版 千五日米外交史』(有斐閣、2010)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス、教科書の「はじめに」
- 2回 朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【征韓論】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争と朝鮮(韓国) 【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治と国際関係 【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
- 6回 国際情勢の緊迫と朝鮮統治 【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
- 7回 日本の敗戦と朝鮮の南北分断 【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】

- 8回 第二次世界大戦から冷戦へ 【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本(1回分の量はA4用紙3～4枚程度) 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

二人の先生の担当授業です(1～7回金鳳珍、8～15回中野博文)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習。関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

地域研究入門 (アメリカ) 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、アメリカ合衆国が現在にいたる経緯を概観し、歴史・政治・経済・外交・文化など各分野の現状についての基本的、総合的な理解を深める。特に、多民族・多民族社会としてのアメリカの特質を知るために、人種問題やその解決への努力にも注目する。

教科書 /Textbooks

大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有賀貞『ヒストリカル・ガイド：アメリカ』山川出版社、2004年 ほか授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション～近年のトピック / 文献紹介
 - 第2回 19世紀のアメリカ～国土の開発・領土拡大と奴隷制
 - 第3回 19世紀のアメリカ～南北戦争の経緯
 - 第4回 19世紀のアメリカ～戦後処理とその後の黒人問題
 - 第5回 20世紀前半のアメリカ～移民史の概要
 - 第6回 20世紀前半のアメリカ～1920年代と禁酒法
 - 第7回 20世紀前半のアメリカ～大衆消費社会とメディア革命
 - 第8回 20世紀前半のアメリカ～大恐慌の発生
 - 第9回 20世紀前半のアメリカ～第二次世界大戦と戦後構想
 - 第10回 2010年の最もカレントなトピックについて (小テストを兼ねる) その1
 - 第11回 2010年の最もカレントなトピックについて (小テストを兼ねる) その2
 - 第12回 20世紀後半のアメリカ～戦争と人種問題
 - 第13回 20世紀後半のアメリカ～人種差別解決への努力
 - 第14回 20世紀後半のアメリカ～多文化主義の興隆とこれから
 - 第15回 まとめ
- その他、開講期間中に起こったニュース等に関連して、適宜その歴史的背景などの解説を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題 (小テスト) ...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくことと良い。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (中国) 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、主に社会科学の観点から中国を研究するための基礎知識を養うことを目的とする。建国から60年以上を経て中国は世界有数の経済大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。日本にとって重要な隣国であり、国際社会へも大きな影響を及ぼす中国を、どのように理解すればよいのか。そのような問題意識をもって、授業の前半では、共産党一党独裁下の政治経済体制への理解を深めるとともに、経済格差や少数民族問題など多くの問題を抱えたまま経済成長路線を走り続けなくてはならない中国の現状について解説する。後半では、国際社会との関係を軸に中国を論じる。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 毛里和子『日中関係 戦後から新時代へ』岩波新書、2006年
- 吉岡桂子『愛国経済 中国の全球化』朝日新聞出版、2008年
- 興梠一郎『中国激流 13億のゆくえ』岩波新書、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
- 2回 中国研究の基礎知識
- 3回 共産党一党支配体制I【経済体制】
- 4回 共産党一党支配体制II【政治体制】
- 5回 中央と地方
- 6回 メディアと情報統制
- 7回 経済格差I【所得】
- 8回 経済格差II【社会、民族】
- 9回 民族
- 10回 台湾I【日台関係】
- 11回 台湾II【中台関係】
- 12回 中国と国際関係
- 13回 中国脅威論
- 14回 日中関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。
新聞(紙面)を読む習慣をつけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (朝鮮半島) 【昼】

担当者名 /Instructor 山田 良介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・ 近代朝鮮、並びに、韓国・北朝鮮の政治外交について概観する。
- ・ 特に焦点を当てる事項は、朝鮮文化・社会の特徴、近代朝鮮を巡る日中露の対立、日本による朝鮮植民地支配の経緯と実態、米ソ対立と韓国・北朝鮮の建国、朝鮮戦争、日韓国交正常化、韓国の経済発展、韓国の政治体制の変遷、日韓の歴史問題、冷戦後の北朝鮮の政治経済状況と対日関係、北朝鮮の大量破壊兵器開発問題である。
- ・ 近代以降、朝鮮半島は大国の利害が錯綜してきた国際政治の中心舞台であり、その経緯を学ぶことで、国際政治に対する理解を深める。
- ・ 近代朝鮮、並びに、韓国・北朝鮮の政治外交についての調査、分析することを通じて、情報収集能力、思考力を養う。

教科書 /Textbooks

趙景達『近代朝鮮と日本』岩波書店 <岩波新書>、2012年
木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

姜尚中『増補版 日朝関係の克服』<集英社新書>、2007年
その他、授業で適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明
- 2回 近代日本と朝鮮①：アヘン戦争、日清戦争など
- 3回 近代日本と朝鮮②：日露戦争、韓国併合など
- 4回 日本の朝鮮植民地支配①：植民地経営政策など
- 5回 日本の朝鮮植民地支配②：反日運動、在日朝鮮人問題など
- 6回 日本の朝鮮植民地支配③：皇民化政策など
- 7回 日本の朝鮮植民地支配④：戦争への朝鮮人動員など
- 8回 戦後、冷戦期の朝鮮半島①：分断国家の誕生、竹島問題など
- 9回 戦後、冷戦期の朝鮮半島②：朝鮮戦争など
- 10回 戦後、冷戦期の朝鮮半島③：日韓国交正常化、韓国の経済発展など
- 11回 戦後、冷戦期の朝鮮半島④：日韓歴史問題など
- 12回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島①：韓国の民主化、冷戦終焉の韓国・北朝鮮への影響など
- 13回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島②：北朝鮮の大量破壊兵器開発問題など
- 14回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島③：拉致問題、日韓国交正常化問題など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に関するコメント40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストは、講義と相互補完的關係にあるので、きちんと読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (東南アジア) 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジアという地域の特徴をとらえるとともに、自らを東南アジアという地域に位置づけている11カ国について各国の特徴をとらえることを目的とする。東南アジアに関する専門書を読みこなすうえで必要となる基本的な地理や歴史、各国の現代政治史と今日的な課題などを中心に説明していく。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 弘末雅士『東南アジアの港市世界』岩波書店、2004年。
 - 清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。
- このほかにも講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 「東南アジア」という地域概念の展開&地理の把握
- 3回 歴史的背景(1) 伝統的社会的発展
- 4回 歴史的背景(2) 近代の到来と自立への模索
- 5回 島嶼部諸国のプロフィール(1) インドネシア
- 6回 島嶼部諸国のプロフィール(2) 東ティモール、ブルネイ
- 7回 島嶼部諸国のプロフィール(3) シンガポール
- 8回 島嶼部諸国のプロフィール(4) マレーシア
- 9回 島嶼部諸国のプロフィール(5) フィリピン
- 10回 大陸部諸国のプロフィール(1) ベトナム
- 11回 大陸部諸国のプロフィール(2) カンボジア、ラオス
- 12回 大陸部諸国のプロフィール(3) タイ
- 13回 大陸部諸国のプロフィール(4) ミャンマー
- 14回 日本と東南アジアとの結びつき
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

小テストを3回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 国際関係学科教員

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

新入生が中等教育段階までに習得した知識を確認し、それらを大学での専門分野に接合するため、双方をにらんだテーマ・素材を用いて、学生自身に考える機会を提供する。多様な地域を対象として、国民国家を中心とする国際社会の形成・変容や人々が生活する社会・環境の変化を踏まえ、現在の世界が抱える諸問題を検討する。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の最初に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

都合により順番が前後する場合がある。

- 1 ガイダンス
- 2 資料収集の方法と基本的用語(1)【図書館】【語彙力】
- 3 資料収集の方法と基本的用語(2)【図書館】【語彙力】
- 4 国際社会の組織化【国際連合】【EU】
- 5 国民国家とナショナリズム【国民】【革命】
- 6 社会主義・共産主義【マルクス主義】【一国社会主義】
- 7 人の国際移動【移民】【同化】【国民統合】
- 8 植民地化と脱植民地化【国民国家】【帝国主義】【権威主義体制】
- 9 東アジアのナショナリズム【歴史克服】【和解】
- 10 国際関係の研究手法(1)【引用】【検索】
- 11 国際関係の研究手法(2)【引用】【検索】
- 12 新自由主義と貧困・格差【ワシントン・コンセンサス】【絶対的貧困】【相対的貧困】
- 13 地球環境問題【持続可能な開発】【京都議定書】【排出量取引】
- 14 グローバリゼーションと地域主義【グローバリズム】【FTA】
- 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・レポート(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の担当者の指示に従うこと。
クラス単位の回があるので、注意すること。
授業中の私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質問などは授業中にするのが望ましいが、復習時に出てきた疑問などについてはオフィス・アワーを極力利用すること。

キーワード /Keywords

入門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 阿部・ 総田・ 北・ 金・ 中野・ 山本

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

入門演習は、皆さんが大学で今後学習を進める上で最低限必要となる技法の習得を目指すために行なう演習形式の科目です。いわば大学での勉学に関するイロハを身につけるための演習です。「調べること」、「書くこと」、「レジュメを作ること」と「プレゼンテーションを行なうこと」に重点をおきます。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、各自あるいはグループで取り組む作業が中心になります。以下、授業で行う課題に沿って各回の進行を例示していますが、実際の内容は担当教員によって異なります。

- 第1回
ガイダンス
- 第2-3回
文献をどのように検索して入手するのか
- 第4-5回
資料をどのように読むのか
- 第6回
盗用とは何か、それをどのように防ぐのか
- 第7-11回
文章、レポートおよび小論文をどのように作成するのか
- 第12-13回
プレゼンテーションに向けたレジュメをどのように作成するのか
- 第14-15回
プレゼンテーションをどのように行なうか

成績評価の方法 /Assessment Method

参加状況、課題への取り組み状況にしたがって評価します(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

入門演習は必修科目ですので、必ず履修してください。
演習形式の授業で主体になるのは履修生です。皆さんの積極的な参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この演習では国際開発援助レジームを取り上げ、どのような制度が生成され、どのように機能してきたのかについて学ぶとともに、新興国の台頭によって援助を超える議論が生み出されてきた背景について学習します。

教科書 /Textbooks

- 稲田十一 『国際協力のレジーム分析』 有信堂、2013年。
- ダンピサ・モヨ 『援助じゃアフリカは発展しない』 東洋経済新報社、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下村恭民ほか 『中国の対外援助』 日本経済評論社、2013年。
- セルジユ・ミッシェル、ミッシェル・ブルー 『アフリカを食い荒らす中国』 河出書房新社、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 モヨ 第1章、第2章
- 第3回 ディスカッション①
- 第4回 モヨ 第3章、第4章
- 第5回 ディスカッション②
- 第6回 モヨ 第5章、第6章
- 第7回 ディスカッション③
- 第8回 モヨ 第7章、第8章
- 第9回 ディスカッション④
- 第10回 モヨ 第9章、第10章
- 第11回 ディスカッション⑤
- 第12回 稲田 第1章、第2章
- 第13回 稲田 第3章、第4章
- 第14回 稲田 第5章、第6章
- 第15回 国際協力レジームに関するまとめとディスカッション

課外活動としてゼミ合宿ないしはゼミ旅行を行う予定

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20% 議論への貢献度・・・80%
(課題は上記文献2冊に基づくものを設定する予定)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生には、多くの関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べる事が求められます。
国際協力論IおよびIIを履修済みであることが望ましい。未履修の場合は、この演習と併せて受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習で一番必要なことは積極的な姿勢です。恐れずに議論に参加しましょう。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

アメリカ地域研究の中でも、特にアフリカ系、アジア系、ヒスパニック系、ユダヤ系などいわゆる「ハイフンつきアメリカ人」と呼ばれる多様なエスニック・マイノリティの人々のアメリカ社会への統合モデルはいかなるものか、統合のための政策にはどのようなものがあるかなど、アメリカ合衆国の社会史、移民史、人種関係論を史的・総合的に学ぶ。授業を通して、アメリカ合衆国の地域の特性について、総合的に理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

Bruce J. Dierenfield, The Civil Rights Movement: Revised Edition [Paperback], New York: Longman, 2008.
Roediger, David R. The Wage of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991]. (小原豊志ほか訳『アメリカにおける白人意識の構築：労働者階級の形成と人種』明石書店、2006年。)
ハワード・ジン、アンソニー・アーノブ『肉声でつづる民衆のアメリカ史』上・下巻、明石書店、2012年。
などの中から、受講生の関心によってテキストを選びたい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション。
第2～14回 テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
その他、各自の研究テーマに基づいての発表など。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近代政治思想史を、（本ゼミのキーワードである）アジアからの視点と文明論的な視点で読み直す。

教科書 /Textbooks

大塚健洋編著『近代日本政治思想史入門』（ミネルヴァ書房、2008）、2800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間 鄭観応・福沢諭吉・俞吉濬の比較考察』（九州大学出版会、2004）
- 李暁東『近代中国の立憲構想 嚴復・楊度・梁啓超と明治啓蒙思想』（法政大学出版会、2005）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生はテキストや参考文献から担当された部分を解説し、レジュメを作成・報告する。そして、参加者全員の討論を行う。ゼミ教官は討論を仲介しかつ必要な説明を補足する。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、報告・発表、討論、質疑応答、そしてゼミ論文を基に厳正に行う(100%)。事前連絡のない欠席や納得できる理由のない欠席は、1回につき5%減点。課題の報告や提出を怠ったときには、その事情によるが、10%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

東アジア地域研究に関心を持ち、多数の文献を解説しようという意欲をもつこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際政治経済学の分析視角を用いて、相互にかつ多層的に関連しあう国際政治経済の諸問題を自分なりに捉え、分析し、発表できるようにすることを目的とする。

教科書 /Textbooks

最初のゼミの時間に輪読用の文献を決める。さしあたり以下の文献を選定対象として考えている。
『グローバルゼーションとは何か』 伊豫谷登士翁 平凡社新書
『国際政治経済』 飯田敬輔 東京大学出版会
『国際政治経済学とは何か』 坂井昭夫 青木書店
『地球公共財』 イング・カール、イザベル・グレンベルグ、マーク・A・スターン編 日本経済新聞社
『国際政治モノ語り: グローバル政治経済学入門』 佐藤幸男 法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インタロダクション (テキストの決定、進め方の説明、報告順番の決定など)
第2回 グループワーク
第3回 レポートテーマの発表
第4回～第14回 テキストの輪読とレポート報告
第15回 まとめ / IPEに関連するDVD教材の利用

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献...30% 各自の報告...40% レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

輪読は毎回報告者を決め、報告者は担当する章の内容とそれに関連する事柄をカバーしたレジユメを用意して報告する。報告者以外も取り扱う章に目を通し、論点を用意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

東南アジア地域研究に関する基本的な文献を輪読し、東南アジアに関する理解を深める。卒論において、自分が興味・関心を持って取り組みそうな地域・時代・テーマを見つけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
2回～14回 テキストの輪読
前半は『東南アジア現代政治入門』を扱う。
後半は受講者の興味・関心を踏まえて、文献を別途指定する。
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %
報告者が、正当な理由もなく欠席した場合、単位はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回担当者を立ててテキストの内容を要約してもらい、それをもとに討論する。自分が担当する箇所以外についても、テキストは毎回必ずよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文献講読を通じて現代中国政治に関する知識を広く深く習得する。受講生は自らの研究テーマを定め、ゼミ論文作成のための準備を行う。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

- 第1回 インタロダクション (テキスト・ 参考文献の紹介、報告順番の決定など)
- 第2回 共通テキストの輪読・ 討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・ 討論への参加度・ 発言内容 ... 50% 提出物 (レポートを含む) ... 50%
報告レジュメ・ レポートの提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

政治学の基本文献を輪読する

教科書 /Textbooks

Edited by Quentin Skinner and Russell Price,
Machiavelli: The Prince (Cambridge university press, 1988)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス 第2回 introduction 第3回 1-3章
第4回 1-3章 第5回 4-6章 第6回 7章 第7回 8-10章 第8回 11-12章
第9回 13-16章 第10回 17-19章 第11回 20-23章 第12回 24-26章
第13回設定されたテーマに基づく討論 第14回自由討論 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治や国際関係史の授業をふりかえって学習すると理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語文献なので十分に予習復習をして授業に望んでください。

キーワード /Keywords

政治思想 近代 現実主義

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 共通の基礎的な日本語文献の輪読
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告準備を丁寧におこなうこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この演習では、次の関心をもちながら国際機構を研究する。
 ・ 国家の論理を超えた、国際機構としての論理はいかにして形成されるか
 ・ ヨーロッパの多国間主義は、国連や地域的機構にどのような影響を与えうるか
 ・ 国際機構はいかなる人権政策を実施しているか
 テキストを講読しつつ、卒業論文のおよそのテーマも決めることになる。

教科書 /Textbooks

エマニュエル・トッド（石崎晴己訳）『帝国以後 - アメリカ・システムの崩壊 - 』藤原書店、2003年。
 各自で購入する。生協販売はしない。一読したうえで初回に持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 テキストの講読（導入部）
- 第3回 テキストの講読（第1章）
- 第4回 テキストの講読（第2章）
- 第5回 テキストの講読（第3章）
- 第6回 テキストの講読（第4章）
- 第7回 テキストの講読（第5章）
- 第8回 テキストの講読（第6章）
- 第9回 テキストの講読（第7章）
- 第10回 テキストの講読（第8章）
- 第11回 テキストの講読（結論部）
- 第12回 卒業論文のテーマについての報告（1）
- 第13回 卒業論文のテーマについての報告（2）
- 第14回 卒業論文のテーマについての報告（3）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加80%、報告20%
 自らが報告者ではないときにどれだけ意見や疑問を提起できるかという点を重視する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

専門科目「国際機構論I」「国際機構論II」「国際人権論」を履修済みか、もしくは履修登録を行なうことを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際関係及び世界情勢を経済の立場から理解し、自分の意見を発表できるようになることを目指す。この演習では、世界経済とアジア経済に関する本を購読して共通する基本的な理解を深めていく。まず、経済学の基礎的な文献を輪読して、経済学についての基礎的な知識と考え方に慣れる。それと並行して、受講生各自が関心を持ったテーマについて適宜選んで関連文献を読み進むこととする。

教科書 /Textbooks

伊藤元重「はじめての経済学」(上・下)、日本経済新聞出版社、2004年。
次は、授業の中で話し合って選ぶ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション(テキストの選定、報告順番の決定など)
- 2~14回 テキストの輪読と質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

世界経済論または東アジア経済論の授業を履修しているか、経済学の入門書を読んでいることが望ましい。
ゼミでは発表担当者以外にも発言を求めます。該当箇所をあらかじめ読んでおいて、自分の意見を言えるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普段から新聞や雑誌に目を通して、日本と世界の動向に関心と理解を深めるように心掛けて下さい。

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

2学期に行われるこのゼミの前半部分では、国際開発援助の目的、動機、歴史、課題について、国際開発援助を主導してきたOECDが発行した最新の英語文献を用いて学びます。後半部分では、受講者の興味関心に沿った学術論文を輪読し、援助についてさらに詳しく学びます。

教科書 /Textbooks

○Brian Keeley, From Aid to Development: The Global Fight against Poverty, Paris: OECD, 2012.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下村恭民『開発援助政策』日本経済評論社、2011年。
- 下村恭民ほか『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Keeley Chap.1 & Chap. 2 ディスカッション
- 第2回 Keeley Chap. 3 ディスカッション
- 第3回 Keeley Chap. 4 ディスカッション
- 第4回 Keeley Chap. 5 ディスカッション
- 第5回 Keeley Chap. 6 ディスカッション
- 第6回 Keeley Chap. 7 ディスカッション
- 第7回 Keeley Chap. 8 ディスカッション
- 第8回 学術論文の輪読①
- 第9回 学術論文の輪読②
- 第10回 学術論文の輪読③
- 第11回 学術論文の輪読④
- 第12回 学術論文の輪読⑤
- 第13回 卒業論文のテーマ報告①
- 第14回 卒業論文のテーマ報告②
- 第15回 卒業論文のテーマ報告③

ゼミ論文の提出：2015年1月31日
課外活動としてゼミ合宿ないしはゼミ旅行を行う可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(ゼミ論文)・・・40% 議論への貢献度・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生には、多くの関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べるのが求められます。
国際協力論IおよびIIを履修済みであることが望ましい。未履修の場合は、この演習と併せて受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習で一番必要なことは積極的な姿勢です。恐れずに議論に参加しましょう。

キーワード /Keywords

専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

アメリカ地域研究の中でも、特にアフリカ系、アジア系、ヒスパニック系、ユダヤ系などいわゆる「ハイフンつきアメリカ人」と呼ばれる多様なエスニック・マイノリティの人々のアメリカ社会への統合モデルはいかなるものか、統合のための政策にはどのようなものがあるかなど、アメリカ合衆国の社会史、移民史、人種関係論を史的・総合的に学ぶ。授業を通して、アメリカ合衆国の地域の特性について、総合的に理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

Bruce J. Dierenfield, The Civil Rights Movement: Revised Edition [Paperback], New York: Longman, 2008.
Roediger, David R. The Wage of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991]. (小原豊志ほか訳『アメリカにおける白人意識の構築：労働者階級の形成と人種』明石書店、2006年。)
ハワード・ジン、アンソニー・アーノブ『肉声でつづる民衆のアメリカ史』上・下巻、明石書店、2012年。
などの中から、受講生の関心によってテキストを選びたい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション。
第2～14回 テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
その他、各自の研究テーマに基づいての発表など。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近代政治思想史を、アジアからの視点と文明論的な視点で読み直す。それを通して、2学期には、今日の東アジアとその中の日本を考えることや、将来の東アジア地域秩序の構想・構築のために有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』（九州大学出版会、2004）、5800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生はテキストや参考文献から担当された部分を解読し、レジュメを作成・報告する。そして、参加者全員の討論を行う。ゼミ教官は討論を仲介しかつ必要な説明を補足する。
2学期が終わる頃、ゼミ生はレポート（1万字程度）を作成し、提出する。
* できれば、「ゼミレポート」を卒業論文（3~4万字程度）の土台にしていきたい。
* 秋(10月中)には2泊3日の海外調査研究(ゼミ3・4年生の合同)を予定している。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発表、討論、質疑応答を基に厳正に行う(100%)。原則的に毎回出席。事前連絡のない欠席や納得できる理由のない欠席は、1回につき5%減点。課題の報告や提出を怠ったときには、その事情によるが、10~20%の減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

東アジア地域研究に関する多数の文献を自主的に読み、とくに興味のあるテーマを選び、卒業論文に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際政治経済学の視点が求められる様々な問題の中から、各自が関心のあるテーマを決定し、資料収集や発表を通じて卒業論文の準備作業を進める。個人研究報告と並行して、グループディスカッションやディベートを行うことで、習得した知識・フレームワークを活用して論理的な発表・議論ができるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

最初のゼミの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション(ゼミの進め方など)
第2回~第14回 レポート報告、ディスカッション/ディベート、共同研究報告
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献・・・20% 各自の報告・・・50% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 必要な文献、資料の調査や収集を進んで行うこと。
- ・ 議論への積極的な参加を期待する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒論で取り上げたいテーマについて、事実関係と先行研究の整理を行う。それをもとにゼミ論を作成し、卒論の作成につなげていく。

教科書 /Textbooks

報告者の関心に沿った文献。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～14回 各自の関心テーマに即した報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 課題 ... 30% 各自報告 ... 50 %
報告担当者が、正当な理由もなく欠席した場合、単位はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この科目の履修につながるよう、専門演習I終了時に課題を出します。この課題の評価は、専門演習IIの評価に組み込みます。なお成績評価の方法の一項目となっている「課題」には、さらに重要なものとして、ゼミ論があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、現代中国に関する様々な問題の中から受講生が設定した研究テーマを探究し、ゼミ論文を完成させることである。受講者の人数により、テキスト輪読と個人研究報告の回数を調整する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。なお、受講生は定められた期日までにゼミ論文を提出し、口頭発表を行う。

- 第1回 インTRODクシヨN (テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など)
- 第2回 各自の研究報告と討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 ゼミ論指導
- 第15回 ゼミ論に基づく口頭発表

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度・発言内容 ... 50% ゼミ論...50%
報告レジュメ・ゼミ論の提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

政治学の基本文献を輪読する

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-13回 文献輪読
- 第13回 ガイダンスで設定された課題についての自由討論
- 第14回 卒業論文の課題とその予備調査の報告 1
- 第15回 卒業論文の課題とその予備調査の報告 2

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治や国際関係史の授業をふりかえって学習すると理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ政治

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 各自の研究テーマに関する日本語・英語文献の輪読
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 各自のテーマに関する報告
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告準備を丁寧におこなうこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

このゼミは、次のような関心をもちながら国際機構を研究する。
 ・ 国家の論理を超えた、国際機構としての論理はいかにして形成されるか
 ・ ヨーロッパの多国間主義は、国連や地域的機構にどのような影響を与えうるか
 ・ 国際機構はいかなる人権政策を実施しているか
 具体的には、卒業論文のテーマに沿った文献報告等を行なう。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 文献報告等(1)
- 第3回 文献報告等(2)
- 第4回 文献報告等(3)
- 第5回 文献報告等(4)
- 第6回 文献報告等(5)
- 第7回 文献報告等(6)
- 第8回 文献報告等(7)
- 第9回 文献報告等(8)
- 第10回 文献報告等(9)
- 第11回 文献報告等(10)
- 第12回 文献報告等(11)
- 第13回 文献報告等(12)
- 第14回 文献報告等(13)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加80%、文献報告20%
 自らが報告者ではないときにどれだけ意見や疑問を提起できるかという点を重視する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

専門科目「国際機構論I」「国際機構論II」「国際人権論」を履修済みか、もしくは履修登録を行なうことを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際関係及び世界情勢について経済の立場から理解を深めていき、卒論の準備段階の作業を進めていくことを目指す。専門演習1と同様に、世界経済とアジア経済に関するテキストを講読するとともに、自分で関心の持つテーマを決めて個別に研究を進めてゼミレポートを作成する。

教科書 /Textbooks

最初のゼミの時間に数冊の候補の中から受講生の関心などに応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN (テキストの選定、報告順番の決定など)
- 2~14回 テキスト輪読または個別報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...60% ゼミレポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

世界経済論または東アジア経済論の授業を履修しているか、経済学の入門書を読んでいることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普段から新聞や雑誌に目を通して、日本と世界の動向に関心と理解を深めるように心掛けて下さい。

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文執筆に必要なスキルを身につけることが最大のねらいである。それには文献を批判的に読む能力、著者の主張を要領よく纏める技術、自分の考えをわかりやすく相手に伝える文章力が必要になる。この科目ではそのようなスキルの構築を目指す。前半では受講者の関心に沿った学術論文を輪読する。後半では卒業論文の構想について発表を行う。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（第3版）慶應義塾大学出版会、2002年。
- 川崎剛『「社会科学系のための優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 学術論文の輪読①
- 2回 学術論文の輪読②
- 3回 学術論文の輪読③
- 4回 学術論文の輪読④
- 5回 学術論文の輪読⑤
- 6回 学術論文の輪読⑥
- 7回 学術論文の輪読⑦
- 8回 学術論文の輪読⑧
- 9回 論文構想の発表①
- 10回 論文構想の発表②
- 11回 論文構想の発表③
- 12回 論文構想の発表④
- 13回 論文構想の発表⑤
- 14回 論文構想の発表⑥
- 15回 論文構想の発表⑦

成績評価の方法 /Assessment Method

報告... 40% 議論への貢献度... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

卒業論文執筆のための情報収集に日々努めておくことが求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代北東アジアの政治外交に関する研究を学生各自が行い、卒業論文の執筆を進める。
- ・ 論文作成を通じて、現代北東アジアの政治・国際関係についての理解を深めると共に、論理的で、説得力ある文章を作成する力を養う。
- ・ また、演習での議論・口頭発表を通じて、発表力の育成も図る。

教科書 /Textbooks

河野哲也『レポート・論文の書き方入門（第3版）』慶応義塾大学出版会、2002年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明など
- 2回 卒業論文構成の作成と相互批評①
- 3回 卒業論文構成の作成と相互批評②
- 4回 卒業論文構成の作成と相互批評③
- 5回 卒業論文構成改訂版の作成と相互批評①
- 6回 卒業論文構成改訂版の作成と相互批評②
- 7回 卒業論文構成改訂版の作成と相互批評③
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 発表
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 発表
- 14回 発表
- 15回 まとめ

- ・ 前期の卒業研究演習Ⅰでは、卒業論文の構成を完成させ、それに基づき執筆を進めるとともに、発表を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 質疑応答...20%、課題...40%、発表...40%
- ・ 発表は単なる論文の執筆状況の報告ではなく、十分なまとまりを持つことが必要である。
- ・ 卒業論文の要件などについては、授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 卒論で検討対象とする問題を授業開始までに選定しておくこと。
- ・ 問題を選定するためには、基礎的な文献を読み、その問題に関する基礎知識を得ておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回～14回 卒業論文の経過報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

卒論の作成に向けて、計画的に作業を行っていく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、文献講読を通じて現代中国政治に関する専門知識を深めることである。必要に応じて、卒業論文作成のための資料収集や論文執筆法について指導する。受講生は各自の研究報告を数回行い、卒業論文の進捗状況を適宜報告する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。

- 第1回 インTRODakシヨN (参考文献・資料の紹介、報告順番の決定など)
- 第2回 各自の研究報告
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 30% 討論への参加度と発言内容 ... 40% 課題...30%
報告レジユメ・課題の提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点、未提出は同20%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示する文献を熟読すること。
早い段階から卒業論文作成のための資料収集を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じた政治学の文献を購読するとともに、卒業論文の予備論文を作成する

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に個別に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-6回 論文の作成指導
- 第7回 中間総括
- 第8-14回 論文構成報告
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 30 % 予備論文 ... 70 %

3年次までの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

これまでの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動等で多忙な時期ですので、論文完成までのスケジュール管理をしっかりとってください。

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、卒業論文を準備する。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 各自のテーマに即した研究報告
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告準備を丁寧におこなうこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆にとりかかる。それとともに、第1に、テキストを講読しつつ、論文の執筆方法を学ぶ。第2に、論文を執筆するために必要な先行研究を紹介する。

教科書 /Textbooks

清水幾太郎『論文の書き方』岩波書店、1959年。
各自で購入する。生協販売はしない。一読したうえで、初回に持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 先行研究紹介(1)、テキスト講読(1)
- 第3回 先行研究紹介(2)、テキスト講読(2)
- 第4回 先行研究紹介(3)、テキスト講読(3)
- 第5回 先行研究紹介(4)、テキスト講読(4)
- 第6回 先行研究紹介(5)、テキスト講読(5)
- 第7回 先行研究紹介(6)、テキスト講読(6)
- 第8回 先行研究紹介(7)、テキスト講読(7)
- 第9回 先行研究紹介(8)、テキスト講読(8)
- 第10回 先行研究紹介(9)、テキスト講読(9)
- 第11回 先行研究紹介(10)、テキスト講読(10)
- 第12回 先行研究紹介(11)、テキスト講読(11)
- 第13回 先行研究紹介(12)、テキスト講読(12)
- 第14回 先行研究紹介(13)、テキスト講読(13)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加80%、報告20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に向けて、3年次に作成したゼミ論文を基礎として、各自の研究テーマについて関連文献を収集し精読して、学習をより深める。

教科書 /Textbooks

随時指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン (参考文献の紹介、報告順番の決定など)
- 2回～10回 関連文献の紹介・論評と討論
- 11回～14回 卒業論文の構成提示と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・課題...50% 討論への参加度・発言内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表の担当でなくても、他のゼミ生のテーマについて積極的に自らの意見や疑問を発言するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際政治経済論の分析視角を用いて、受講生各自がテーマに沿って研究を進め、卒業論文を完成させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談の上決定する。
1回 インTRODクシヨン(テキスト選定、報告順序の決定など)
2回~14回 文献の輪読・受講生の研究報告・議論
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・40% 議論への貢献度・・・30% 課題・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

図書館、オンラインデータベース、相互貸借などを利用して必要な文献・資料を収集する労力を惜しまないこと。

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成指導を行なう。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション
第2～14回 卒業論文の経過報告・個別指導・テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域の歴史、政治、経済、文化などを学ぶ。ゼミ生の卒業論文のテーマを検討し、関連文献を解説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東アジア地域研究や、ゼミ生各自の卒業論文テーマに相応しい資料や関連文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ゼミの概要、進め方
第2～14回 関連文献の解説、報告と討論
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミ参加への熱意、報告と討論を基に厳正に行う(100%)。毎回出席を原則とする。事前連絡のない欠席は減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生は自分の卒業論文テーマに関連する文献や資料を積極的に紹介し、解説すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とくになし。

キーワード /Keywords

文献・資料の探し方、解説法

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の完成が目標であるため、各自が研究の進捗状況をディスカッション形式で報告し合う。そのような方法をとることで、批判を交えつつも建設的に議論を進める技術を養う。また、論文を書く作業を通して、自己の主張をうまくまとめる能力を磨く。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会、2002年。
- 川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 卒論進捗状況報告ラウンド1①
- 第2回 卒論進捗状況報告ラウンド1②
- 第3回 卒論進捗状況報告ラウンド1③
- 第4回 卒論進捗状況報告ラウンド1④
- 第5回 卒論進捗状況報告ラウンド1⑤
- 第6回 卒論進捗状況報告ラウンド2①
- 第7回 卒論進捗状況報告ラウンド2②
- 第8回 卒論進捗状況報告ラウンド2③
- 第9回 卒論進捗状況報告ラウンド2④
- 第10回 卒論進捗状況報告ラウンド2⑤
- 第11回 卒論進捗状況報告ラウンド3①
- 第12回 卒論進捗状況報告ラウンド3②
- 第13回 卒論進捗状況報告ラウンド3③
- 第14回 卒論進捗状況報告ラウンド3④
- 第15回 卒論進捗状況報告ラウンド3⑤

第1回草稿提出： 2014年11月14日
第2回草稿提出： 2014年12月26日
卒業論文提出： 2015年1月31日
卒論発表会：2015年2月上旬～中旬に開催予定

成績評価の方法 /Assessment Method

卒論の執筆と報告... 70% 貢献度... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

図書館で必要な論文を、ILL (相互貸借) などを利用することによって早い時点から収集すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 総田 芳憲 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代北東アジアの政治外交に関する研究を学生各自が行い、卒業論文として書き上げる。
- ・ 論文作成を通じて、現代北東アジアの政治・国際関係についての理解を深めると共に、論理的で、説得力ある文章を作成する力を養う。
- ・ また、演習での議論・口頭発表を通じて、発表力の育成も図る。

教科書 /Textbooks

河野哲也『レポート・論文の書き方入門（第3版）』慶応義塾大学出版会、2002年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明など
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 発表
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 発表
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 発表
- 11回 発表
- 12回 論文最終発表
- 13回 論文最終発表
- 14回 論文最終発表
- 15回 まとめ

- ・ 前期の卒業研究演習Iで完成させた論文構成に基づき論文の執筆を進めるとともに、発表を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 質疑応答...20%、発表...40%、卒業論文...40%。
- ・ 発表は単なる論文の執筆状況の報告ではなく、十分なまとまりを持つことが必要である。
- ・ 卒業論文の要件などについては、授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 同担当者の卒業研究演習Iを履修した上で、IIを履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODakシヨN
- 2回～14回 卒業論文の経過報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

卒論の完成に向けて、計画的に作業を行っていく。論文の進捗状況をまめに報告すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、現代中国に関する様々な問題の中から受講生が設定した研究テーマを探究し、卒業論文を完成させることである。

教科書 /Textbooks

特に指定せず。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。なお、受講生は定められた期日までに卒業論文を提出し、授業最終日に口頭発表を行う。卒業論文の書き方については授業中に適宜アドバイスする。

- 第1回 インタロダクション(参考文献・資料の紹介、報告順番の決定など)
- 第2回 各自の研究報告と討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 論文指導
- 第15回 卒業論文に基づいた口頭発表

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度・発言内容...30%、卒業論文...70%
報告レジュメ・卒業論文の提出遅延は1回毎に全体評価の10%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示する文献を熟読すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成を指導する

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に個別に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-6回 卒業論文の作成指導
- 第7回 中間総括
- 第8-14回 卒業論文報告
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 30 % 卒業論文 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

これまでの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1月末が論文の締め切りですので、がんばりましょう。

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 各自のテーマに即した研究報告
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言・論文の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告準備を丁寧におこなうこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

専門演習I、同IIおよび卒業研究演習Iを通じた研究の成果を発表する。そのために、第1に、卒業論文の中間報告を行なう。第2に、卒業論文の最終報告を行なう。第3に、卒業論文を提出する。第4に、他の履修生の研究への助言を行なう。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 卒業論文の中間報告(1)
- 第3回 卒業論文の中間報告(2)
- 第4回 卒業論文の中間報告(3)
- 第5回 卒業論文の中間報告(4)
- 第6回 卒業論文の中間報告(5)
- 第7回 卒業論文の中間報告(6)
- 第8回 卒業論文の最終報告(1)
- 第9回 卒業論文の最終報告(2)
- 第10回 卒業論文の最終報告(3)
- 第11回 卒業論文の最終報告(4)
- 第12回 卒業論文の最終報告(5)
- 第13回 卒業論文の最終報告(6)
- 第14回 報告総括
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加80%、報告20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業研究演習Iで作成した論文の章構成にしたがって、研究テーマについて卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

随時指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回～14回 卒業論文の中間報告
- 15回 まとめ

論文草稿は、1 1月中旬に第1稿、1 2月末に第2稿、最終稿は1月末に提出する。

成績評価の方法 /Assessment Method

討論への参加度・発言内容...30% 論文の内容と報告...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表の担当者でなくても、他のゼミ生のテーマについて積極的に自らの意見や疑問を発言するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際政治経済論の分析視角を用いて、受講生各自がテーマに沿って研究を進め、卒業論文を完成させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談の上決定する。

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回～14回 研究報告・議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・議論への貢献度・・・40% 卒業論文・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

図書館、オンラインデータベース、相互貸借などを利用して必要な文献・資料を収集する労力を惜しまないこと。

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成指導を行なう。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション
第2～14回 卒業論文の経過報告・個別指導・テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文...80% 討論への参加度...20%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ゼミ生の卒業論文作成に取り組む。そのため、ゼミ生各自のプロポーザルの提出と討論、中間報告と討論、最終稿の提出を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ生各自のプロポーザル(研究計画書:A4の5枚程度)の提出、ゼミのガイダンス
- 第2~4回 プロポーザルの報告と討論
- 第5~10回 ゼミ生各自の初稿提出(A4の10枚程度)、中間報告と討論
- 第11~14回 卒業論文の発表会
- 第15回 完成原稿(2~3万字)の提出と検討

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の完成度による(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容に合わせて、プロポーザル、初稿、卒業論文を用意していくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文の早期完成のために頑張りましょう!

キーワード /Keywords

資料文献の探し方、解読法、問題提起、テーマ設定、プロポーザル作成法、論文の書き方

英米文学概論I【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の文学史を構成するものとして知られる作家やその作品を取り上げながら、作品が生まれた歴史的社会的背景を学びながら鑑賞する。合わせて国家概念や文学史の形成過程についても考察を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

『作品ガイド150 たのしく読めるアメリカ文学』 高田賢一、野田研一、笹田直人編 (ミネルヴァ書房)
その他の書籍は改めて授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『新版 アメリカ文学史：コロナルからポストコロナルまで』 別府恵子、渡辺和子編 (ミネルヴァ書房)
- 『21世紀から見るアメリカ文学史：アメリカニズムの変容』 早瀬博範、吉崎邦子編 (英宝社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (授業の概要、成績評価の方法、参考図書などの説明)
- 第2回 アメリカ文学史の全体像、植民地時代とネイティブ・アメリカンの文学：語っているのは誰か？
- 第3回 超越主義の時代：象徴としての自然
- 第4回 ロマン主義の時代 (1)：ピューリタンの掟と情念
- 第5回 ロマン主義の時代 (2)：理性と身体の間
- 第6回 リアリズム文学の時代 (1)：相対化される「私」
- 第7回 リアリズム文学の時代 (2)：ミシシッピー川を下って何処かへ
- 第8回 自然主義文学の時代：進化論の悲劇
- 第9回 女性作家と文学史：自我の目覚め
- 第10回 モダニズムの時代 (1)：パリのアメリカ人
- 第11回 モダニズムの時代 (2)：再生の希求、故郷との和解
- 第12回 アメリカ演劇の世界：さまよえる孤独な魂
- 第13回 エスニシティと多文化主義(1)：逃亡者の彷徨と帰還
- 第14回 エスニシティと多文化主義(2)：闘う女たち、語るができない過去
- 第15回 現代のアメリカ文学

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト、課題提出を含む) ...60%
学期末レポート...20%
学期末試験...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

適宜指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者はできるだけ多くの作品に触れて外国作品を読む楽しみを味わうとともに、英米文化についてより深い教養を身に付けることを目指してもらいたい。

キーワード /Keywords

英米文学概論II 【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

代表的な作家や作品に着目することでイギリス文学史を概観し、作品が生まれた歴史的社会的背景に留意しながらイギリス文学の特質や普遍性について理解を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

『よくわかるイギリスの文学』 清宮倫子, 清宮協子 編著 (南雲堂)

その他の文献は授業内で改めて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『作品ガイド150 たのしく読めるイギリス文学』 中村邦生, 木下卓, 大神田丈二 編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・成績評価のしかたなどについての説明, イギリス文学史概観
- 第2回 古英語とアングロ・サクソンの英雄: 『ベオウルフ』
- 第3回 中英語と中世の人間模様: 『カンタベリー物語』
- 第4回 ルネサンスとイギリス演劇の勃興: ウィリアム・シェイクスピア
- 第5回 階級社会と結婚: サミュエル・リチャードソンとジェイン・オースティン
- 第6回 作品鑑賞: 『高慢と偏見』
- 第7回 ロマン派詩とヴィクトリア朝時代の詩: ウィリアム・ワーズワス, ロバート・ブラウニング他
- 第8回 ヴィクトリア朝時代の市井の人々: チャールズ・ディケンズ
- 第9回 女性作家のまなざし: プロンテ姉妹とジョージ・エリオット
- 第10回 進化論と自然主義: トマス・ハーディ
- 第11回 作品鑑賞: 『ダーバヴィル家のテス』
- 第12回 20世紀とモダニズムの詩人たち: W. B. イエイツとT. S. エリオット
- 第13回 原始的な生命力の再評価: D. H. ロレンス
- 第14回 モダニズム文学と意識の流れ: ヴァージニア・ウルフ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト, 課題提出, 発表を含む) ... 60%
期末レポート ... 20%
期末試験 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

原書からの抜粋を読むため, 授業には英和辞典・英英辞典を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者はできるだけ多くの作品に触れて外国作品を読む楽しみを味わうとともに, 英米文化についてより深い教養を身に付けることを目指してもらいたい。

キーワード /Keywords

中国近現代史Ⅰ【昼】

担当者名 堀地 明 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「19世紀後半～20世紀初頭の中国」
アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
- 2回 大清帝国素描(1)：統治理念と版図の形成
- 3回 大清帝国素描(2)：対外観念と国際関係
- 4回 アヘン貿易とアヘン戦争
- 5回 太平天国
- 6回 洋務運動
- 7回 辺境の喪失
- 8回 朝鮮問題と日清戦争(1)：日清の朝鮮支配争いと
- 9回 朝鮮問題と日清戦争(2)：下関条約と東アジア国際関係の変動
- 10回 変法自強運動
- 11回 義和団事件
- 12回 光緒新政
- 13回 反清朝革命運動
- 14回 辛亥革命と清朝の滅亡
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% その他小テスト等...20%
試験を主に評価する。必要に応じてレポートを課す。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前にテキストに目を通して出席すること。
高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

19世紀後半～20世紀初頭、大清帝国、アヘン戦争、太平天国、洋務運動、辺境喪失、変法自強運動、義和団事件、光緒新政、反清革命運動、辛亥革命

中国近現代史Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「20世紀の中国」
 中華民国期(1912～49年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）
 ※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中華民国の出発と軍閥混戦(1)：袁世凱政権の諸相
- 2回 中華民国の出発と軍閥混戦(2)：北洋軍閥の抗争
- 3回 日本の対華21ヶ条要求
- 4回 新文化運動・五四運動
- 5回 第一次世界大戦下の経済発展
- 6回 戦間期とワシントン体制
- 7回 第一次国共合作と国民革命(1)：国共合作の成立
- 8回 第一次国共合作と国民革命(2)：上海政変と国共分離
- 9回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(1)：柳条湖事件と満州国の成立
- 8回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(2)：西安事変と抗日民族統一政権の成立
- 9回 日中全面戦争の勃発
- 10回 日中全面戦争からアジア太平洋戦争へ
- 11回 国共内戦と中華人民共和国の成立
- 12回 毛沢東時代の中華人民共和国
- 13回 鄧小平と改革開放
- 14回 戦後の日中関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% その他小テスト等...20%
 試験を主に評価する。必要に応じてレポートを課す。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前にテキストに目を通して出席すること。
 高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

中華民国、軍閥混戦、対華21ヶ条要求、新文化運動、五四運動、ワシントン体制、第一次国共合作、国民革命、九・一八事変、日中全面戦争、国共内戦、中華人民共和国、毛沢東、鄧小平、日中関係

英語学概論 【昼】

担当者名 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

統語論、意味論、形態論、音声学等、英語の言語的側面を概観し、インターネットの利用や実践を通して理解を深める。

教科書 /Textbooks

“First Steps in English Linguistics” by T. Kageyama et al. (くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 Introduction: Language 【onomatopoeia】
- 第2回 Linguistics 【language acquisition】 【overgeneralization】 【UG】
- 第3回 MorphologyI 【morpheme】 【Compound Stress Rule】 【Phrasal Stress Rule】
- 第4回 MorphologyII 【derivation】 【conversion】 【inflection】 【clipping】 【blending】
- 第5回 SemanticsI 【conceptual meaning】 【associative meaning】 【entailment】 【categorization】
- 第6回 SemanticsII 【hyponymy】 【meronymy】 【synonymy】 【antonymy】 【polysemy】 【metaphor】
- 第7回 SyntaxI 【movement】 【deletion】 【pro-form】 【coordination】
- 第8回 SyntaxII 【labeled bracketing】 【tree diagram】 【phrase structure】
- 第9回 Phonetics and PhonologyI 【pitch】 【intonation】 【accent】 【syllable】
- 第10回 Phonetics and PhonologyII 【organs of speech】 【vowels】 【consonants】
- 第11回 SociolinguisticsI 【world Englishes】 【regional dialects】
- 第12回 SociolinguisticsII 【American English】 【British English】 【Canadian English】
- 第13回 The History of EnglishI 【Old English】 【Middle English】 【Modern English】
- 第14回 The History of EnglishII 【Proto-Indo-European】 【Great Vowel Shift】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(提出物を含む) 40%、期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に予習範囲や提出物等について説明する。重要な専門用語を中心に、授業内容をまとめたノートを作成する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究 (音声学・音韻論) 【昼】

担当者名 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい音声について明らかにする。音声分析ソフトを用い、spectrographによる分析も試みる。英語学習者への英語音声指導のコツを身に着ける。

教科書 /Textbooks

佐藤 寧、佐藤 努 著『現代の英語音声学』金星堂、2400円(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA (テキスト:第1章、第3章)
- 2回 発生のメカニズム、母音の種類(1) (テキスト:第2章、第4章)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音 (テキスト:第4章)
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音 (テキスト:第5章)
- 5回 子音の種類(2)摩擦音(テキスト:第5章)
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音(テキスト:第5章)
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢(テキスト:第7章)
- 9回 音の縮小、同時長音(テキスト:第8章、第9章)
- 10回 英語のリズム(テキスト:第6章)
- 11回 イントネーション(1)基礎理論(テキスト:第10章)
- 12回 イントネーション(2)意思を表す(テキスト:第10章)
- 13回 音響音声学、聴覚音声学(テキスト:第11章、第12章)
- 14回 音変化と規則性(テキスト:第13章、第15章)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加、提出課題 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

USBメモリを準備すること
CALL教室で授業を行うので、1クラスの受講希望者が60名を超えた場合、別のクラスで受講してもらう場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は講義科目ですが、音声分析ソフト等を用い、なるべく実践練習を加えます。

キーワード /Keywords

IPA, articulation, vowel, consonant, stress, intonation, acoustic phonetics

アメリカの現代文学 【昼】

担当者名 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

まず、現代の第一次世界大戦後の荒廃を【ロスト・ジェネレーション】の世代としてニヒリズムの虚無と闘ったE・Hemingway、そして【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、第二次世界大戦後の【ポストモダニズムの文学】を読んで現代アメリカ文学への理解を深めていきたい。

【ロスト・ジェネレーション文学】

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(集英社文庫)

F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(中央公論新社)

【ユダヤ系文学】

J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)、

【黒人文学】

Richard Wright: Native Son 『アメリカの息子』(ハヤカワNVブックス)

【ポストモダニズム文学】

Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』(白水社Uブックス)

Dennis Johnson: Jesus' Son 『ジーザス・サン』

教科書 /Textbooks

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(集英社文庫)

F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(中央公論新社)

J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)

Richard Wright: Native Son、【ユダヤ系文学】、【黒人文学】【ポストモダニズム】(絶版なので資料配付)

Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』(資料配付)

Dennis Johnson: Jesus' Son 『ジーザス・サン』(資料配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】
- 2回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【ロスト・ジェネレーション】
- 3回 パリ、スペイン・パンブローナ「牛追い祭」と闘牛のシーン(映画・ビデオ)で鑑賞。
- 4回 F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 【The Jazz Age】
- 5回 F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 【Gatsby's Dream】
- 6回 F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 【American Dream】日本の【成金】との比較
- 7回 映画「華麗なるギャツビー」の鑑賞。
- 8回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】映画Scent of A Woman東部の名門寄宿高校
- 9回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【禅仏教】 【Angry Young Men】映画Scent of A Woman東部の名門寄宿高校
- 10回 Richard Wright: Native Son 【黒人作家】 【エリソン】 【ボールドウィンら黒人作家】
- 11回 Richard Wright: Native Son 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】
- 12回 ポストモダニズムの文学(1) Ken Kesey: One Flew Over the Cuckoo's Nest 【サイケデリック・カルチャー】
- 13回 ポストモダニズムの文学(2) Joseph Heller: Catch-22 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22の状況とは】
- 14回 ポストモダニズムの文学(3) Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』(白水社Uブックス)
- 15回 ポストモダニズムの文学(4) 【ブラックユーモア】 【シュールリアリズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(20%)、レポート(50%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アメリカの現代文学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で準備することは、テキストを読むこと、さらに、授業中指示した参考書等を読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの現代文学 【昼】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「幸福」について共に考えよう！！

文学作品の面白さの一つは、主人公を中心とする人物たちの様々な生き様を読むことで、読者がいつのまにかその世界にすっかり引き込まれ、自分自身がまるでactor、actressになったかのように別の人生を生きることができるところにあります。人間はともすると、居心地のよい自分だけの小さな世界の中で安穏と生きることで、井の中の蛙になりがちです。そのような中、独りよがりな独善から解放され、より広く深い人間観を持つためには、文学作品を読むことはうってつけの方法と言えるでしょう。更に、より広い世界観を得るためには、自国の文学だけに満足することなく、様々な国々の文学作品に接することも必要です。

現代文学の始まりがいつなのかについては、研究者の間でも諸説入り混じっていますが、イギリス文学史においては20世紀初頭に大きな変化が見られるため、本講義では便宜上、20世紀以降の作品を主に扱うことにします。

イギリスの20世紀以降は、伝統を重んじる保守派の中から、様々な領域において刷新を望む新しい力が台頭してきた、とても興味深い時代です。そのような変化が如実に反映されている文学作品の中でも、この授業では、主に短篇小説を読むことで、様々な人間についての問題について一緒に考えていきましょう。そうすることで、より広い視野をもつことができればと思います。(本年度の主なテーマは「幸福」です。)

★到達目標

- ①イギリスの現代文学のいくつかの作品を理解すること。
- ②イギリスの現代文学の研究方法を身につけること。(一つのテーマで比較検討すること。)
- ③イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できること。
- ④イギリスの現代文学に対する関心を更に高めること。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(原則として翻訳を用いますが、英語で書かれた原作も準備します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入(テーマ、授業の勧め方、評価方法などについての説明)
- 2回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、内容確認
- 3回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、議論【地位やお金と幸福】
- 4回 “The Happy Prince” by O. Wilde、内容確認
- 5回 “The Happy Prince” by O. Wilde、議論【自己犠牲と幸福】
- 6回 “A Little Cloud” by James Joyce、内容確認
- 7回 “A Little Cloud” by James Joyce、議論【自由や束縛と幸福】
- 8回 “Miss Brill” by K. Mansfield、内容確認
- 9回 “Miss Brill” by K. Mansfield、議論【孤独の不幸】
- 10回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、内容確認
- 11回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、議論【男女の愛の不毛性】
- 12回 Lady Chatterley's Lover by D.H. Lawrence、内容確認
- 13回 Lady Chatterley's Lover by D.H. Lawrence、議論【自然との関係にみる救い】
- 14回 幸福についての議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート...90% 平常点(課題など)...10% (出席重視)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

イギリスの現代文学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

短編については、配布する物語をあらかじめ授業の前に読んでおいてください。

原作（英語のオリジナル）のプリントも配布するので、英語を頑張りたい人は積極的にそれを活用して自分で訳す作業をすることをお勧めします。その作業をやった人については、評価に+αの配点をします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【地位やお金と幸福】、【自己犠牲と幸福】、【自由や束縛と幸福】、【孤独の不幸】、【男女の愛の不毛性】、【自然との関係にみる救い】

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

担当者名 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の古典である、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】と【アメリカの独立】の時代を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義の国アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学の古典への理解を深めていきたい。

教科書 /Textbooks

Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』 (岩波文庫)
Nathaniel Hawthorne : The Scarlet Letter 『緋文字』 (岩波文庫)
Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』 (新潮文庫)
Henry James: Daisy Miller 『デージー・ミラー』 (新潮文庫)
Henry James: The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』 (岩波文庫)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』 (岩波文庫)
 - Nathaniel Hawthorne : The Scarlet Letter 『緋文字』 (岩波文庫)
 - Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』 (新潮文庫)
 - Henry James: Daisy Miller 『デージー・ミラー』 (新潮文庫)
 - The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』 (岩波文庫)
- 参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【大英帝国植民地】 【マサチューセッツ・ボストン】 映像
- 2回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【ピューリタニズム】 映像
- 3回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【自由主義思想】 【Salem魔女裁判】 映像
- 4回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【ピューリタニズム】 【啓蒙主義思想】 の文学・映像
- 5回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【超絶主義】 の文学・映像
- 6回 NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオを観て「緋文字」の現代的意味を探る。
- 7回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【アメリカ民主主義】 【バーバリズム】 Powerpointによる解説
- 8回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【ゾロアスター教】 【拝火教】 Powerpointによる解説
- 9回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【白鯨とは何なのか】 【ヨブ記】 【異端】 映像
- 10回 Henry James: Daisy Miller 【19世紀の女性】 【Independent】 【自由とは】 映像
- 11回 Henry James: Daisy Miller 【慣習】 【因習】 【しきたり】 【Freedom】 【自由恋愛】 映像
- 12回 Henry James: The Portraite of a Lady 【民主主義アメリカの新しい女性】 【自立した女性】 映像
- 13回 Henry James: The Portraite of a Lady 【旧世界の因習】 【選択】 【人生の苦しみ】 映像
- 14回 Henry James: The Portraite of a Lady 【結婚・離婚と自己責任】 映像
- 15回 まとめ・Jamesの映像 『金色の嘘』 『鳩の翼』

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (30%)、レポート (40%) と学期末試験 (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備としてテキストを読むこと、授業次に指示した参考書等を読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

キーワード /Keywords

【大英帝国植民地】【マサチューセッツ・ボストン】Nathaniel Hawthorne【ピューリタニズム】【自由主義思想】【Salem魔女裁判】【ピューリタニズム】【啓蒙主義思想】【超絶主義】『緋文字』の現代的意味【アメリカ民主主義】【バーバリズム】【ゾロアスター教】【拝火教】【白鯨とは何なのか】【ヨブ記】【異端】【19世紀の女性】【Independent】【自由とは】【慣習】【因習】【しきたり】【Freedom】【自由恋愛】【民主主義アメリカの新しい女性】【自立した女性】【旧世界の因習】【選択】【人生の苦しみ】【結婚・離婚と自己責任】

イギリスの18-19世紀文学【昼】

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、18 - 19世紀のイギリス小説の中でも特に一般になじみが深いと思われるものを取り上げ、各々の作品の内容およびその思想背景などについて学ぶ。また、19世紀イギリス小説の代表的な作品の1つである『高慢と偏見』を原作・翻訳を合わせて通読することにより、小説観賞の方法を学ぶとともに、この時代のイギリス小説の特質についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

ジェイン・オースティン著・中野康司訳『高慢と偏見』（ちくま文庫）
Jane Austen, *Pride and Prejudice* (Penguin Classics)
別途、授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- キリスト教の基礎知識
『高慢と偏見』(1813) イントロダクション
- イギリス国教会の基礎知識
ジョン・バニヤン『天路歷程』(1678)
- ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』(1719)
- ジェイン・オースティン『高慢と偏見』(1813) 第1章～第11章
- ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』(1726)
- ジェイン・オースティン『高慢と偏見』(1813) 第12章～第23章
- メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』(1818)
- ジェイン・オースティン『高慢と偏見』(1813) 第24章～第32章
- ロバート・L・ステイヴンソン『ジークル博士とハイド氏』(1886)
- ジェイン・オースティン『高慢と偏見』(1813) 第33章～第42章
- ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』(1865)
- ジェイン・オースティン『高慢と偏見』(1813) 第43章～第52章
- H.G. ウェルズ『タイムマシン』(1895)
- ジェイン・オースティン『高慢と偏見』(1813) 第53章～第62章
- ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』(1871-72)
復習テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題提出(9～10回程度。主に小説の梗概作成)60%、授業への取り組み20%、小テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業への取り組み方を重視した評価を行う。課題の提出状況および出席状況が4/5を下回る者に対する成績評価は原則として行わない。締切を過ぎて出されたレポート類については若干減点する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語が苦手な方でもこなせる課題を設定します。イギリス小説を読む醍醐味を一緒に味わいましょう。

キーワード /Keywords

アメリカ文化論 【昼】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿ってきた道、そして現代における意義を検証していきます。この講義を通して、学生はアメリカに対する専門的知識を得る上で、アメリカ社会の動向に対して分析する力を身につけます。

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8回 The US System of 【Government】
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960s Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing 【Immigration】
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：60% 課題：0% 態度：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

The course will be taught mostly in English with Japanese used often to further student understanding of difficult content. Lecture notes will be provided to aid student review. The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary. Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北ユーラシアの民族と社会 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

民族を結び付けている言語・文化・宗教、アイデンティティなどについて考察する。
事例研究では、ロシア・旧ソ連を重点的に扱い、多民族国家・社会における言語問題、民族対立、文化統合・国民統合などの問題について考察し、グローバル化社会における個人と帰属社会の関係について理解を深めることを狙いとする。
到達目標は、多民族社会に関する知識を養い、日本の社会を多様な価値観で認識し直すことができるようになること。

教科書 /Textbooks

レジュメ配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

蓮実重彦、山内昌之『いま、なぜ民族か』 東京大学出版会 1994年
『スラブの民族』(講座スラブの世界 2) 山川出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族とは何か：【民族籍と国籍】、【民族アイデンティティ】
- 2回 民族社会と文化①文化の定義、人と文化、文化政策
- 3回 民族社会と文化②【クレオール】
- 4回 社会と宗教：世界の宗教意識調査、宗教の役割とは何か、宗教政策
- 5回 言語と社会①【母語とは】、人と言語、民族言語
- 6回 言語と社会② 近代化と言語政策・言語問題
- 7回 ボルガ・ウラル地域の民族社会①タタール人
- 8回 ボルガ・ウラル地域の民族社会②ウドムルト人
- 9回 北カフカスの諸民族、【ダゲスタンの諸民族】
- 10回 南カフカスの諸民族、アルメニア人、グルジア人、アゼリ人
- 11回 中央アジアの民族と社会：草原の民とオアシスの民、信仰と宗教、新たな国造り
- 13回 ウクライナの民族・地域問題：各地域が抱える問題、言語事情
- 14回 シベリア・極北の民族社会：自然と産業、開発の歴史、少数民族社会の消長
- 15回 旧ソ連の離散民：ロシアの朝鮮人、離散の歴史

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート70%、授業への取り組み状況30%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は単位取得資格を失います)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で参考文献や資料を紹介しますので、授業準備をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読I【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。最初は、資料読解力の養成、及び基本的な中国経済・社会に関する知識の習得を目指す。また可能であれば、現地資料の読解にも取り組んでいく。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
日本経済新聞社編(2002)「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ￥630
高井潔司(2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書 ￥700
丸川知雄(2013)『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 この他適宜授業中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【読解】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【読解】 【議論】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【読解】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【読解】 【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【読解】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【読解】 【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【読解】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【読解】 【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% レポート 10% 輪読・発表等授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読II【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指す。その中で出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
 日本経済新聞社編(2002)「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ￥630
 高井潔司(2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書 ￥700
 丸川知雄(2013)『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 この他適宜授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【読解】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【読解】 【議論】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【読解】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【読解】 【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【読解】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【読解】 【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【読解】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【読解】 【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% レポート 10% 輪読・発表等授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社経史I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。ビデオとプリントを中心教材とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 桃園の誓い(中国の農村部における定期市について学ぶ)
- 第3回 桃園の誓い(中国の農村部における地方政治について学ぶ)
- 第4回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
- 第5回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
- 第6回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
- 第7回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
- 第8回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
- 第9回 赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済の違いを学ぶ)
- 第10回 赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済の違いを学ぶ)
- 第11回 五丈原(蜀軍を率いた諸葛亮を通して組織原理を学ぶ)
- 第12回 五丈原(蜀軍を率いた諸葛亮を通して組織原理を学ぶ)
- 第13回 五丈原(蜀軍を率いた諸葛亮を通して組織原理を学ぶ)
- 第14回 五丈原(蜀軍を率いた諸葛亮を通して組織原理を学ぶ)
- 第15回 まとめの回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史II 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ『李示示(イ・サン)』を通して中国・朝鮮のような官僚専制社会と日本のような共同体社会との相違点について論じる。また、朝鮮と中国・日本との関係に触れられた部分などを素材として、近世東アジア社会の外交関係と貿易関係について論ずる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。DVDと配布プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。
山本進『環渤海交易圏の形成と変容』当用書店、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国や朝鮮の宮殿構造
- 第3回 中国や朝鮮の都市景観
- 第4回 清国使節団
- 第5回 中朝貿易・留学
- 第6回 銅銭不足
- 第7回 ファワン翁主・紅蔘
- 第8回 乱塵①
- 第9回 乱塵②・褌負商と松商
- 第10回 火縄銃の歴史
- 第11回 燕行使
- 第12回 ソンヨンの北京からの帰還
- 第13回 承政院日記の洗草
- 第14回 朝鮮の対清外交
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「日本史」や「東洋史」を履修していることが好ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環大西洋の社会史【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

2010年の冬以来、世界各地で民衆による大規模な抗議行動が頻発している。その行動は、ある地域では「革命」であり、ほかの地域では「異議申し立て」にとどまるが、いずれも権力や権威に対する抗議であることにおいては共通する。こうした抗議行動の原因や意義を考えるうえでのひとつの手掛かりとして、本講義では、環大西洋世界で生じた歴史的な「革命」を取り上げ、近代の欧米を中心とした政治的な流れを、経済・社会・文化と絡めて考察する。

教科書 /Textbooks

特に指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：授業の狙い・テーマについてのガイダンス
- 2回 イギリス革命：ピューリタン革命(1)【イギリスの宗教改革】
- 3回 イギリス革命：ピューリタン革命(2)【ピューリタニズムと共和国】
- 4回 イギリス革命：名誉革命(1)【王政復古体制】
- 5回 イギリス革命：名誉革命(2)【権利章典】
- 6回 アメリカ革命：反英抗争(1)【植民地建設】
- 7回 アメリカ革命：反英抗争(2)【植民地の発展】
- 8回 アメリカ革命：独立革命(1)【課税への反対】
- 9回 アメリカ革命：独立革命(2)【「コモン・センス」と「独立宣言」】
- 10回 フランス革命：アンシャン・レジーム(1)【「社団」から「公衆」へ】
- 11回 フランス革命：アンシャン・レジーム(2)【政治的危機と経済的危機】
- 12回 フランス革命：89年革命(1)【全国三部会とバスティーユ占領】
- 13回 フランス革命：89年革命(2)【「人権宣言」と「1791年憲法」】
- 14回 ハイチ革命：米仏への影響
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近現代の南欧世界【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

南欧の国、地域的に多様なスペイン近現代の流れを押さえた上で、19世紀の自由主義革命の時代の国民化やスペイン・イメージの形成、スペイン南部のアンダルシアのアグロタウンの世界、イベリア半島からの移民現象、そして地域と国家の問題（地域ナショナリズム）などを多角的にスペインの歴史を学び、最後に、現在の自治州国家体制の理解につなげたいと思います。歴史学は比較史ですから、スペインと同じラテン系のイタリアやフランスにも目配りしてスペイン史の理解を目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 立石博高『スペイン歴史散策』行路社、2002年
- 立石博高ほか編『スペインの国家と地域』国際書院、2003年
- 関哲行ほか編『スペイン史2 近現代・地域からの視座』山川出版、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 序論的なお話し
- 2回 スペイン自由主義革命の時代【自由主義】
- 3回 ヨーロッパのなかのスペイン
- 4回 旅行者たちが見た「スペイン」【ロマン主義】
- 5回 19世紀の国民形成について【国民化】
- 6回 南スペインのアグロタウンの世界
- 7回 アグロタウンのアンダルシア社会
- 8回 大西洋移民システムの中のイベリア半島
- 9回 アンダルシアからの移民現象
- 10回 スペイン経済の不均衡発展：アンダルシアとカタルーニャ
- 11回 カタルーニャ・ナショナリズム
- 12回 アンダルシア地域主義
- 13回 20世紀70年代の民主化と地域ナショナリズム
- 14回 多言語・多文化の国、スペイン【自治州国家体制】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で紹介する参考文献を読むと理解が早いでしょう。授業で配布するレジュメを読み直し、学んだことを確認すること。
3年次で岡住ゼミを希望する学生は、この授業を選択することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋政治史【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、17世紀から現代までのヨーロッパ地域の国際関係と西洋諸国の政治史を学ぶ。受講者は、授業前に予習としてテキスト（日本語および英語）を読み、授業に積極的に参加することが求められる。必要に応じて、視聴覚資料なども随時利用する。

教科書 /Textbooks

岡義武『国際政治史』岩波現代文庫、2009年。
ペーター・ガイス、ギヨーム・ル・カントレック『ドイツ・フランス共通歴史教科書【現代史】』明石書店、2008年。
Richard Sakwa and Anne Stevens (eds.), Contemporary Europe, 3rd ed. Palgrave Macmillan, 2012.

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 第1回 ガイダンス、ヨーロッパにおける国際社会の成立
 - 第2回 絶対王政期のヨーロッパ【外交】【傭兵制】【勢力均衡】
 - 第3回 国民国家形成期のヨーロッパ【フランス革命】【ウィーン体制】【イギリス】
 - 第4回 帝国主義の時代【植民地】【東方問題】【独仏関係】
 - 第5回 第一次世界大戦【バルカン半島】【三国同盟】【三国協商】
 - 第6回 ヴェルサイユ体制と新しい国際対立【アメリカ】【ヴェルサイユ条約】【国際連盟】
 - 第7回 第二次世界大戦【世界恐慌】【ファシズム】
 - 第8回 冷戦期(1)【東西対立】【マーシャル・プラン】
 - 第9回 冷戦期(2)【ドイツ問題】【NATO】【ヨーロッパ統合】
 - 第10回 ポスト冷戦【東西ドイツ統一】【東欧諸国】【EU】
 - 第11回 ヨーロッパ政治の多様性の変遷(1)【キリスト教】【国家】
 - 第12回 ヨーロッパ政治の多様性の変遷(2)【市民】【市場】
 - 第13回 ヨーロッパ政治の多様性の変遷(3)【社会主義】【域外要因】
 - 第14回 ヨーロッパ統合の歴史【ECSC】【EEC】【EC】【EU】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(40%)と授業参加(60%)による。受講者数が多い場合には、小テスト(40%)と期末筆記試験(60%)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当教員に関する情報、講義の進め方、成績評価方法について第1回の授業で説明するので、履修予定者は必ず出席すること。
学生が授業前にテキスト（日本語・英語）の該当部分を読んでいることを前提として、学生に発言を求める形で授業を進める予定である。
授業時の小テストで、不正行為（インターネットに掲載されている文章を転記する等）を行った場合、全ての小テストの点数を0点とする。
学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容の全てを扱うことはできなくなる点に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に出席せず、勉強せずに単位を取得することはできません。

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われてはいますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・ エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
- * 中村尚司『人びとのアジア - 国際学の視座から』岩波新書、1994年
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * 恩田守雄『開発社会学 理論と実践』ミネルヴァ書房、3800円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|---------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義 | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって | 【貧困概念】 |
| 第4回 アマルティア・センと社会・人間開発 | 【アマルティア・セン】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】 |
| 第6回 都市問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方） | 【資源配分】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題 ～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々なテレビ番組を視聴してしてください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りないようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発（SD）

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

今日、アジア諸国の経済成長は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバリゼーションの中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域研究に研究の焦点を絞っていましたが、2007年以降バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んで調査研究を繰り返すようになりました。ゆえに、本授業では、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア2カ国、バングラデシュと韓国を対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干(かなりかも)、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

本授業では、以上のことから、バングラデシュと韓国の社会文化に関する知識の吸収はもとより、公正・平等・信頼といった価値観の形成を目標としています。また、両国に興味を持つことによって、直接出かけるという実践力・行動力が現れることも期待しています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第2版】』明石書店、2009年

* バク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、2008年、840円

* 棚瀬孝雄『市民社会と法 - 変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円

* クォン・ヨンスク『「韓流」と「日流」~文化から読み解く日韓新時代』NHK出版、2010年、1100円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明

第2回 韓国とバングラデシュへのスタディ・ツアーの写真から韓国社会とバングラデシュ社会を読み解く
【スタディツアー】

第3回 統計数値、絵本を通しての両国の生活・文化の比較説明 【統計数値】

第4回 バングラデシュの農村社会~イスラーム教の紹介を含む 【イスラーム】

第5回 バングラデシュの都市社会(隣人関係) 【隣人関係】

第6回 バングラデシュ小ネタ集~教員の仰天体験を通して? 【小ネタ】

第7回 バングラデシュの都市社会(清掃人・ウェイストピッカー・有価廃棄物回収児童)
【雑業層】

第8回 韓国の1960~70年代の政治・社会と現在~映画「クラシック」を通して(1) 【映画鑑賞】

第9回 韓国の1960~70年代の政治・社会と現在~映画「クラシック」を通して(2) 【映画鑑賞】

第10回 韓国におけるバングラデシュ人労働者 【バングラデシュ人労働者】

第11回 韓国における多文化家族に見る社会 【多文化家族】

第12回 韓国の現代史 【現代史】

第13回 韓国の宗教と文化 【価値教育】

第14回 韓国社会の国際化(移民政策・多文化共生政策) = 他国との比較 【多文化政策】

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢...15% 小課題の提出 ... 25% レポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施

上記アジア2国はかなり異なっている。面白く、興味深い授業を心掛けたいので、笑う時は笑い、泣く時は泣き(映画鑑賞では泣きません)、考えるべき時は考え、なにごとにも真剣に取り組んでいただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしい。

アジア地域社会論 【昼】

キーワード /Keywords

アジア、バングラデシュ、韓国、スタディツアー、韓国映画『ラブストーリー（原題「クラシック」）』

フィールドワーク論 【昼】

担当者名 木下 靖子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

フィールドワークの調査方法、調査技能について、自然・どうぶつ・ひと・文化など、さまざまなフィールドからの具体的な報告を紹介しながら学びたいと思います。

フィールドワークとは、自分とは異なる他者を知るというひとつの方法と位置づけます。フィールドでは、未知の他者に会います。これまで自分が過ごした場とは言語や文化・社会が違うフィールドに飛び込んだとき、「わからない」という感覚を持つ一方で、それでもなぜか「わかってしまう」という感覚の両方を、ジェットコースターのように上下行き来しながら経験します。フィールドワークでは、他者を知ると同時に、自分自身の身体感覚や身体技能、社会技能が変化するというところに注目して考えます。

フィールドワークで培ったひととの関わりは、社会的な実践とつながり、翻って調査者の暮らし方や生き方を変えます。大学でおこなう調査・研究と社会的な実践、連帯との関連性を、フィールドワークという手法の応用として考えることを達成目標とします。

教科書 /Textbooks

適宜講義中に紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』菅原和孝○
『西表島の巨大なマメと不思議な歌』盛口満
『自然学の未来』黒田末寿○
『ピグミーチンパンジー』黒田末寿
『遊びの人類学ことはじめ-フィールドで出会った“子ども”たち』亀井伸孝○
『日常人類学宣言!-生活世界の深層へから-』松田素二○
その他講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1講フィールドワークするとは
第2講さまざまなフィールド-自然・どうぶつ
第3講さまざまなフィールド-ひと
第4講さまざまなフィールド-文化と普遍特性
第5講未知のフィールドに行く
第6講他者を知ること-調査・参与観察
第7講他者を知ること-身体感覚・技法
第8講他者を知ること-分析・比較
第9講フィールドワークと社会的な実践-環境保全(前編)
第10講フィールドワークと社会的な実践-環境保全(後編)
第11講フィールドワークと社会的な実践-国際協力(前編)
第12講フィールドワークと社会的な実践-国際協力(後編)
第13講フィールドワーク-暮らし方・生き方
第14講フィールドワーク-共同体を横断する
第15講まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義で紹介する社会活動に参加・本を読んで考える・・・50%
講義と実践をふまえて小論を書く・・・50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人類学 フィールドワーク

環境社会学【昼】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

自然環境と人間社会との複雑で深い相互関係について、主に森林と人間との関係性に注目し、歴史や文化、産業やコミュニティといった視点から、農山村等の事例を用いながら考えていく。各回で出された問いについて、自分なりの考察を行うとともに、自然と人間の関係について重要な課題を発見し、それらを今後とも追求していける力を備えることが目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回で、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○嘉田由紀子『環境社会学』岩波書店
○鳥越皓之『環境社会学』東京大学出版会
その他、各回のテーマに応じて、そのつど紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 本講義の枠組み
- 2回 資源採取と産業
- 3回 中国の自然・農業・食
- 4回 種の多様性と文化
- 5回 自然に対する言語概念1【語彙】
- 6回 自然に対する言語概念2【和歌】
- 7回 森林文化のとらえ方
- 8回 植物伝播の歴史と展開
- 9回 伝統工芸と日本文化
- 10回 農山村社会1【村落と生業】
- 11回 農山村社会2【村落の組織】
- 12回 農山村社会3【観光化】
- 13回 都市と農山村
- 14回 北九州の森林問題
- 15回 まとめと質疑応答

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験またはレポート...60% 日常の授業への取り組み... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシアの歴史と社会 【昼】

担当者名 西山 美久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ソ連崩壊以降の国内社会問題、内政、近隣諸国との関係など現代ロシアも含めて、ロシアの歴史・社会・文化・生活習慣などについて理解を深めることを目的とする。

到達目標は、ロシアの歴史や社会の基本的なことについて説明できるようになること。

教科書 /Textbooks

レジュメ配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和田春樹編『ロシア史』山川出版社

藤沼貴著『ロシア その歴史と心』

以上のほか、授業で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシアの自然・風土：ロシア基本データ、ロシアの領域特徴・自然特徴
- 2回 ロシアの歴史1：【キエフ・ルーシ】、【モンゴルの支配】、【モスクワ公国の発展】
- 3回 ロシアの歴史2：【動乱の時代】、【西欧化の波】、【ピョートル時代の近代化】
- 4回 ロシアの歴史3：【帝政ロシアの異民族支配体制】、【19世紀の改革と反動】、【ロシア革命】
- 5回 ロシアの歴史4：【ソ連国家建設から1970年代末までのソ連社会概観】
- 6回 ビデオ鑑賞：ソ連時代の人々の行動と価値観
- 7回 ロシア文化論①ロシア文化と地政学的条件、自然観と宗教
- 8回 ロシア文化論②生活文化、社会文化
- 9回 ゴルバチョフ登場からソ連崩壊まで①【ベレストロイカ】、【グラスノスチ】
- 10回 ゴルバチョフ登場からソ連崩壊まで②【ベレストロイカの行詰まり】、【ソ連崩壊】
- 11回 エリツイン時代のロシア：企業民営化、議会と大統領の対立、チェチェン侵攻
- 12回 プーチン時代のロシア：7連邦管区制度導入、言論統制、民営化企業見直し
- 13回 中央政府と民族共和国の関係：タタルスタン、ダゲスタンを例に
- 14回 ロシアの外交：【近い外国】、【遠い外国】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 70 % 平常の学習状況 ... 30 %
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は単位取得資格を失います)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ロシア、ソ連の歴史は複雑です。授業で参考文献や資料を紹介しますので、しっかり授業準備をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、国境のない環境問題（黄沙現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

- ① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書 /Textbooks

『環境社会学』（船橋晴俊著 成文堂 ￥2,700）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 ￥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ￥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 ￥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 ￥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ￥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 ￥840）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など（自分の環境概念について、書いてもらう）
- 2回 公害、環境（問題）とその構造（被害者、加害者等）
環境問題の特性とその構造（環境、社会構造と制度、技術、自然＝資源、人口）
- 3回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴1（日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国）
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2（日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国）
- 6回 環境政策の手段（間の比較分析）1；補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段（間の比較分析）2；有料化、road pricing等
- 8回 発表会
- 9回 自治体の環境政策（環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等）、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか（アジアへ、私の食卓へ、そして体へ）
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 まとめ（試験などの質問）

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 - 30%、レポート - 20%、期末試験 - 50%
（レポートの未提出者は期末試験を受けることができない。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境政策論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志に見える政治参加システム」について意味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない（原発なくても）と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な～ぜ～！！
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当！！
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの？

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策（政策手段）、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域エネルギーと原子力、
グローバルな要素、ローカル要素。

政策調査論 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、社会で起きている様々な現象や問題を分析するための技術の習得を目的とします。
人間同士のコミュニケーションが多種多様であるように、現代社会とのコミュニケーション、すなわち社会的な問題や人間がつくった組織や制度、政策、法律といったものへの「近付き方」も様々です。この社会への「近付き方」を知り、変化する「人間がつくったもの」への改善策や解決策を提示するための基礎を構築する、具体的には社会科学的分析手法を体系的に学ぶ授業となります。
分析手法を大きく質的な方法と量的な方法に分けて検討していきますが、ひとつの「近付き方」が唯一無二の方法ではないこと、また分析したい対象をいかに明確するのか、どれだけ客観的に考察するのか、さらに出てきた結果をどう読み解くのか、といったことを3人の教員がそれぞれ、ダイナミックに扱っていきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中道寿一ほか(2011)『政策研究：学びのガイダンス』福村出版
 - 佐藤郁哉(2002)『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社
 - 小池和男(2000)『聞きとりの作法』東洋経済新報社
 - 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
 - 谷岡一郎(2007)『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』筑摩書房
 - 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
- その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 分析方法を知る前に(1) 【演繹と帰納】【理論と実証】
- 3回 分析方法を知る前に(2) 【リサーチ・クエスチョン】【因果関係】
- 4回 質的な分析(1) フィールドワークにでかけよう
- 5回 質的な分析(2) 観察結果の比較
- 6回 質的な分析(3) 聞きとりの技法
- 7回 質的な分析(4) 分厚い記述・薄い記述
- 8回 質的研究と量的研究の「交差点」
- 9回 量的な分析(1) 数字の意味をとらえよう
- 10回 量的な分析(2) 数値データの利用と構築I【集合データ】【個票データ】【操作化】
- 11回 量的な分析(3) 数値データの利用と構築II【社会調査】【キャリアオーバー効果】【ダブル・バーレル】
- 12回 量的な分析(4) 計量的なデータ分析I【データの整理】【視覚化】
- 13回 量的な分析(5) 計量的なデータ分析II【記述統計量】【度数分布】
- 14回 分析方法の選択
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加・貢献度合い40%、課題60%
(遅刻厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「政策科学入門」「政策入門演習I」で学んだことをふまえて、本授業では色々な分析方法を扱っていきます(「政策科学入門」「政策入門演習I」を履修済みであることが受講条件ということではありません)。特段の準備は必要ありませんが、現状を把握したいとき、課題を解決するための方策を探りたいとき、その関心や方向性がひとによって多様であるように、分析方法もまた様々です。2014年度入学生および2013年度生には必修の科目で、毎回の出席が大前提の講義となります。2年次から始まるゼミでの活動の土台をこの授業で作っていきましょう。2012年度以前に入学された方にとっては選択必修の科目(政策理論科目)のひとつとなりますが、基本的に授業は積み上げ方式、すなわち前回以前の内容を受講生の共通理解として進めていきますので、休まず受講することが肝要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策調査論 【昼】

キーワード /Keywords

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 : Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係])について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 ¥2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 ¥2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 ¥3,568)
- 『政策過程分析入門』 (草野厚著 東京大学出版会 ¥2,625)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例 : 川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 4回 政策過程の理論 1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析 1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論 2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論 3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析 2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表!
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策I (政府間関係、利益誘導政治)
- 12回 政府間関係と自治体の政策II (地方の変革・ 事例 : 名古屋市)
- 13回 本のレポート発表
- 14回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 15回 関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表-30%、本のレポート-20%、 期末試験-50%
(レポートの未提出者・ 発表をしていない学生は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公私、社会的ディレンマ、
公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、
利益・価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

上級英語 A 【昼】

担当者名
/Instructor

スコット・ピュー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course uses the award-winning film *Forrest Gump* to explore in detail a variety of cultural and literary topics significant in America during the 60s and 70s, such as racism, gender issues, changing family relations, war and violence, drugs, popular culture, capitalist enterprise, and the rewriting of history. In addition, the class will offer a general introduction to film analysis to enable the investigation of the representation these topics in detail.

教科書 /Textbooks

Forrest Gump (DVD); handouts provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be provided by the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction to Film Studies
- 第2回 Introduction to American Cultural Studies (the 60s and 70s)
- 第3回 Part 1 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第4回 Part 2 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第5回 Part 3 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第6回 Part 4 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第7回 Part 5 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第8回 Part 6 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第9回 Part 7 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第10回 Part 8 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第11回 Part 9 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第12回 Part 10 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第13回 In-class writing exercise on the film
- 第14回 Term Report Workshop(1)
- 第15回 Term Report Workshop(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be determined based on class participation (30%), writing exercises (30%), and a term report (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語 B 【昼】

担当者名
/Instructor

スコット・ピュー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・実習

クラス 3年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course uses the classic film *A Streetcar Named Desire* to explore in detail a variety of cultural and literary topics significant in post-WWII America, such as gender issues, changing family relations, violence, ethnic and social class divisions, and emotional illness. In addition, the class will offer a general introduction to film analysis to enable the investigation of the representation these topics in detail.

教科書 /Textbooks

A Streetcar Named Desire (DVD and Screenplay); handouts provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be provided by the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction to American Cultural Studies (early post-WWII)
- 第2回 Introduction to Film Studies and the Drama of Tennessee Williams
- 第3回 Part 1 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第4回 Part 2 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第5回 Part 3 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第6回 Part 4 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第7回 Part 5 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第8回 Part 6 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第9回 Part 7 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第10回 Part 8 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第11回 Part 9 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第12回 Part 10 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第13回 In-class writing exercise on the film
- 第14回 Term Report Workshop(1)
- 第15回 Term Report Workshop(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be determined based on class participation (30%), writing exercises (30%), and a term report (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域統合論【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ統合を分析する理論的側面として地域統合論を解説し、ヨーロッパ統合を現実に推し進めることになった理念とともに、EUの組織・機構や意思決定過程について学ぶ予定である。また、EUにおける各分野の政策に関して、その発展過程を理解するとともに、成果と問題点を考察することを目指す。国際社会において、EUがアメリカとは異なる政策や立場を選択する事例や、国際組織やアジアとの関係についても触れ、ヨーロッパの統合過程において現れはじめている課題についても考えたい。

教科書 /Textbooks

森井裕一編『ヨーロッパの政治経済・入門』（有斐閣）、2012年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』[第2版] (芦書房)、2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 第1回 授業の進め方の説明、EUの概要(1)【加盟国】
- 第2回 EUの概要(2)【成果】
- 第3回 地域統合論【地域】【統合】【新機能主義】【交流主義アプローチ】
- 第4回 ヨーロッパ統合の理念と歴史【ECSC】【EURATOM】【EEC】【EC】【EU】
- 第5回 EUの組織・機構と意思決定過程(1)【欧州委員会】【欧州理事会】
- 第6回 EUの組織・機構と意思決定過程(2)【欧州議会】【閣僚理事会】
- 第7回 域内市場政策【単一欧州議定書】【域内市場統合】【共通通商政策】
- 第8回 単一通貨政策(1)【ウェルナー】【ECB】【ユーロ】
- 第9回 単一通貨政策(2)【加盟国の財政政策】【通貨危機】
- 第10回 共通農業政策(1)【CAP】【補助金】
- 第11回 共通農業政策(2)【財政問題】【発展途上国】
- 第12回 共通外交・安全保障政策【CFSP】【ESDP】【CSDP】
- 第13回 国際社会における主体としてのEU【環境問題】【ASEM】【国連】
- 第14回 ヨーロッパ統合における課題【拡大疲れ】【エリートvs. 大衆】【外国人排斥】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 40%、 期末筆記試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当教員に関する情報、講義の進め方、成績評価方法について第1回の授業で説明するので、履修予定者は必ず出席すること。
授業時の小テストで、不正行為(インターネットに掲載されている文章を転記する等)を行った場合、全ての小テストの点数を0点とする。
授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。
「西洋政治史」および「政党政治論」を履修することにより、ヨーロッパの国際関係や国内政治に関する知識を身につけておくこと効果的な学習ができる。
学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容の全てを講義することはできない点に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に出席せず、勉強せずに単位を取得することはできません。

キーワード /Keywords

自治体政策研究【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④単身世帯の急増、といった問題は避けて通れない最重要課題であるといつてよい。本講義では、まず、こうした課題を①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティといった視点から分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含め議論することにした。

次に、現代日本で進行中の地方分権改革の中で、地方自治体が「分権の受け皿」として、政策過程のなかで積極的かつ効果的な役割を担っているのか（あるいは担うことができるのか）といった問題について触れることにしたい。そして、これまで中央政府で決定された公共政策の単なる実施機関としての位置づけが濃かった日本の自治体が、自ら「政策形成の担い手」になりうるかどうかといった問題を、政策プロセスにおける住民参加の問題やNPOの問題などを含め多角的視点から検討・考察し、現代日本におけるいわば「政策自治体」の可能性・ありかたを模索することにした。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 海道清信『コンパクトシティ - 持続可能な社会の都市像を求めて』（学芸出版社、2001年）
- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農村漁村文化協会、2005年）
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）
- 大西隆ほか『集落再生 - 「限界集落」のゆくえ』（ぎょうせい、2011年）
- 山下祐介『限界集落の真実 - 過疎の村は消えるのか？』（ちくま書房、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想（青森市、富山市など）
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-くしとお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落（1）-限界集落とは何か
- 6回 限界集落（2）-限界集落の事例、綾部市の「水源の里」条例
- 7回 限界集落（3）-限界集落の再生、「集落支援員制度」等の検討
- 8回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは
- 9回 北九州市の局地的高齢化
- 10回 限界コミュニティとコミュニティ再生
- 11回 北九州市における超高齢コミュニティと対策
- 12回 北海道伊達市の移住政策
- 13回 フードデザート、買い物難民（買い物弱者）を考える
- 14回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（1）-市民参加と協働
- 15回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（2）-コミュニティ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配付するレジュメ、論文、新聞記事などを読んだうえで講義に参加していただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業には毎回必ず参加してください。授業に参加しなければはじまりません。

自治体政策研究【昼】

キーワード /Keywords

人口減少社会、高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民(買い物弱者)

中国歴史社会研究I 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。Iでは主として政治・経済・国際関係の実態と思想との整合性について述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国や韓国の子供観・文字学習と千字文
- 第3回 鶏肋の意味
- 第4回 朝鮮の秩序意識・大陸における面子の重要性
- 第5回 饅頭・親孝行①
- 第6回 ヨンセンと人間関係
- 第7回 冊封体制・明の使節
- 第8回 満漢全席・食器
- 第9回 料理
- 第10回 親孝行②
- 第11回 衣装と服制
- 第12回 白米・貨幣
- 第13回 上司の条件
- 第14回 東アジアにおける銀の流通
- 第15回 まとめの回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究II 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。IIではこれまでこの地域の普的思想と考えられてきた「儒教」が、実際には地域の社会的・文化的特性に応じて、固有の変化を遂げていたことを述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 医女の歴史・中国の年号を朝鮮で用いた理由
- 第3回 儒教の経典
- 第4回 復讐と報恩・ヨンセンの面子
- 第5回 東洋医学・己卯士禍
- 第6回 華佗
- 第7回 脚気
- 第8回 宮廷の構成
- 第9回 胡椒の流入・韓国人と漢字
- 第10回 裁判制度・密貿易
- 第11回 親孝行③
- 第12回 大長今の称号
- 第13回 チャングムの時代の東アジア儒教(朱子学の伝播)
- 第14回 チャングムの時代の東アジア外交(漢字文化圏の一体性)
- 第15回 まとめの回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語A 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - 1 , 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力とビジネス文章の読む力を身につける。また進学・就職に有利になるビジネス中国語の中国政府公認試験 B C T の上級レベルを目指し、短期間で合格することを目的とする。

教科書 /Textbooks

中国政府公認「BCTビジネス中国語検定試験要綱—公式試験ガイドブック」
翻訳出版 日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期 (A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。B C T 試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。B C T 問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒアリング練習
- 3回 単語テスト・閲読練習I
- 4回 単語テスト・閲読練習II
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・閲読練習I
- 7回 単語テスト・閲読練習II
- 8回 ヒアリング練習
- 9回 単語テスト・閲読練習
- 10回 会話練習I
- 11回 会話練習II
- 12回 単語テスト・作文練習I
- 13回 単語テスト・作文練習II
- 14回 ヒアリング練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト40%、定期試験45%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス専門用語 B C T 受験 (「BCT基礎」テストを含む)

ビジネス中国語A 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - 3 , 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力とビジネス文章の読む力を身につける。また進学・就職に有利になるビジネス中国語の中国政府公認試験 BCT の上級レベルを目指し、短期間で合格することを目的とする。

教科書 /Textbooks

中国政府公認「BCTビジネス中国語検定試験要綱—公式試験ガイドブック」
翻訳出版 日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期 (A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCT問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒアリング練習
- 3回 単語テスト・閲読練習I
- 4回 単語テスト・閲読練習II
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・閲読練習I
- 7回 単語テスト・閲読練習II
- 8回 ヒアリング練習
- 9回 単語テスト・閲読練習
- 10回 会話練習I
- 11回 会話練習II
- 12回 単語テスト・作文練習I
- 13回 単語テスト・作文練習II
- 14回 ヒアリング練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト40%、定期試験45%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス専門用語 BCT受験 (「BCT基礎」テストを含む)

ビジネス中国語B 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - 1 , 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話、作文を習得し、実用的なコミュニケーション能力を身につけ、進学・就職に有利になるBCT上級に短期間で合格することを目的とする。

教科書 /Textbooks

中国政府公認「BCTビジネス中国語検定試験要綱—公式試験ガイドブック」
翻訳出版 日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期 (B)

ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT問題集を学習する。
「ヒアリング・閲読」と「会話・作文」の得意、不得意を検討し、弱い分野について繰り返して学習する。
BCT会話、作文問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 単語練習
- 3回 閲読練習I
- 4回 単語テスト・ヒアリング練習
- 5回 単語テスト・閲読練習II
- 6回 ヒアリング練習
- 7回 単語テスト・閲読テスト練習I
- 8回 ビジネス会話作文I
- 9回 実践会話練習
- 10回 ビジネス会話作文練習II
- 11回 実践会話練習
- 12回 ビジネス会話作文練習III
- 13回 実践会話練習
- 14回 ビジネス会話作文練習IV
- 15回 実践会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、小テスト35%、定期試験45%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語テストの予習、作文練習、会話発表の準備、

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてほしい。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語 会話力 ビジネス文章 BCT受験 (「BCT基礎」テストを含む)

ビジネス中国語B 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - 3 , 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話、作文を習得し、実用的なコミュニケーション能力を身につけ、進学・就職に有利になるBCT上級に短期間で合格することを目的とする。

教科書 /Textbooks

中国政府公認「BCTビジネス中国語検定試験要綱—公式試験ガイドブック」
翻訳出版 日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期 (B)

ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT問題集を学習する。
「ヒアリング・閲読」と「会話・作文」の得意、不得意を検討し、弱い分野について繰り返して学習する。
BCT会話、作文問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 単語練習
- 3回 閲読練習I
- 4回 単語テスト・ヒアリング練習
- 5回 単語テスト・閲読練習II
- 6回 ヒアリング練習
- 7回 単語テスト・閲読テスト練習I
- 8回 ビジネス会話作文I
- 9回 実践会話練習
- 10回 ビジネス会話作文練習II
- 11回 実践会話練習
- 12回 ビジネス会話作文練習III
- 13回 実践会話練習
- 14回 ビジネス会話作文練習IV
- 15回 実践会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、小テスト35%、定期試験45%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語テストの予習、作文練習、会話発表の準備、

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてほしい。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語 会話力 ビジネス文章 BCT受験 (「BCT基礎」テストを含む)

アメリカ経済【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

金融危機以降雇用面で問題を抱えてきたアメリカですが、緩やかに回復の傾向が見られます。また、アメリカの中央銀行であるフェッドでは、イエレン議長へとその金融面での舵取りが引き継がれました。長く続いた金融緩和を縮小することが決まっているなか、今年のアメリカ経済は日本経済とともに目の離せないものになるでしょう。

他方、アメリカは貧富の格差や財政赤字などの構造的な問題も抱えています。こうした問題にオバマ大統領がどのように対処していけるかも重要な論点です。

この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。

経済学の前提となる知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小野亮・安井明彦『やっぱりアメリカ経済を学びなさい - 世界経済はアメリカを中心に動く』東洋経済新報社、2013年6月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% レポート...20%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめ、自分の感想・見解と一緒に2000字程度で作成します。

レポートの提出期限・提出方法、試験範囲は随時授業で連絡します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授(経済学部・大学院経済学研究科)なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール(yamazaki@cis.fukuoka-u.ac.jp)に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 QE3 オバマケア 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

環境経済学 【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 環境問題の原因を経済学的視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
時政・薮田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN : 環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか?(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか?(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンス】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円

その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、海外進出先に関してどのような選択をするのが尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。その際、行動経済学を利用するので、行動経済学の紹介を行なう。

ゲーム理論も紹介するので、算数レベルものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、算数に対して苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】【極小確率事象】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク【SARS】
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

直接投資の説明に、行動経済学を利用するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書はあらかじめ読んでいることを前提に講義を行なう。

キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

法学総論【昼】

担当者名 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○				○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
 1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
 2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』(有斐閣・2005年)
 井上正仁・能見善久編『ポケット六法 平成26年版』(有斐閣・2013年)
 ※ 基本的にレジュメに沿って講義を行い、適宜教科書六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』(有斐閣・2010年)(図書館蔵書:○)
 ※ このほか、講義中に板書・レジュメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か(1)【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か(2)【法と道徳】【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か(3)【法と強制】【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法(1)【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法(2)【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法(3)【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法(1)【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法(2)【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民事法(1)【財産と法】【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民事法(2)【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進捗等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
1. 平常の学習状況(進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある)(全体の30%)
 2. 講義全体の内容についての期末テスト(全体の70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。
 ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
 ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学 【昼】

担当者名
/Instructor

濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 1学期
/Semester授業形態 講義
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、①現代政治に至るまでの国家と社会の変化、②構築されてきた制度、③制度の設計・維持に関わる人々（議員や市民）、④地方・国・国際等の異なるレベルの政治の関係を扱います。本講義を通じて、受講生が政治学の基礎的な概念を理解し、政治に対する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ（A3で2 - 3枚）を配布します。
テキストについては講義の初回に紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション	
第2回	政治とは何か？	【権力】【権威】【正統性】
第3回	国家と社会①	【市民革命】【議会主義】【大衆社会】
第4回	国家と社会②	【行政国家】【福祉国家】
第5回	民主主義と自由主義	【民主主義】【自由主義】【自由民主主義】
第6回	政治制度①	【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
第7回	政治制度②	【小選挙区制】【比例代表制】【中選挙区制】【混合型】
第8回	政治制度③	【一院制】【二院制】
第9回	制度の視点	【集権】【分権】【制度補完性】
第10回	デモクラシーと代表①	【代表性】【政党】
第11回	デモクラシーと代表②	【政党システム】【二大政党制】【多党制】
第12回	デモクラシーと代表③	【政治参加】【政治的社会化】
第13回	地方自治	【団体自治】【住民自治】【ガバナンス】
第14回	国際政治	【グローバル化】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

試験（70%）、講義への参加態度（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、等に関する教職に関する基本的な知識を獲得し、教職についての理解を深め、教職についての課題を発見し、思考し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択に資する各種の機会の提供等の指導を受ける。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし（授業中に適宜紹介する）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1回 学校教育と教職の意義 | 【学校教育】【教職】 |
| 2回 学校教育と教員の役割 | 【学校】【教育】【教員の役割】 |
| 3回 学校教育の「目的」 | 【教育目的論】 |
| 4回 学校教育の「内容」と「方法」 | 【教育課程】【教育課程の編成原理】 |
| 5回 教員の職務内容と生徒指導 | 【教員の職務】【生徒指導の伝統】 |
| 6回 キャリア教育と進路選択 | 【職業選択の基礎理論】【進路選択】 |
| 7回 教員の使命 | 【教育の論理】【生活の論理】 |
| 8回 「生きる力」と教員の資質と適格性 | 【青少年の意識】【愛と要求】 |
| 9回 「自主的な問題解決」と教員の役割 | 【自主性】【生徒の意識】 |
| 10回 「いのちの教育」と教員の役割 | 【生と死の教育課程】 |
| 11回 「身体教育」と教員の役割 | 【健康管理】【食教育】【排便教育】 |
| 12回 「喫煙防止」と教員の役割 | 【未成年者喫煙防止法】 |
| 13回 「掃除」と教員の役割 | 【学校掃除】【掃除の指導】 |
| 14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違 | 【評価の種類】【体罰】 |
| 15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ | 【指導】【管理】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む） 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 家庭教育の課題：社会化
- 6回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②：日本の教育思想
- 8回 教育史①：西洋教育史
- 9回 教育史②：日本教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：教材・方法
- 13回 職業と教育：進路形成
- 14回 国際化と教育：言語・文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10% 課題 30% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジユメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

義務教育、中等教育、教員に関する制度等、教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則 教育制度とは、教育関係法規、
- 2回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性
- 3回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育,中等教育
- 4回 教員に関する制度(1) 教員免許法制
- 5回 教員に関する制度(2) 公務員としての教師、教員の指導力と研修
- 6回 教育行政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校
- 7回 生涯学習の制度 学校教育と社会教育の連携、高等教育
- 8回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 9回 教育課程の意義と編成(1) 学習指導要領、教科書・教材
- 10回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 11回 学校における教育課程編成
- 12回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 13回 教育課程の開発・評価
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。
なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂
ONE WORLD English Course 1～3 教育出版
"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂
NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍
TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD (師範授業) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD (師範授業) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 (中学校) 【1年生】
14. モデル授業 (中学校) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎月1回、金曜日開講のこの授業が土曜日に移動になる可能性があります。そうな場合は、4月の第1回目の授業で詳細なスケジュールを配布します。どうぞご了承ください。

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
Vivid Reading MEW EDITION 第一学習社 Onstage English Course I・II 池田書店
EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂 PROMINENCE English I・II 東京書籍
"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂
Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂
"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 ELEMENT English Course I・II 啓林館
Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社
"NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・II" 文英堂
Genius English Course Revised I・II 大修館書店 CROWN English Series New Edition I・II 三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [英語I以外の科目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎月1回、金曜日開講のこの授業が土曜日に移動になる可能性があります。そうな場合は、4月の第1回目の授業で詳しいスケジュールを配布します。どうぞご了承ください。

キーワード /Keywords

社会科学教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

学習指導要領で取り扱われている中学校社会の各分野に関する知見を修得し、指導計画、社会科における資料活用、学習指導案の作成など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な技能と理論を学習する。それらを通して知識だけでなく、教師の持つべき責任感と使命感を養うことをねらいとする。

本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科、地理、歴史の分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成20年9月 文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中等社会科の理論と実践』（二谷貞夫・和井田清司 編学文社 2007）
他に適宜授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション 教育の目的と社会科の役割
- 第 2 回 社会科教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント
- 第 3 回 地理的分野の目標とその取り扱い
- 第 4 回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
- 第 5 回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い
- 第 6 回 社会科の授業づくり 教材研究
- 第 7 回 社会科の授業づくり グループワークについて
- 第 8 回 社会科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
- 第 9 回 社会科の授業づくり フィールドワークについて
- 第 10 回 社会科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
- 第 11 回 単元計画と学習指導案 1 指導案の作成と留意点
- 第 12 回 単元計画と学習指導案 2 年間計画と指導案作成
- 第 13 回 政治および宗教に関する事項の取扱い
- 第 14 回 社会科教師に求められる資質・能力
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習（グループワークや質疑などへの参加） 30%
ミニレポート（毎授業後に提出） 40%
学習指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

グループワークなどを行うので毎授業の積極的参加を望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、一学期の社会科教育法Aの授業で学習した社会科の知識と教授方法の基礎を前提として、社会科教師としてのより実践的な指導力の育成をめざす。また教育方法論や授業理論について学習する。現代社会の諸問題を取り上げ、教材開発につなげる。

本授業は、全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、社会科を担当する教員として、学習指導要領、教材開発、授業形式、授業内容に関する知識などを習得した上で受講者は模擬授業を行い、受講者全員で検討していく。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成20年9月 文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イントロダクション
- 第 2回 学習指導要領における中学社会科と社会の諸問題
- 第 3回 教育方法論・教材開発
- 第 4回 社会科初志の会の授業理論 個が育つ教育
- 第 5回 授業研究・教員評価について
- 第 6回 学習指導案の作成作業 教師による影響の注意
- 第 7回 模擬授業
- 第 8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第 9回 フィールドワークについて、模擬授業
- 第 10回 グローバル化について、模擬授業
- 第 11回 環境問題について、模擬授業
- 第 12回 情報化社会について、模擬授業
- 第 13回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第 14回 規範意識について、模擬授業
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 30%、各授業でのミニレポート 40%、模擬授業時に作成する学習指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における道徳教育の理念と道徳の指導法、及び学習指導案の作成について学習する。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年）＜中学校教諭免許状の取得希望者＞、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年）＜高等学校教諭免許状の取得希望者＞

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】【教育活動全体を通じて行う指導】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 道徳教育の目標と内容	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の計画と指導	【指導方法】
7回 学習指導案の内容と作成と指導	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】【家庭や地域社会との連携】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【道徳教育の評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)
高等学校学習指導要領 「特別活動」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実践
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実践
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウイン・ウイン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数全体が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

教育方法学 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科等を実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解し、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）の理論と基本的なスキルを獲得するとともに、教育方法についての課題を発見し、思考する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし (授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 情報機器及び教材の活用	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習 1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 人権と教育	【人権】 【自尊感情】
6回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
8回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
9回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(特別活動:授業展開)	【学習指導案】 【指導目標】
13回 模擬授業②(特別活動:指導技術)	【授業構成】 【指導技術】
14回 模擬授業③(各教科:授業展開)	【授業展開】 【導入】 【展開】
15回 模擬授業④(各教科:指導技術)	【発問】 【説明】 【指示・助言】 【指導技術】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(50%) 学期末の提出物の評価(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第1章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第II章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第III章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性の問題行動など(テキスト 第III章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第IV章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第V章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第VII章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第IX章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

教育相談【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導の取り組みについて学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理(テキスト第1章他)
- 3回 教育課程と生徒指導(テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等(テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携(テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 進路指導、キャリア教育における職場体験学習の意義を考える
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 (テキスト 第6章2節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 養育環境に困難さを抱える生徒の問題(テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。

生徒・進路指導論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

教育制度論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

義務教育、中等教育、教員に関する制度等、教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制、教育関係法規
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育、中等教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 学校教育と社会教育の連携、高等教育
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 教育課程の種類
- 第3回 日本の教育課程の変遷
- 第4回 学習指導要領と教育課程編成
- 第5回 学力と教育課程
- 第6回 学校における教育課程編成
- 第7回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第8回 「カリキュラム・デザイナー」「カリキュラム・マネージャー」としての教員
- 第9回 教育課程の評価・開発
- 第10回 今日の課題と教育課程（1）市民性教育
- 第11回 今日の課題と教育課程（2）環境教育
- 第12回 諸外国の教育課程・カリキュラム改革（1）欧米を中心に
- 第13回 諸外国の教育課程・カリキュラム改革（2）東アジアを中心に
- 第14回 教育課程の課題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

英語科教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The purpose of the course is to prepare future Japanese teachers of English to design and sequence communicative tasks for Japanese junior high school students which be implemented parallel to the structural syllabus of the Japanese Ministry of Education in order to develop their learners functional skills in using English fluently for communication. Students are strongly requested to take "Teaching Method of English D" given by Professor Ito with this course.

教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ellis, R. 2009. Task-Based Language Teaching: Sorting Out the Misunderstandings
○文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Two types of language knowledge
2. The role of communicative tasks in language learning
3. Performance of description tasks
4. Guidelines for designing description tasks
5. Peer-teaching of own description tasks
6. Teaching methods: focusing on form
7. Performance of Instruction tasks
8. Guidelines for designing instruction tasks
9. Peer-teaching of own instruction tasks
10. Performance of task sequences
11. Guidelines for sequencing tasks into lessons
12. Peer-teaching of own task sequences
13. Sequencing tasks over the school year
14. Implementing task work in junior high school classes
15. Planning a parallel communication course for beginners

成績評価の方法 /Assessment Method

50% Weekly preparation and practice teaching
50% Materials development project

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

The learners will be required to attend class regularly and apply the ideas that they learn to practical projects for improving communication skills within the context of the Japanese junior high school curriculum.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として、実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には、それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように、(1) 英語教育の歴史と理論に関する知識の習得、(2) 各言語技能の指導技術や教室運営の基礎知識、(3) 今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また、実際に模擬授業を行い相互に評価・批判しあうことで、授業実践の力をつけさせる。他の受講生の発表も真摯に聞き、自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお、この授業は、森千鶴先生開講の「英語科教育法B」と整合性を保つよう考慮している。しかし、適性なクラスサイズで一貫性のある授業を提供するために、原則としてランバート先生担当の「英語科教育法C」とあわせての受講を強く勧める。

教科書 /Textbooks

- (1) 望月昭彦, 磐崎弘貞, 卯城祐司, 久保田章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(大修館書店, 2010年)
- (2) 文部科学省 高等学校学習指導要領(外国語)
- (3) 文部科学省 中学校学習指導要領(外国語)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で文献を紹介する。また、各出版社の検定教科書は教職資料室で閲覧することができる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス, 英語の現状と英語教育の課題
2. 言語習得理論と教授法
3. 英語教育原理と目的, 学習指導要領
4. 学習指導案の作成
5. リーディングの指導
6. リーディングの指導(模擬授業とその評価及び議論: 中学校英語科)
7. リーディングの指導(模擬授業その評価及び議論: 高等学校英語科)
8. 文法・作文の指導
9. 文法・作文の指導(模擬授業その評価及び議論: 中学校英語科)
10. 文法・作文の指導(模擬授業その評価及び議論: 高等学校英語科)
11. リスニング・スピーキングの指導
12. リスニング・スピーキングの指導(模擬授業その評価及び議論: 中学校英語科)
13. リスニング・スピーキングの指導(模擬授業その評価及び議論: 高等学校英語科)
14. 授業を活性化させるための工夫(副教材, 板書, テスト作成, 動機づけ等)
15. 英語科教員としての責任と課題(まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は(1)小テスト15%, (2)模擬授業30%, (3)最終レポート40%, (4)授業参加に対する積極性15%によって評価する。(4回以上欠席した者は、成績評価の対象外とする)

- (1) 小テスト: 2回目の授業より, 毎回実施予定。
- (2) 模擬授業: 1人または複数人数で授業を計画し(受講者人数により調整する), 残りの受講生を生徒に見立ててその授業を展開する。詳細は授業で説明する。
- (3) 最終レポート: 模擬授業の教案を, 担当者及び生徒役の受講生からのコメントをもとに改善し提出する。
- (4) 授業参加に対する積極性: 授業中の質問や模擬授業に対する発言等を含む, 積極的な参加態度を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 教員免許状を取得し, 将来の進路として教員を強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除いて, 無断欠席は履修放棄とみなす。
- (2) 模擬授業を行う際は, 服装や振る舞いまで, 教育実習と同じ想定で行う(発表者はスーツ着用)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1) 【関心・意欲】
- 4回子どもの「学力」(2) 【知識・理解】
- 5回子どもの「学力」(3) 【思考・判断】
- 6回子どもの「学力」(4) 【表現・技能】
- 7回教育測定・評価(1) 【測定学力、目標学力】
- 8回教育測定・評価(2) 【評価基準、テスト作成】
- 9回教師と授業づくり(1) 【教師の思考様式、教師の信念体系】
- 10回教師と授業づくり(2) 【学びの共同体、グラウンド・ルール】
- 11回学習環境と教育方法(1) 【学習集団編成、集団力学】
- 12回学習環境と教育方法(2) 【習熟度別学習、協働学習理論】
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
レポート...20%
学期末試験...50%
（ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

教育法規に関わる基礎的な知識を習得し、教育法規における諸課題について学ぶ。

目標

- ①教育法規に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育法規をめぐる課題について整理し、具体的な対応策を考えることができる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と教育指導
- 4回 組織としての学校における教員
- 5回 教員の指導力と研修
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教育活動と著作権
- 8回 教育情報の取り扱い
- 9回 教育情報の発信
- 10回 子どもの健康と学校の安全
- 11回 中央教育行政と地方教育行政
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% 最終課題(試験) 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
P.ブルデュー・J.-C.パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
第2回：教育社会学の対象と方法
第3回：子どもの社会化と家族・学校
第4回：学校という組織
第5回：学校社会と生徒文化
第6回：学校社会と教師文化
第7回：文化的再生産論にみる学校社会
第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論
第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
第11回：いじめ現象の構造とその特徴
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
第13回：グローバリゼーションと教育
第14回：情報化社会と教育
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正義『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。
本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
- 第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
- 第4回 近代家族 / 伝統的家族？
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと文化
- 第7回 伝統について：構築主義と本質主義
- 第8回 文化相対主義の考え方
- 第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

- 第10回 現代社会における儀礼と文化的な空間認識
- 第11回 宗教紛争と日常の中の宗教
- 第12回 不幸への対処としての呪術
- 第13回 中間試験の講評 / 政教分離
- 第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人間と文化【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目には余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回：「地域研究における総合的認識」【総合化の意味】
- 第5回：「地域研究における総合的認識」【全体像の把握の意味】
- 第6回：「地域研究における総合的認識」【全体像把握の方法】
- 第7回：「地域研究における文化主義的アプローチ」【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第8回：「地域研究における文化主義的アプローチ」【オリエンタリズムとは】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義的アプローチとは】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として【基本的視点】
- 第14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として【人間関係】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【成績評価およびテスト日程について】
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 7回 中間のまとめ(確認テスト)
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前に高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。初回の授業で確認テストの方法・日程に関する詳しい説明を実施するので、受講予定者は必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。黒板に板書した情報はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不応事象の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスI【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
 - 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
 - 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
 - 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
 - 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
 - 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
 - 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
 - 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめと今後の課題について【環境と健康】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。(自己管理) 2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる(思考判断) 3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる(生涯学習)。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 子安増生編「心が活きる教育に向かって...幸福感を紡ぐ心理学・教育学」ナカニシヤ出版
- ・ 古宮昇著「しあわせの心理学」ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスII【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【自己分析のわな】
- 3回 暴力と非暴力1【ストーリーの心理】【児童虐待】
- 4回 暴力と非暴力2【戦争と平和】【非暴力コミュニケーション】
- 5回 人間の発達と自己形成【コフト理論】
- 6回 ネガティブ感情への対応1...感情の働きについて【不安と憂鬱感情】
- 7回 ネガティブ感情への対応2...感情の目的について【怒りの感情】
- 8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回 他者理解について。他人の価値観を理解する【人権感覚】
- 10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。【感謝】
- 11回 心が軽くなるとは。森田療法や東洋の人間観から【あるがまま】
- 12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回 働くとはどういう事か。心理的健康と社会的健康。【社会的健康】【キャリアプランと心の健康】
- 14回 地域や世界の心の健康を考える。【ワークライフバランス】【環境】【格差】
- 15回 まとめと今後の課題【ボランティア活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
- 9回 運動の効果(身体的側面)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる(得意)、できない(不得意)などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定
- 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方

【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】

- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか

【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】

- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか

【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】

- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。
具体的には、受講意識、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。総合的知識・理解については、分析に必要な理論や技術を習得し使いこなすことができるかどうか、人間の行動パターンを数値化してとらえることの意義を理解できているかどうかの観点から評価します。課題発見・分析・解決力については、実際のゲーム映像を分析することで、対象チームや選手個人の特徴を抽出するとともに、試合に勝つために必要なオリジナルの分析結果（解決案）を導き出すことができるかどうかの観点から評価します。生涯学習力については、競技としてのバレーボールとのかかわり方や授業や課題への取り組み姿勢といった観点から評価します。コミュニケーション力については、グループ作業へのかかわり方やプレゼンの状況といった観点から評価します。
ゼミへの参加と観点評価...100%（4つの観点・各25%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【夜】

履修上の注意 /Remarks

生涯学習力との関係で、今年度は、(財)日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。
(選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。)

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

最大でも12人を予定しています。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きで、競技接点を持っており、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボールカ』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

現代人のこころ【夜】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりや「その気」にさせる】「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験50%
中間試験（抜き打ち）50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【夜】

履修上の注意 /Remarks

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
評価は、試験の結果のみで行います。
試験は、全て持ち込み可とします。
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。
前年度単位取得率: 57%
S:7% A: 23% B: 13% C: 21% D: 21% -: 15%

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考にさせていただきます。
「しっかり勉強したいという人には有益な講義。逆に単位が欲しいだけの人は【絶対に受講しない方が良い】」
「理論がかなり専門的なので、はっきり言って初めはわけが分からないけれど、そこを越えれば、分かった瞬間の快感を味わうことができるし、講義のテーマである『わかるとは何か』を身を持って理解できる」
「習った専門用語を使って話をすると頭が良くなったような気分になれる。でも一般人には使い過ぎると変人扱いされるので注意」
「心理学が生活に関連していることがわかる」
「心理学が役に立つものだとわかる」
「就活に使えるネタが集まる」
「実験に基づく科学的な話なので、コミュニケーションという言葉から『心の交流』などをイメージして選択するのはやめた方が良い」
「数字やグラフへの苦手意識が和らぐ」
「出席を取らないけど、一回でも休んだらついていけなくなるので覚悟すべし」
「何となく講義を聞いている人と『しっかり勉強するぞ』と思っている人とで、講義の価値がかなり変わる。内容は難しいけれどくじけずに質問すれば対応してもらえるので、とにかくわからなかったら質問すること。わからないままにしておくと、どんどん講義が辛くなる」
「どんどん進むので少しでも良いから予習しておいた方が良い」
「甘く見ていたら試験の時にひどい目にあう」

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回到現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

国際社会論【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、第2次世界大戦後の国際人口移動(労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民など)について概説する。その上で、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて、実証研究に基づいて、考察していきたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの説明 / 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 グローバル化と国際人口移動
- 第4回 さまざまな国際人口移動 - 労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民、ディアスポラ
- 第5回 国境を越える制度と文化 - 国際人権レジューム、国際NGO、エスニックメディア
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1) - エスニシティと階級
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2) - 移民と教育、移民と政治
- 第7回 日本社会と移民(1) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会1
- 第8回 日本社会と移民(2) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会2
- 第9回 日本社会と移民(3) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会3
- 第10回 日本社会と移民(4) - 日系ブラジル人と日本社会1
- 第11回 日本社会と移民(5) - 日系ブラジル人と日本社会2
- 第12回 排外主義・排外意識(1) - 排外意識の状況
- 第13回 排外主義・排外意識(2) - 排外意識形成のメカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、国際人権レジューム、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor
前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程, 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易 【比較優位】 【貿易保護】
- 3回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 4回 企業の海外進出と立地 【人件費】 【為替レート】
- 5回 ICT技術と経済のグローバル化 【コンピュータ・ネットワーク】
- 6回 市場の世界化と地域経済 【グローバル】
- 7回 グローバル化と地方自治体 【自治体外交】 【多文化共生】
- 8回 グローバル化の進展と国際会計ルール採用の意義 【IFRS】
- 9回 グローバル化とファイナンス 【アベノミクス】 【金融市場】 【外国人投資家】
- 10回 グローバル化時代の地域政策 【環境】 【新産業】 【地域振興】
- 11回 人と情報のボーダレス化 【多国籍組織】 【ダイバーシティ】 【世界同時情報共有】 【ネットワークング】
- 12回 グローバル化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】 【グローバル人事】
- 13回 景気の国際間波及メカニズム 【GDP】 【三面等価】
- 14回 景気の国際間波及メカニズム 【需要変動】 【乗数】
- 15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際社会と日本のあり方と関係について、様々な視点から解説する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2～3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第ⅠV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第ⅠⅠ部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第ⅠⅠ部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】
- 7回 第ⅠⅠ部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第ⅠⅠ部の「日本」 小森陽一論文 【自己植民地化】 【近代主義】 【ナショナリズム】
- 9回 第ⅠⅠ部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第ⅠⅠ部の「国家」 巒田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第ⅠⅠⅠ部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第ⅠⅠⅠ部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第ⅠⅠⅠ部の3、高橋哲也論文 【過去の克服】
- 14回 第ⅠⅠⅠ部の4、野村浩也・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本～3本 80% 平常の学習状況 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習、関連文献を自主的に読むこと

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱 - 西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
兼口 真一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本・の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた中世・近世初期の日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%
ミニツツペーパー... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が2 / 3未満の受講生については試験を受ける資格を付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養う事を旨とする。

一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのようなかかわりは相互に密接なものを有しているといえよう。

よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみにとどまる事なく、東アジアという包括的な視座に置き、北アジア・西アジア・東南アジアの諸地域をも含みつつ、各時代の政治・経済・外交・文化・思想等の多角的な方面から理解する事を掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 隋唐と朝鮮・日本 - 中国の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...30%・定期試験...70%

双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。

平常の受講態度を見るため、授業中に予告なく小テストを実施する事も有り得る。

特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。

復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。

出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修している事が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、今後の世界に大きな影響を与える事が確実な中国の歴史について学ぶ事は、必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 北アジア 西アジア 東南アジア 中国 朝鮮 日本 政治 経済 外交 文化 思想

社会学 【夜】

担当者名 /Instructor 堤 圭史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、国内外の地域社会で生きる人々が抱える諸問題を社会的に解読していく力を身につけることにある。社会学とは、我々が生活している世界の中から、(1)「不思議」な社会現象を見つけだし、(2)その現象がいかなるものであるかを記述した上で、(3)なぜそのような「不思議」な社会現象が発生・存続しているのかを説明し、さらに(4)その社会現象が何らかの問題をはらんでいるものである場合には、その現象の発生・存続のメカニズムをふまえて、よりよいシステムを構想してゆく科学である。この授業では、まず、社会学に特徴的な社会現象の捉え方について社会学の古典的著作を例にとりあげながら紹介していく。ついで、「組織」、「家族」、「農山村」、「都市」、「階層」、「逸脱」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。レジメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会学がわかる事典』(森下伸也、日本実業出版社)
- 『社会学をつかむ』(西澤晃彦・渋谷望著、有斐閣)
- 『畏怖する近代』(左古輝人著、法政大学出版局)
- 『社会学』(長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志著、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のテーマ、内容、構成の紹介
- 第2回：社会と個人、個人と社会(1)【E. デュルケム】
- 第3回：社会と個人、個人と社会(2)【M. ウェーバー】
- 第4回：集団と組織(1)【集団の諸類型、社会集団の構造と機能】
- 第5回：集団と組織(2)【官僚制】
- 第6回：家族(1)【社会変動と家族】
- 第7回：家族(2)【家族問題と社会問題】
- 第8回：階層と社会移動(1)【階級・階層の捉え方】
- 第9回：階層と社会移動(2)【社会移動と教育】
- 第10回：都市と農村(1)【都市化とコミュニティ】
- 第11回：都市と農村(2)【社会変動と都市問題】
- 第12回：逸脱と統制(1)【正常と異常 / 同調と逸脱】
- 第13回：逸脱と統制(2)【逸脱の捉え方】
- 第14回：グローバル化とエスニシティ
- 第15回：まとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小レポート30%。講義内容の理解度と、問題意識の明確さに注目し評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【夜】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 【近世・近代日本の都市発展】
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 【現代日本の都市発展】
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 【農業立地論】
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 【日本農村の構造的変化】
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 【中心地理論】
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 【都市の内部構造】
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 【都市と郊外】
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 【都市システム】
- 第10回 商業立地と流通システム(1) 【チェーンストアの配送】
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 【大型店と商店街】
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 【工業立地論】
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 【空間分業】
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 【産業集積の理論】
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 【産業集積の実態】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を中心に学びます。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法を学ぶとともに、地理学的知見を高めることを目的とします。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力
- 3回 地図の歴史
- 4回 地図には、どのような種類があるか
- 5回 地図は、どのように作られるか
- 6回 地図記号と景観
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習)
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 海岸砂丘の環境と土地利用を読む
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 歴史景観を読む
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける地誌の諸相をテーマとする。世界地誌、日本地誌、身近な地域の地誌を通じて、それぞれの地域の知識を得るとともに、地誌学に様々な表現方法があることを習得してもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 世界地誌(1) 世界の自然・人文環境
- 第3回 世界地誌(2) 東アジア
- 第4回 世界地誌(3) 東南アジア
- 第5回 世界地誌(4) 南アジア・西アジア
- 第6回 世界地誌(5) アフリカ
- 第7回 世界地誌(6) ヨーロッパ
- 第8回 世界地誌(7) アングロアメリカ
- 第9回 世界地誌(8) ラテンアメリカ
- 第10回 世界地誌(9) オセアニア
- 第11回 日本地誌(1) 日本の自然環境
- 第12回 日本地誌(2) 日本の人文環境
- 第13回 身近な地域の地誌(1) 北九州地域の地誌
- 第14回 身近な地域の地誌(2) 筑豊地域の地誌
- 第15回 身近な地域の地誌(3) 下関地域の地誌

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第5版)』(岩波書店・2011年)
- 長谷部恭男『憲法(第5版)』(新世社・2011年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論① 【人権保障と人権制約】
- 第4回 人権論② 【裁判所による権利保障】
- 第5回 統治機構論① 【国民主権】
- 第6回 統治機構論② 【権力分立】
- 第7回 統治機構論③ 【日本の政治制度】
- 第8回 統治機構論④ 【日本の選挙制度】
- 第9回 平和主義論① 【憲法9条の制定・意義】
- 第10回 平和主義論② 【平和主義の現実と未来】
- 第11回 平和主義論③ 【憲法9条と裁判所】
- 第12回 地方自治 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第13回 憲法保障 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 日本憲法史 【大日本帝国憲法の興亡】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

法学部1年生は昼間開講「日本国憲法原論」の受講を勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履・夜間主コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群・再履・夜間主
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

英語I (国夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks
生協の教科書リストを確認されたい。
その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	プレテスト
2回	リスニング ユニット 1~5、リーディング ユニット 1
3回	リスニング ユニット 5~10、リーディング ユニット 2
4回	リスニング ユニット 11~13、リーディング ユニット 3
5回	リスニング ユニット 14~16、リーディング ユニット 4
6回	リスニング ユニット 17~19、リーディング ユニット 5
7回	リスニング ユニット 20~22、リーディング ユニット 6
8回	リスニング ユニット 23~25、リーディング ユニット 7
9回	リスニング ユニット 26~28、リーディング ユニット 8
10回	リスニング ユニット 29~31、リーディング ユニット 9
11回	リスニング ユニット 32~34、リーディング ユニット 10
12回	リスニング ユニット 35~37、リーディング ユニット 11
13回	リスニング ユニット 38~40、リーディング ユニット 12
14回	ポストテスト
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
学期末試験・小テスト 80%
課題 20%
欠席が授業実施回数数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プレテスト
- 2回 リスニング ユニット 1~5、リーディング ユニット 1
- 3回 リスニング ユニット5~10、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット11~13、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット14~16、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット17~19、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット20~22、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット23~25、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット26~28、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット29~31、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット32~34、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット35~37、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット38~40、リーディング ユニット12
- 14回 ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (国夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (国夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heroes
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V (国夜 2 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (国夜 2 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくださいか【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅲと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第13課 どこで習っていますか？【かしまった丁寧形①】
- 4回 第14課 暑くありませんか？【かしまった丁寧形の否定表現】
- 5回 フリートーキング
- 6回 数詞のまとめ
- 7回 第15課 誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 8回 第16課 どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
- 9回 復習とフリートーキング
- 10回 第17課 先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
- 11回 第18課 何をお探しですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
- 12回 第19課 何をしましたか？【過去形】
- 13回 復習とフリートーキング
- 14回 何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅳと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は「朝鮮語I」の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業にて指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 3回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 4回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 5回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】
- 6回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 7回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 8回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 9回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 10回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 11回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 12回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Iと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日韓の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【昨日何をしましたか】【前置き表現】
- 14回 過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅱと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks
「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロップへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロップへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現を学びます。フランス語Ⅳとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付] 』（白水社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 あいさつ(1) : 自己紹介
- 3回 持ちものをたずねる
- 4回 趣味をたずねる
- 5回 onを使った表現
- 6回 あいさつ(2) : お元気ですか?
- 7回 年齢の言い方
- 8回 名前を聞く
- 9回 好きな色を聞く
- 10回 飲み物を頼む
- 11回 時刻の表現
- 12回 あいさつ(3) : 人を紹介する
- 13回 デザートを頼む
- 14回 代名動詞を使った表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。
自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現をさらに学んでいきます。フランス語Ⅲとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』（白水社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 カフェで注文する
- 2回 曜日
- 3回 C'est + 形容詞の表現
- 4回 疑問代名詞のまとめ
- 5回 値段を聞く
- 6回 12ヶ月
- 7回 mondeを使った表現
- 8回 「～できる」という表現
- 9回 季節
- 10回 感嘆文
- 11回 依頼・願望の表現
- 12回 感情の表現
- 13回 義務の表現
- 14回 お礼のメールを出す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。
自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 人称代名詞、名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞(1)、基本的表現
- 5回 動詞serを用いた表現
- 6回 動詞ser、形容詞・指示形容詞を用いた表現
- 7回 規則動詞(1) 基本的表現
- 8回 規則動詞(2) 基本的表現
- 9回 動詞(tener), 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 動詞(estar,hay..)の基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。スペイン語圏に旅行に行っても、簡単な日常会話ができるレベルに到達することを目指します。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞書は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(～が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱うとともに、国際法上の国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【管轄権の競合と調整】【法の支配】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂，2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書・参考文献は、初回講義時に、また適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス，国際法の法源

第I部「条約の締結，留保，国内実施，履行確保 - 女子差別撤廃条約を題材に」

第2回 女子差別撤廃条約が結ばれるまで

第3回 女子差別撤廃条約の条約上の義務の履行

第4回 女子差別撤廃条約委員会による締約国の履行状況の監視

第II部「主権国家，平等権，不干渉義務」

第5回 国際法上の国家とは

第6回 国家は法的に平等って言うけれど・・・

第7回 外国は他国の国内問題にどこまで関与できるのか

第8回 第I部・第II部のまとめ

第III部「領域と国際法」

第9回 領域制度

第10回 日本と領土問題

第11回 領域国による海・空の実効的支配

第IV部「国際社会における秩序の維持，法の支配の確立への挑戦」

第12回 戦争の違法化と平和的解決の義務化の流れ

第13回 国際司法裁判所(ICJ)と法の支配

第14回 国際刑事裁判所(ICC)と法の支配

第15回 第III部・第IV部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題および学期末試験で評価します。
課題...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

国際法I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【紛争解決】【国家の要件】【承認】【国家の基本的権利・義務】【領域】【管轄権の競合と調整】【法の支配】

国際法Ⅱ【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
地球規模の課題とされる「安全保障、核兵器、軍縮・軍備管理」「人権、人道」「開発」「環境」「貿易」などの国際問題をとりあげ、その問題解決のために「国家」「国際機構」「個人」がどのように国際的に協力・協働してきているのかについて、「国益」「共通利益」「国際社会の公益」という3つの異なるレベルの視点に留意しながら、考察していきます。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「安全保障、軍縮・軍備管理、国際人道法」

- 第2回 国連の集団安全保障体制とその実効性
- 第3回 兵器の国際的管理と規制
- 第4回 国際人道法

第II部「人権・人道支援」

- 第5回 人権の普遍性と国籍 - 外国人との共生を考える
- 第6回 難民の国際的保護
- 第7回 難民問題の恒久的解決

第8回 第I部・第II部のまとめ

第III部「開発」

- 第9回 開発と国際法
- 第10回 開発援助と人権
- 第11回 国連開発計画（UNDP）の人間開発指数（HDI）が提起した問題

第IV部「環境・貿易」

- 第12回 地球環境を保護する責任 - 共通だが差異のある責任の議論と世代間倫理の観点から
- 第13回 貿易自由化の推進と国内生産の保護とのほごまで
- 第14回 環境と貿易 2つの価値の衝突と調整

第15回 第III部・第IV部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

国際法Ⅱ【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。
国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。
国際社会における，主権国家の機能・役割や，国際機構の機能・役割，個人（NGO等）の機能・役割を正しく理解してほしい。
そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【地球的規模の課題】 【国際協力】 【国家】 【国際機構】 【個人】 【国益】 【共通利益】 【国際社会の公益】

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 /YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以降、数々の困難を乗り越えながら貿易立国として発展繁栄してきたが、近年少子高齢化などの影響で、国内の需要が伸び悩み、需要を広く海外に求めざるを得ない状況になっている。

従い、このようなボーダレス社会に対応し、活躍できる人財の育成が急務である。

この講義では①国際貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考え、②日本経済の変化に応じて貿易の最新動向を学ぶ。③国際貿易の基礎知識を踏まえて、貿易を巡る歴史や現状を解説し、その対応について学生諸君が各自の考えを持ち、交渉や議論が出来る力を養っていく。また、④アジアに近い九州の特性を生かした、貿易のあり方についても考える。

担当講師の総合商社マンとしての20数年の国際貿易の経験と知恵を駆使した現場感覚のある講義が実践されるので、学生諸君にはしっかりとした知的好奇心を持って受講されたい。

教科書 /Textbooks

教材用のプリントを事前に配布する。
国際貿易に関する最新の報道や情報のビデオを視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版(2007年)○
小川雄平「新版貿易論を学ぶ人のために」世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易とは何か、現代の貿易と経済。貿易の基礎知識。
- 2回 日本の国際貿易の現状
- 3回 貿易と国際収支、金融と外国為替
- 4回 戦後の貿易を巡る国際的枠組みとIMF体制
- 5回 GATTからWTO体制へ
- 6回 FTA/EPAなどの国際自由貿易の動き
- 7回 東アジア共同体構想の歩みと現状
- 8回 経済と貿易の発展
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 '90年代以降のアジアとの生産分業と貿易の進展
- 11回 TPP環太平洋経済連携協定を巡る動き
- 12回 貿易のグローバル化のMeritとDemerit
- 13回 直接投資の増大とそれによる貿易の拡大
- 14回 国際貿易の流れ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(受講態度、議論などへの参加)・・・40%
課題・・・20%
期末レポート・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プリントを配布するので、良く読み、咀嚼すること。
講義の中で自身も考え、積極的に質問すること。
マスメディアやインターネットなどの貿易に関する情報に常に興味を持ち、それらの情報を検証し、考え、活用する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

三井物産株式会社国際ビジネスマンとしての20数年間の国際貿易担当・統括経験、10数年間の海外駐在(米国・カナダ、中東、インドネシア)と数十ヶ国での貿易交渉・実務を通して学んだ知恵を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方、活躍の仕方について、当事者意識を持って学び、考え、行動して参りましょう。

キーワード /Keywords

多様性、信用・信頼、互助共生、現場主義、経営理念

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 /YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以降、数々の困難を乗り越えながら貿易立国として発展繁栄してきたが、近年少子高齢化などの影響で、国内の需要が伸び悩み、需要を広く海外に求めざるを得ない状況になっている。

従い、このようなボーダレス社会に対応し、活躍できる人財の育成が急務である。

この講義では①国際貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考え、②日本経済の変化に応じて貿易の最新動向を学ぶ。③国際貿易の基礎知識を踏まえて、貿易を巡る歴史や現状を解説し、その対応について学生諸君が各自の考えを持ち、交渉や議論が出来る力を養っていく。また、④アジアに近い九州の特性を生かした、貿易のあり方についても考える。

担当講師の総合商社マンとしての20数年の国際貿易の経験と智慧を駆使した現場感覚のある講義が実践されるので、学生諸君にはしっかりとした知的好奇心を持って受講されたい。

教科書 /Textbooks

教材用のプリントを事前に配布する。
国際貿易に関する最新の報道や情報のビデオを視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版(2007年)○
小川雄平「新版貿易論を学ぶ人のために」世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期のおさらい(国際貿易の目指すもの)
- 2回 貿易決済(貿易基礎用語の学習)
- 3回 日本の金融政策の現状と日本銀行の役割
- 4回 東アジアを中心とするFTA、EPAの進展
- 5回 TPP(環太平洋経済連携協定)交渉のあり方
- 6回 九州地域と国際自由貿易協定
- 7回 日米中韓の二国間FTA交渉
- 8回 多国間FTAの選択(東アジア共同体・TPP等)
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 国際貿易に対する外交政策の影響
- 11回 東北アジアの発展とLogistics
- 12回 日本のエネルギー政策と国際貿易(特に対米・中・露)
- 13回 環境・水事業・交通システムの輸出
- 14回 その他今後の国際貿易における輸出有望製品・サービス
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(受講態度、議論などへの参加)・・・40%
課題・・・20%
期末レポート・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プリントを配布するので、良く読み、咀嚼すること。
講義の中で自身も考え、積極的に質問すること。
マスメディアやインターネットなどの貿易に関する情報に常に興味を持ち、それらの情報を検証し、考え、活用する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

三井物産株式会社での国際ビジネスマンとしての20数年間の国際貿易担当・統括経験、10数年間の海外駐在(米国・カナダ、中東、インドネシア)と数十ヶ国での貿易交渉・実務を通して学んだ智慧を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方、国際舞台での活躍の仕方について、当事者意識を持って学び、考え、行動して参りましょう。

キーワード /Keywords

多様性、信用・信頼、互助共生、現場主義、経営理念

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、等に関する教職に関する基本的な知識を獲得し、教職についての理解を深め、教職についての課題を発見し、思考し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択に資する各種の機会の提供等の指導を受ける。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし（授業中に適宜紹介する）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と生徒指導	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の資質と適格性	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む） 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN:教育とは何か
- 2回 教育の関係:教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育:生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題:思春期・青年期
- 5回 家庭教育の課題:社会化
- 6回 教育思想①:諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②:日本の教育思想
- 8回 教育史①:西洋教育史
- 9回 教育史②:日本教育史
- 10回 学校教育の機能:基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題:学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育:教材・方法
- 13回 職業と教育:進路形成
- 14回 国際化と教育:言語・文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10% 課題 30% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジユメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

義務教育、中等教育、教員に関する制度等、教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原理解 教育制度とは、教育関係法規、
- 2回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性
- 3回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育、中等教育
- 4回 教員に関する制度(1) 教員免許法制
- 5回 教員に関する制度(2) 公務員としての教師、教員の指導力と研修
- 6回 教育行政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校
- 7回 生涯学習の制度 学校教育と社会教育の連携、高等教育
- 8回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 9回 教育課程の意義と編成(1) 学習指導要領、教科書・教材
- 10回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 11回 学校における教育課程編成
- 12回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 13回 教育課程の開発・評価
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジюме・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。
なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂
ONE WORLD English Course 1～3 教育出版
"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂
NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍
TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD (師範授業) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD (師範授業) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 (中学校) 【1年生】
14. モデル授業 (中学校) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎月1回、金曜日開講のこの授業が土曜日に移動になる可能性があります。そうな場合は、4月の第1回目の授業で詳しいスケジュールを配布します。どうぞご了承ください。

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
Vivid Reading MEW EDITION 第一学習社 Onstage English Course I・II 池田書店
EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂 PROMINENCE English I・II 東京書籍
"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂
Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂
"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 ELEMENT English Course I・II 啓林館
Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社
"NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・II" 文英堂
Genius English Course Revised I・II 大修館書店 CROWN English Series New Edition I・II 三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [英語I以外の科目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎月1回、金曜日開講のこの授業が土曜日に移動になる可能性があります。そうな場合は、4月の第1回目の授業で詳しいスケジュールを配布します。どうぞご了承ください。

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の到達目標及びテーマ

- ①学習指導要領を読み、その内容（公民科の目的、改訂の意図など）を理解する。
- ②公民科の授業構成に関する知識・視点を習得し、それを活用しつつ生徒・内容・教材・授業実践のあり方について論じることができる。
- ③公民科の学習指導案を作成することができる。

授業の概要

本授業は、公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。
学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（平成20年9月・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司 編『中等社会科の理論と実践』学文社 2007
- ・ 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
 - 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
 - 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 現代社会
 - 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
 - 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
 - 第7回：公民科の授業づくり 教材研究・開発
 - 第8回：公民科の授業づくり グループワークについて
 - 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第10回：公民科の授業づくり フィールドワークについて
 - 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第14回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第15回：社会科教師に求められる資質・能力
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
- ミニレポート（毎授業後に提出）・・・ 40%
- 学習指導案・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

グループワークやペアワークを行います。そのため積極的な授業参加が望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公民科科目を指導するために、どのような力が必要か、さまざまな視点を持って考えていきましょう。

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

- (1) 学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
- (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
- (3) 現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
- (4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。

上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）、授業の際に配布するレジュメ・資料等

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『高等学校 改訂版 現代社会』（第一学習社）
- 『高校現代社会 新訂版』（実教出版）
- 『高等学校 改訂版 政治経済』（第一学習社）
- 『高校 政治・経済 新訂版』（実教出版）
- 『高等学校 改訂版 倫理』（第一学習社）
- 『高校倫理』（実教出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3 回 社会科学的的手法について
- 第 4 回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5 回 学習指導案作成上の留意点
- 第 6 回 学習指導案の作成
- 第 7 回 生徒の実態を踏まえた教材研究
- 第 8 回 模擬授業（参加型授業の展開）
- 第 9 回 模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
- 第 10 回 模擬授業（現代社会の諸問題）
- 第 11 回 模擬授業（政治・経済・法）
- 第 12 回 模擬授業（現代の諸課題と倫理）
- 第 13 回 模擬授業（受験指導に焦点を当てる）
- 第 14 回 模擬授業（社会参加の授業理論）
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加・貢献度 80%、模擬授業の際に提出する指導案 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における道徳教育の指導についての基本的な知識を獲得し、理解し、道徳教育についての基本的なスキルを獲得し、課題を発見し、思考し、学習指導案の作成について学習する。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年）＜中学校教諭免許状の取得希望者＞、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年）＜高等学校教諭免許状の取得希望者＞

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】【教育活動全体を通じて行う指導】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 道徳教育の目標と内容	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の計画と指導	【指導方法】
7回 学習指導案の内容と作成と指導	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】【家庭や地域社会との連携】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【道徳教育の評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)
高等学校学習指導要領 「特別活動」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実践
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実践
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウイン・ウイン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科等を実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解し、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）の理論と基本的なスキルを獲得するとともに、教育方法についての課題を発見し、思考する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし (授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 情報機器及び教材の活用	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習 1」オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 人権と教育	【人権】【自尊感情】
6回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
8回 学級経営について	【学級集団づくり】【学級通信】
9回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】【生徒指導体制】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(特別活動；授業展開)	【学習指導案】【指導目標】
13回 模擬授業②(特別活動；指導技術)	【授業構成】【指導技術】
14回 模擬授業③(各教科；授業展開)	【授業展開】【導入】【展開】
15回 模擬授業④(各教科；指導技術)	【発問】【説明】【指示・助言】【指導技術】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(50%) 学期末の提出物の評価(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第1章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第II章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第III章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性の問題行動など(テキスト 第III章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第IV章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第V章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第VII章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第IX章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

教育相談【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導の取り組みについて学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理(テキスト第1章他)
- 3回 教育課程と生徒指導(テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等(テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携(テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 進路指導、キャリア教育における職場体験学習の意義を考える
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 (テキスト 第6章2節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 養育環境に困難さを抱える生徒の問題(テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。

生徒・進路指導論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

社会科教育法C 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 尚史 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義の到達目標は3つである。①社会科の歴史的経緯を理解する。②社会科のめざす内容を把握する。③教材分析、授業案作りの基礎的知識を身につける。

この目標のもとに、社会科教育について学ぶことを通して、社会科の理念と目標について認識を深める。そして学習指導要領を検討し、生徒が学ぶべき内容の把握を行う。さらに学習指導案づくりとその批判検討を通して社会科の授業構成における基本的能力を養う。

本講義では、社会科が何を目標とするのか、その基本的な内容は何かについて学ぶ。さらに教員となった際に、生徒とともに考え、学ぶ方法について考察してゆく。そのためには学校教育とは何かについて理解を深め、教師となるための資質を磨く必要がある。講義を通じて、生徒たちが国際社会のひとりとして主体的に生きるために必要な自覚を持てるように指導する能力を養う。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 社会科の歴史と成立
- 第 3回 社会科のカリキュラム
- 第 4回 社会科の変遷 学習指導要領
- 第 5回 社会科の授業① 社会科の授業構成・授業実践事例
- 第 6回 社会科の授業② 授業研究の方法
- 第 7回 教材研究と授業研究の視点① 学習指導の在り方
- 第 8回 教材研究と授業研究の視点② 学習指導案の立て方
- 第 9回 授業づくりと学習指導案の実際① 地理的分野
- 第 10回 授業づくりと学習指導案の実際② 歴史的分野
- 第 11回 授業づくりと学習指導案の実際③ 公民的分野
- 第 12回 学習指導と評価の工夫① 生きる力と評価・社会科の目標と評価の観点
- 第 13回 学習指導と評価の工夫② 指導と評価の在り方
- 第 14回 授業案の発表① 学習指導案の発表・ディスカッション
- 第 15回 授業案の発表② 学習指導案の発表・ディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30%、演習への参加度 30%、レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法D 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義・演習 /Lecture・Practical クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ① 学習指導要領に基づき、中学校社会科の3分野に関する総合的で実践的な知識を修得する。
- ② 教材研究、資料精選、学習指導案作成など、社会科の授業実践に必要な基礎・基本的な技術を修得する。
- ③ 教科指導の実践を起点として教職全般への理解を深め、教育現場で必要とされる教師の資質を養う。

社会科教育法AおよびCで学習した理論的な知識と指導法の基礎をもとに、社会科のより実践的な指導力と、教科指導を中心とした教師としての総合的な指導力の習得をめざす。なお、模擬授業では担当教員の解説を毎時行う。

教科書 /Textbooks

- 『中学生の地理 世界のすがたと日本の国土』（帝国書院 文科省検定済教科書）
 - 『中学社会 歴史的分野』（日本文教出版 文科省検定済教科書）
 - 『中学校社会科地図』（帝国書院 文科省検定済教科書）
 - 『中学社会 公民 とともに生きる』（教育出版 文科省検定済教科書）
- ※各分野とも平成24年度版以降のものを用意すること

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『学習指導要領解説 社会編』（文部科学省 平成20年9月 平成26年1月一部改訂）
- 『詳説 日本史研究』（佐藤信ほか 山川出版社）
- 『新詳地理資料COMPLETE』（帝国書院）
- 『新詳 資料 地理の研究』（帝国書院）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義概要の説明 【授業とは何か】【社会科の特性】【“資格”と“資質”】【技術の前に…】
- 第2回 学習指導案の作成 【実践的な視点の指導案】【教材研究と指導】【指導と評価】
- 第3回 模擬授業・地理的分野① 【世界地理・総論】【世界地理の捉え方】
- 第4回 模擬授業・地理的分野② 【世界地理・各論】【州ごとの指導における着重点】
- 第5回 模擬授業・地理的分野③ 【日本地理・総論】【日本地理の捉え方】
- 第6回 模擬授業・地理的分野④ 【日本地理・各論】【地域ごとの指導における着重点】
- 第7回 模擬授業・歴史的分野① 【原始・古代】
- 第8回 模擬授業・歴史的分野② 【古代・中世】
- 第9回 模擬授業・歴史的分野③ 【中世・近世】
- 第10回 模擬授業・歴史的分野④ 【近世・近現代】
- 第11回 模擬授業・公民的分野① 【憲法】
- 第12回 模擬授業・公民的分野② 【政治】
- 第13回 模擬授業・公民的分野③ 【経済】
- 第14回 模擬授業・公民的分野④ 【現代社会】
- 第15回 まとめ、教育実習や採用試験に向けて 【教育現場】【生徒指導】【講師と教諭】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、指導案作成と授業への参加度 40%、平素の受講姿勢 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書については、文部科学省検定済教科書(中学校で実際に生徒が使用しているもの)を使用します。通常の書店では入手できませんので、ご注意ください。入手法については全国教科書供給協会のホームページで確認できます。
また、学習指導要領は平成26年1月に一部改訂されました。製本済みのものを購入する場合はもちろん、文部科学省のホームページでダウンロードする場合も、一部改訂が反映されていることを必ず確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、模擬授業を通して学校教育の中核である「授業」の実践力を身につけることを目指しています。生徒が「分かる」「楽しい」「知りたい」と感じる授業は、教える側が「分かっている」「興味深い」「教えたい」と考えている授業ではないでしょうか。教材研究は大変な作業ですが、やりだすと非常に楽しい営みです。教壇に立ちたいと願う皆さんに、まず社会科の楽しさやおもしろさを感じてもらいたいと思っています。

社会科教育法D 【夜】

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理
- 2回 これからの教師に求められる資質とは(外部講師による講演)
- 3回 教師の使命感、責任感、教育的愛情とは(グループ討論)
- 4回 教員に求められる対人関係能力について
- 5回 生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
- 6回 教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の作成
- 7回 教科の授業のスキルアップその1(わかりやすい話し方、板書の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 8回 教科の授業のスキルアップその2(生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 9回 教科の授業のスキルアップその3(わかりやすい資料提示、情報機器の活用の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 10回 教科の授業のスキルアップその4(効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方(模擬授業及びグループ討論))
- 11回 保護者との信頼関係づくりの課題(グループ討論)
- 12回 家庭・地域との連携・協力に向けての課題(グループ討論)
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育を中心に)
- 15回 教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 50%、期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 村上 太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉症スペクトラム障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------|------------|
| 1回 | 第九課 | ポイント説明 |
| 2回 | 第九課 | 宮島と下関（本文） |
| 3回 | 第十課 | ポイント説明 |
| 4回 | 第十課 | 九州（本文） |
| 5回 | 第十一課 | ポイント説明 |
| 6回 | 第十一課 | 福岡（本文） |
| 7回 | 第十二課 | ポイント説明 |
| 8回 | 第十二課 | 佐賀（本文） |
| 9回 | 第十三課 | ポイント説明 |
| 10回 | 第十三課 | 長崎（本文） |
| 11回 | 第十四課 | ポイント説明 |
| 12回 | 第十四課 | 四国（本文） |
| 13回 | 第十五課 | ポイント説明 |
| 14回 | 第十五課 | 仙台と北海道（本文） |
| 15回 | 総合練習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解